

桑名市
健康と福祉に関する市民アンケート
結果報告書
【速報版】

2019年(平成31)年2月

もくじ

調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査方法、回収結果等	1
3 集計・分析にあたって	2

第1章 住民一般調査

1 調査対象者の属性等	4
2 健康について	11
3 地域の活動等について	24
4 地域の課題等について	33
5 福祉・介護の考え方等について	50
6 福祉に関する情報や相談について	54
7 生活困窮者の自立支援について	61
8 幸福感について	64

第2章 中学生調査

(単純集計表)	68
---------------	----

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、市民の健康の状態、地域活動やボランティア活動への参加状況、地域に対する考え方や課題、福祉についての考え方等を把握し、2019年度に策定する「桑名市地域福祉保健計画」（仮称）の基礎資料とすることを目的としています。

2 調査方法、回収結果等

(1) 住民一般調査

調査対象者：2018年10月31日現在、18歳以上の市民3,000人を無作為に抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収

調査期間：2018年11月28日～12月14日

回収結果

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
3,000	1,311	43.7%	1,307	43.6%

(2) 中学生調査

調査対象者：2018年12月5日現在、市内公立中学校に通う2年生全員

調査方法：各学校を通じて配布・回収

調査期間：2018年12月5日～12月14日

回収結果

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
1,283	1,227	95.6%	1,227	95.6%

3 集計・分析にあたって

- ① 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- ② 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- ③ 住民一般調査には、年齢不詳が10人、性別不詳が7人、居住地域不詳が12人、世帯状況不詳が15人あります。
- ④ 2002年に実施した「桑名市福祉のまちづくり意識調査」及び2005年に多度・長島地域で実施した「桑名市(多度・長島地域)福祉のまちづくり意識調査」並びに2012年に実施した「桑名市地域福祉に関する市民アンケート」のうち同様または類似した設問については、今回の住民一般調査と比較分析を行いました。この場合、「2002年」とあるのは2002年及び2005年に実施した調査、「2012年」とあるのは2012年に実施した調査をいい、「2018年」とあるのは今回の調査をいいます。
- ⑤ 速報版においては、中学生調査の結果は単純集計表のみを収載しました。

第 1 章 住民一般調査

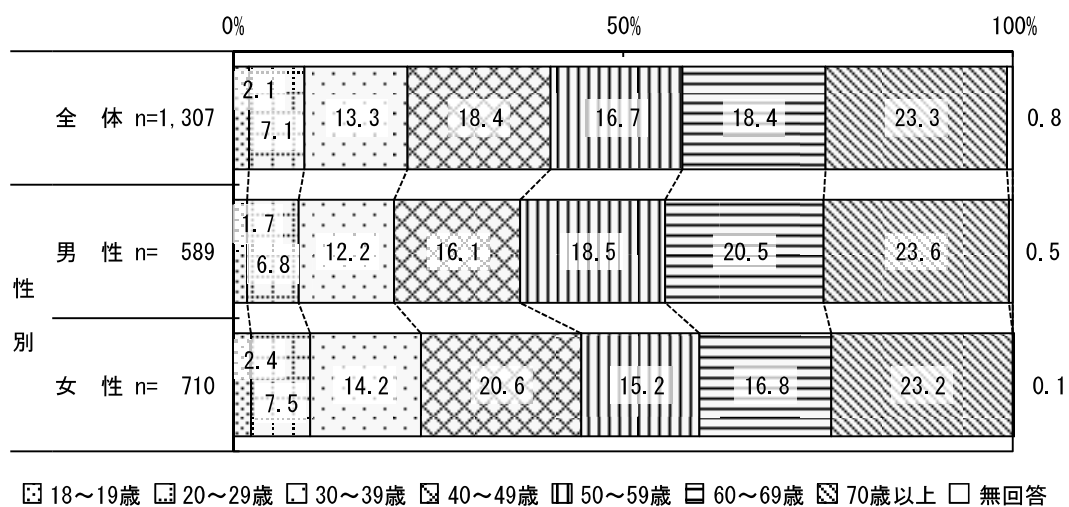
1 調査対象者の属性等

(1) 年齢・性別

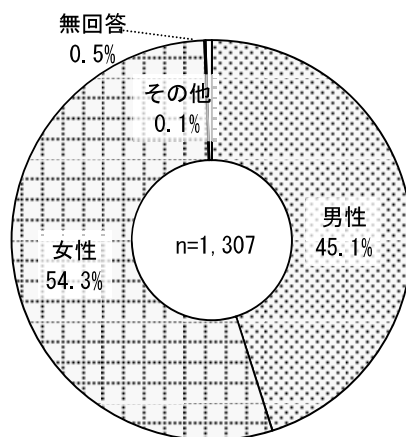
回答者の年齢は、70歳以上が23.3%と最も高く、次いで40～49歳及び60～69歳が18.4%、50～59歳が16.7%、30～39歳が13.3%となっています。30歳未満は9.2%です（図表1－1）。

性別にみると、男性より女性が高くなっています。その他が0.1%（1人）あります（図表1－2）。

図表1－1 年齢別



図表1－2 性別



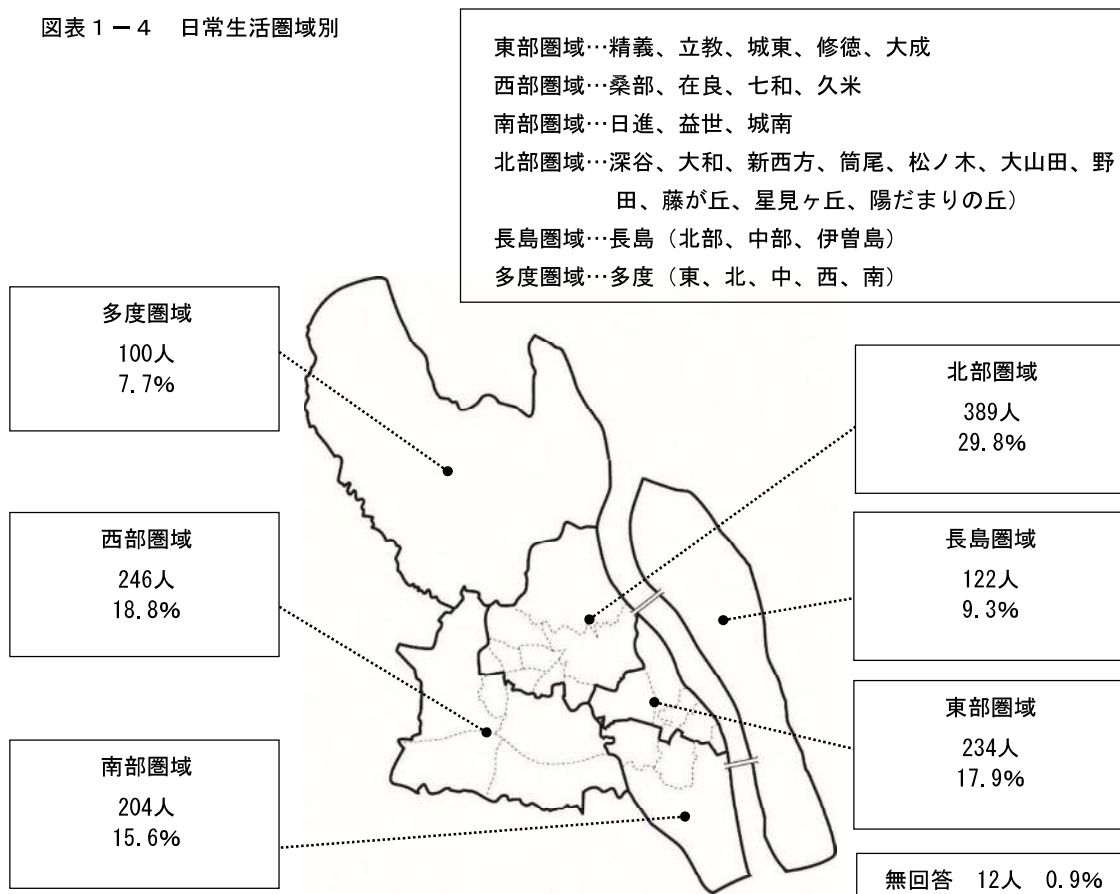
(2) 居住地域

回答者の居住する地区は、図表 1－3 のとおりです。また、これを桑名市地域包括ケア計画（第 7 期介護保険事業計画・第 8 期老人福祉計画）で設定した日常生活圏域別にみると図表 1－4 のとおりとなります。

図表 1－3 居住地域

地区	日進地区	精義地区	立教地区	城東地区	益世地区	修徳地区	大成地区	大和地区	桑部地区	在良地区	七和地区	深谷地区	久米地区	城南地区	筒尾地区	松ノ木地区
人	58	40	29	18	69	61	86	31	46	82	54	36	64	77	38	43
%	4.4	3.1	2.2	1.4	5.3	4.7	6.6	2.4	3.5	6.3	4.1	2.8	4.9	5.9	2.9	3.3
地区	大山田地区	野田地区	藤が丘地区	区 星見ヶ丘地区	新西方地区	地区 陽だまりの丘	多度中区	多度東地区	多度南地区	多度西地区	多度北地区	区 長島北部地区	区 長島中部地区	長島伊曾島地区	無回答	合計
人	36	24	32	48	36	65	53	13	13	4	17	37	55	30	12	1,307
%	2.8	1.8	2.4	3.7	2.8	5.0	4.1	1.0	1.0	0.3	1.3	2.8	4.2	2.3	0.9	100.0

図表 1－4 日常生活圏域別



(3) 家族構成（世帯）

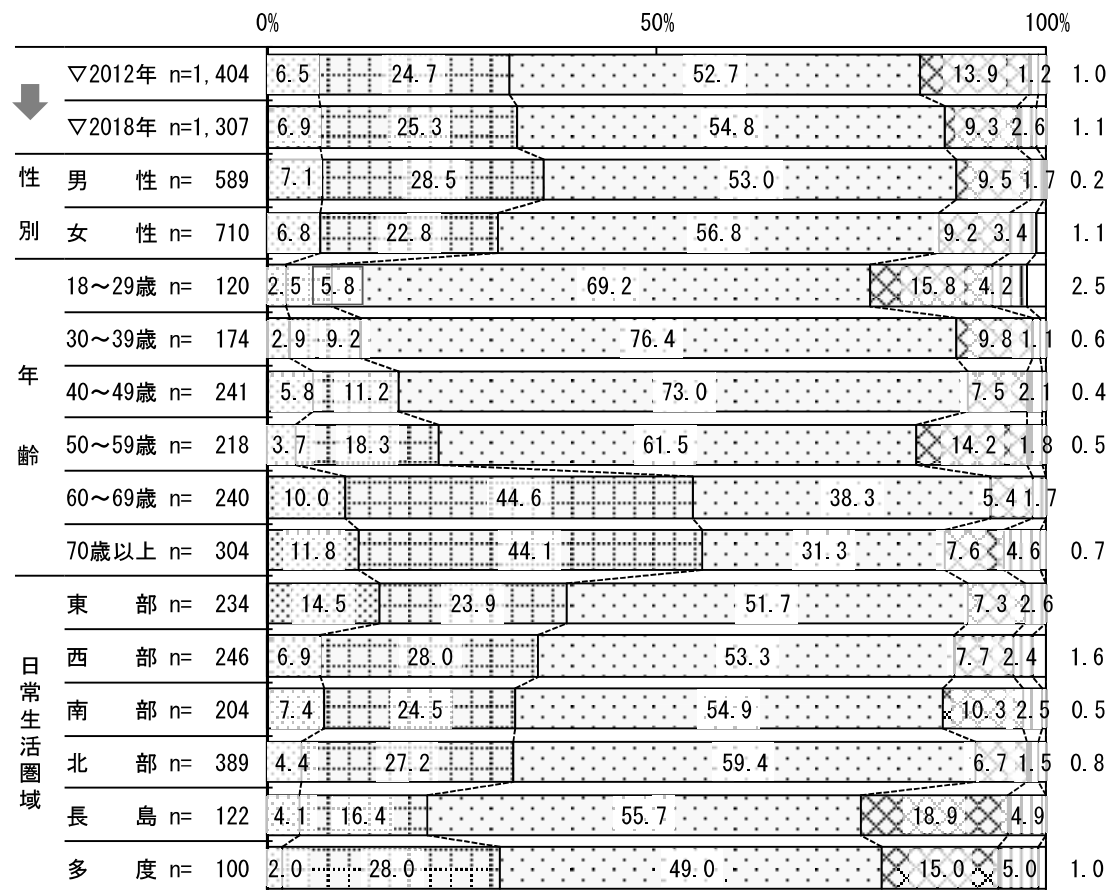
回答者の家族構成（世帯）は、親と子の「二世世代世帯」が54.8%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」（25.3%）、祖父母と親と子の「三世世代世帯」（9.3%）の順となっています。2012年との比較では、「三世世代世帯」が4ポイント以上低くなっています。

年齢別にみると、「一人暮らし」は70歳以上、「夫婦のみの世帯」は60～69歳、「二世世代世帯」は30～39歳、「三世世代世帯」は18～29歳が、それぞれ高くなっています。

日常生活圏域別にみると、長島及び多度では「三世世代世帯」が15%以上と他の圏域に比べ高くなっています。

「その他」としては「兄弟姉妹」「内縁の夫・妻」「四世代世帯」等の記載がありました。

図表 1－5 家族構成（世帯）



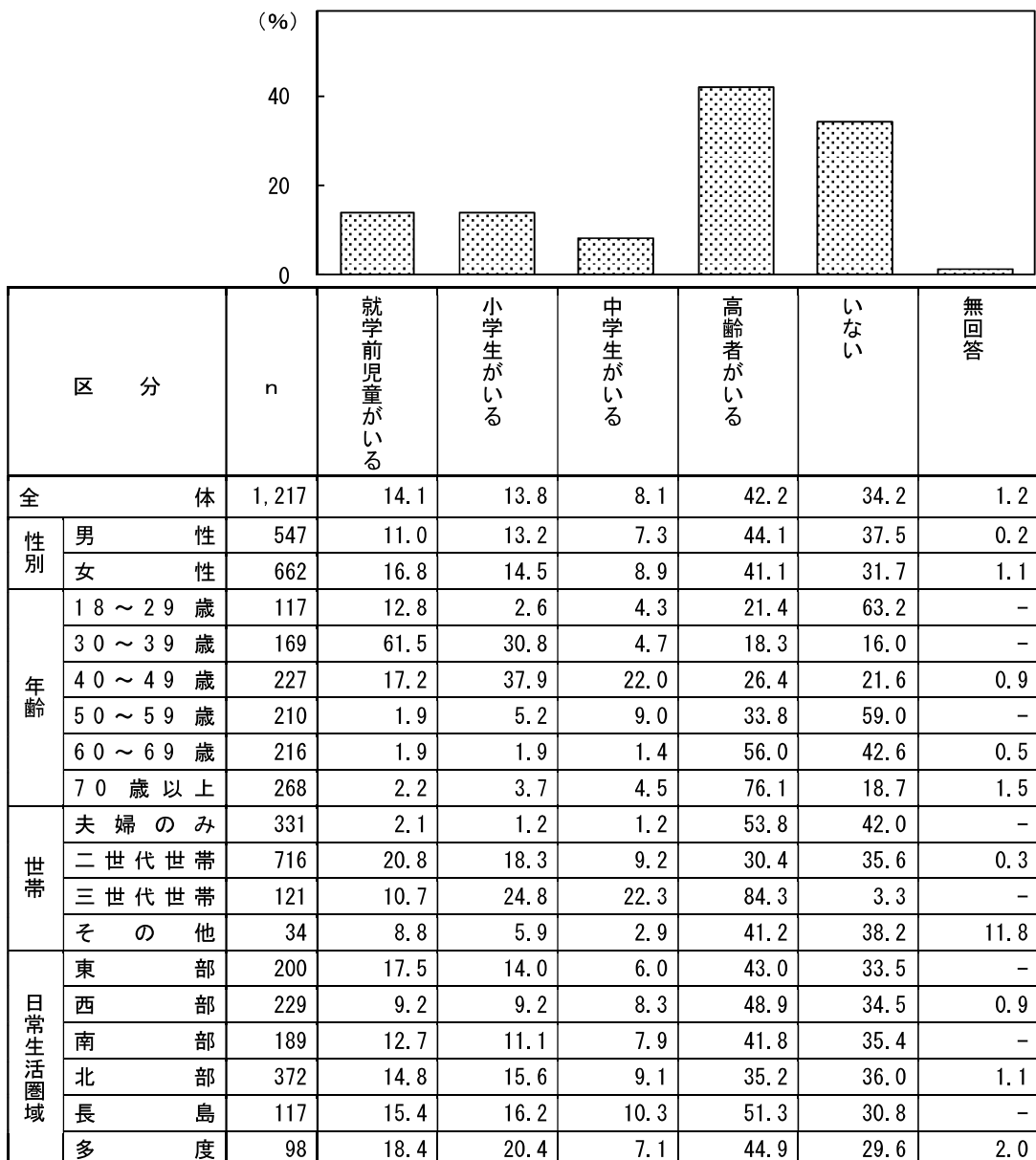
□ 一人暮らし □ 夫婦のみ □ 二世世代世帯 □ 三世世代世帯 □ その他 □ 無回答

(4) 同居家族に子どもや高齢者がいる世帯

一人暮らしの世帯を除き、同居している家族の中に子どもか高齢者がいるか否かをみると、「高齢者がいる」は42.2%、「就学前児童がいる」は14.1%、「小学生がいる」は13.8%、「中学生がいる」は8.1%です。「就学前児童がいる」は30～39歳、「小学生がいる」及び「中学生がいる」は40～49歳がそれぞれ最も高くなっています。一方、「高齢者がいる」は年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。

図表 1-6 子どもや高齢者がいる世帯(複数回答)

単位：％（nは人）



(5) 就業・就学状況

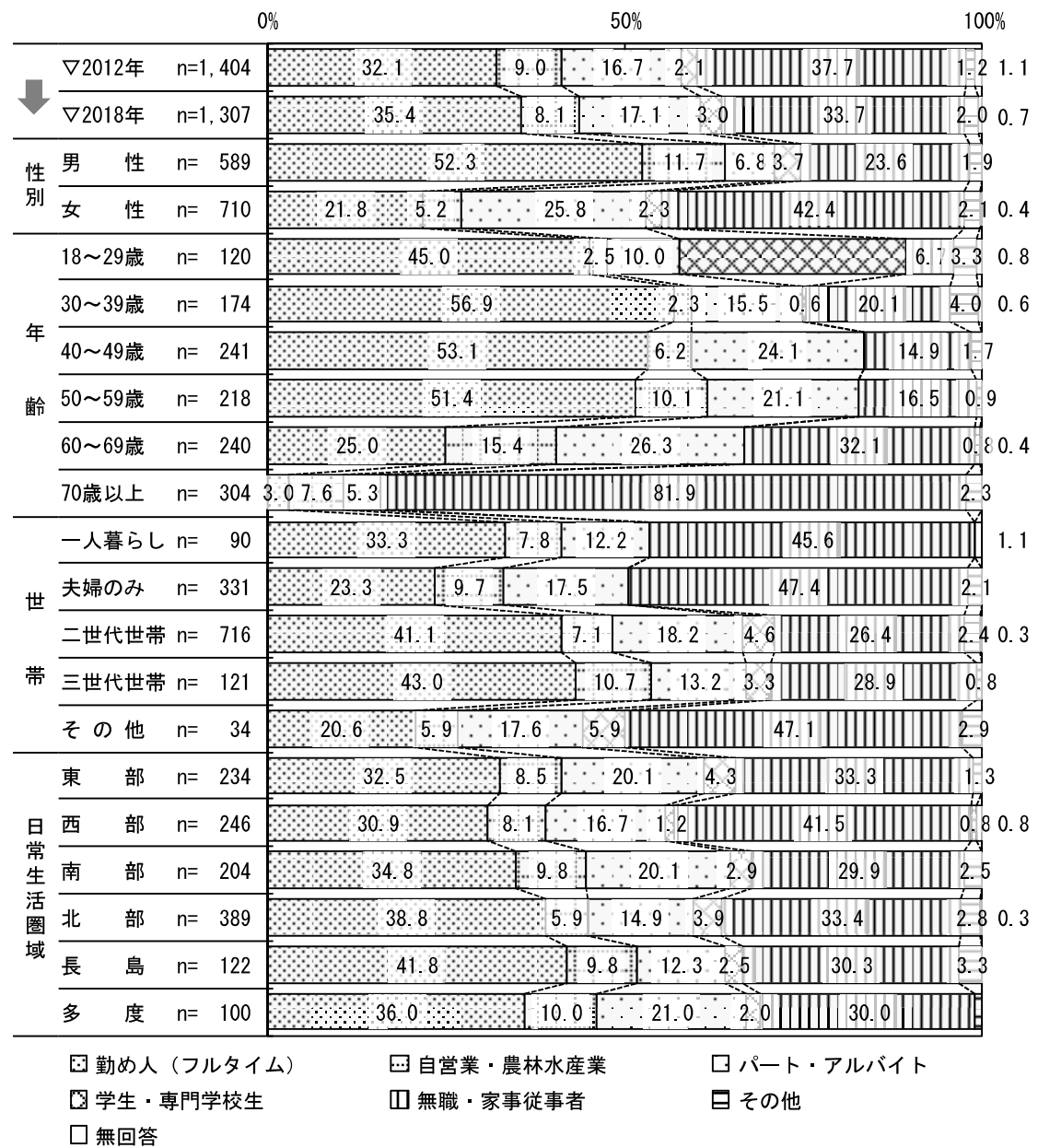
現在の就業・就学状況は、全体では「勤め人（フルタイム）」が35.4%と最も高く、次いで「無職・家事従業者」（33.7%）、「パート・アルバイト」（17.1%）、「自営業・農林水産業」（8.1%）などの順となっています。

男性は「勤め人（フルタイム）」が52.3%を占めているのに対し、女性は主婦が多くを占めているため「無職・家事従業者」が42.4%と最も高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるにしたがい「無職・家事従業者」が高くなる傾向にあります。

「その他」として、「育児休業中等」「就労継続支援」等の記入がありました。

図表1-7 就業・就学状況

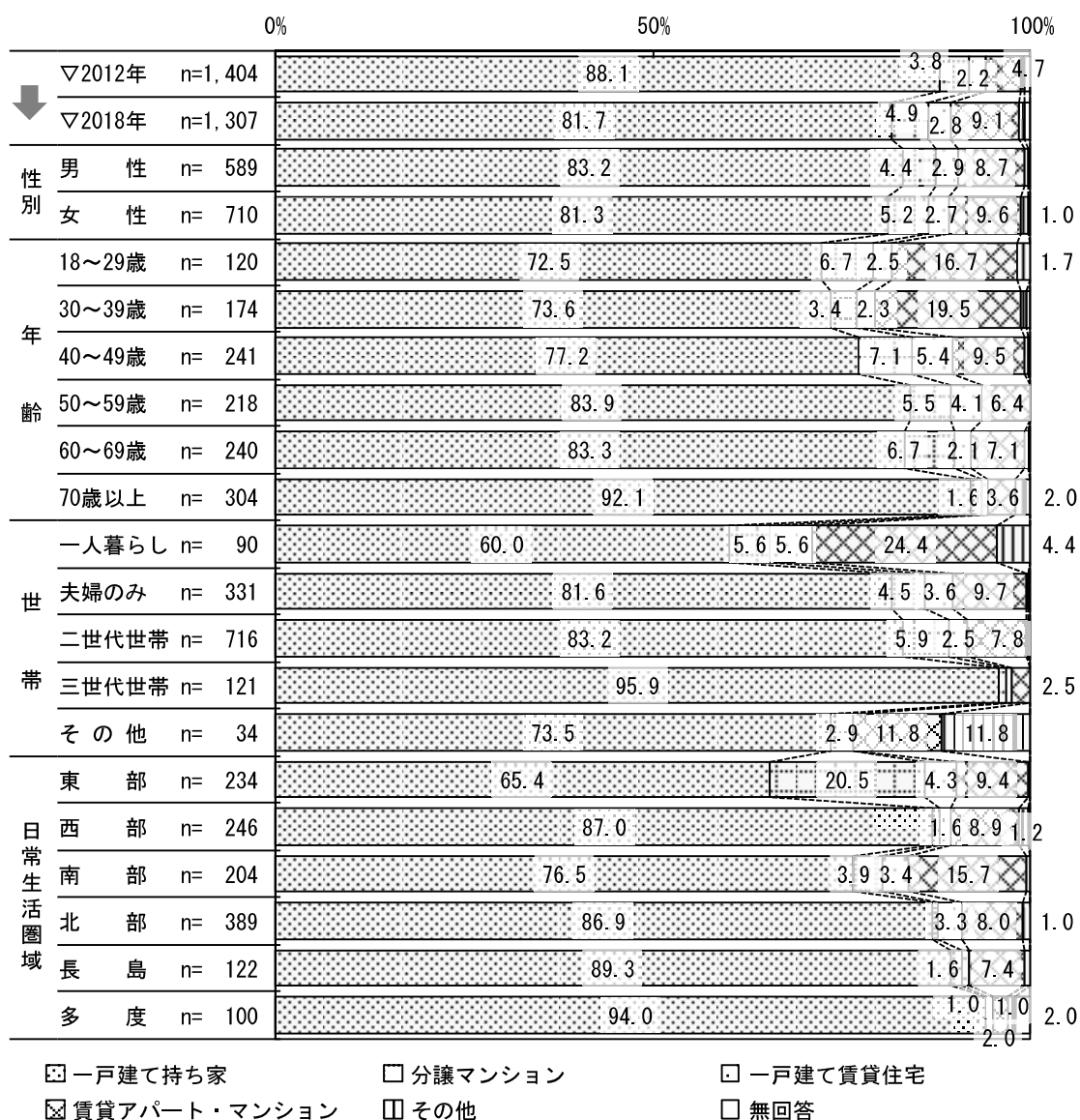


(6) 住まい

住まいは、「一戸建て持ち家」が81.7%を占めています。年齢別の18～29歳及び30～39歳、世帯別の一人暮らしの「賃貸アパート・賃貸マンション」が、比較的高くなっています。また、日常生活圏域別では、東部において「分譲マンション」が20%を超えています。

「その他」として、「施設入所中」（8件）という記入がありました。

図表1-8 住まい

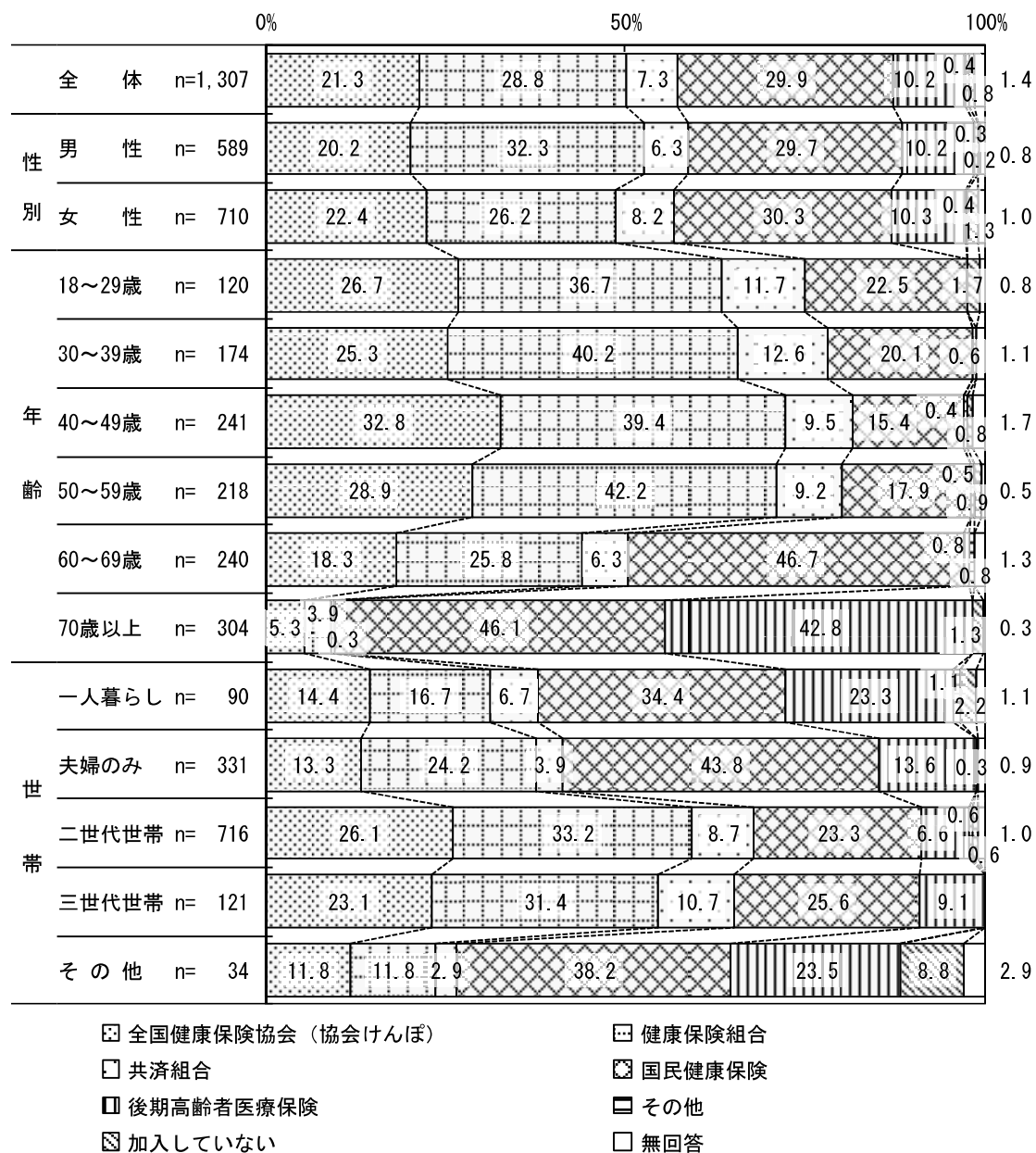


(注) 1%未満の数値はグラフ上の表記を省略してあります。

(7) 健康保険の種類

加入している健康保険の種類は、「国民健康保険」が29.9%、「健康保険組合」が28.8%、「全国健康保険協会（協会けんぽ）」が21.3%などとなっています。「加入していない」が0.8%あります。年齢別にみると、60歳未満では「健康保険組合」が、60歳以上では「国民健康保険」が最も高くなっています。

図表1-9 健康保険の種類

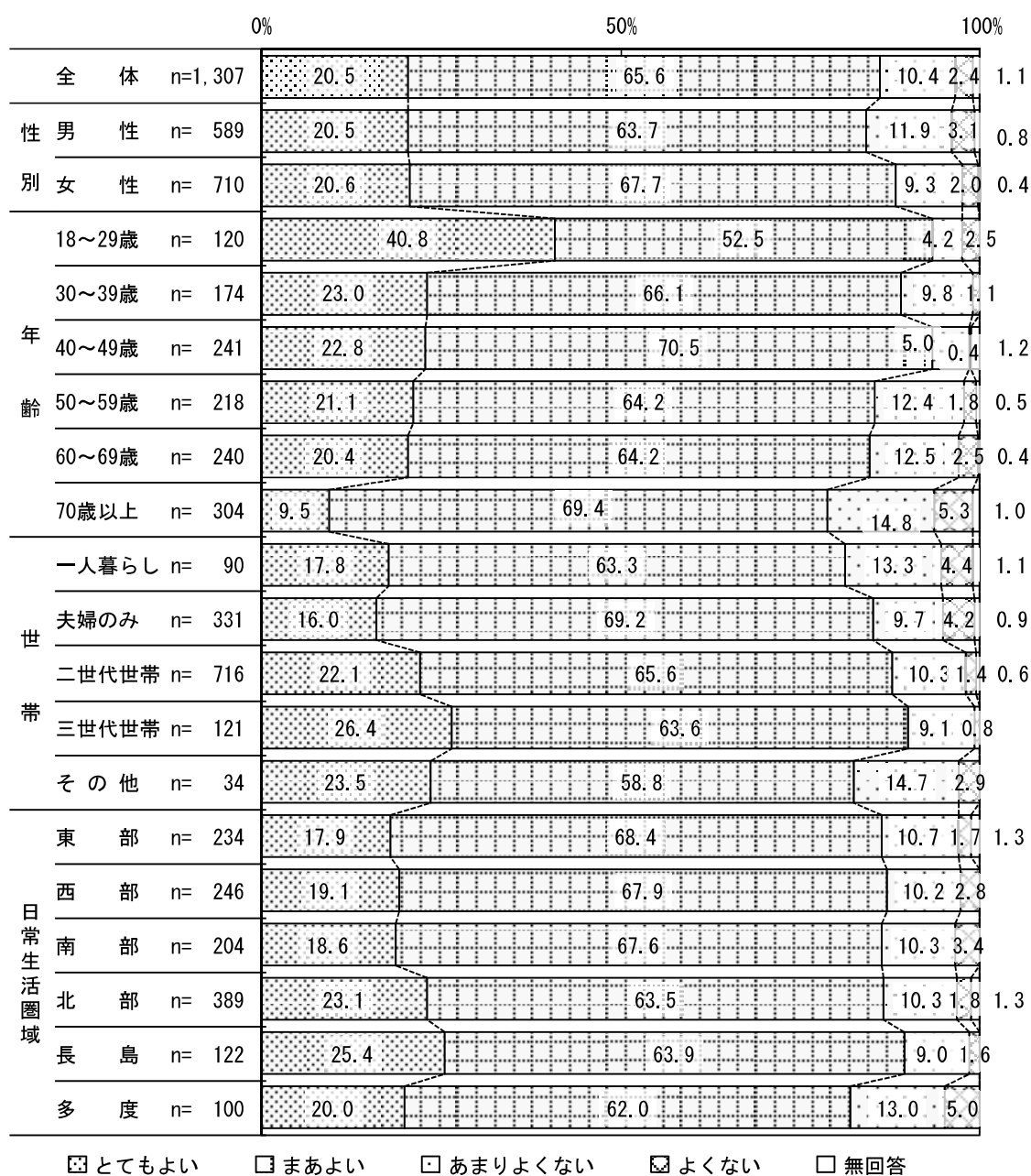


2 健康について

(1) 健康状態

日ごろの健康状態についてたずねたところ、「まあよい」(65.6%)と「とてもよい」(20.5%)の合計である<良い>は86.1%、「あまりよくない」(10.4%)と「よくない」(2.4%)の合計である<良くない>は12.8%となっています。年齢別にみると、年齢が上がるほど<良くない>が高くなる傾向にありますが、70歳以上でも<良い>が78.9%を占めています。

図表1-10 健康状態



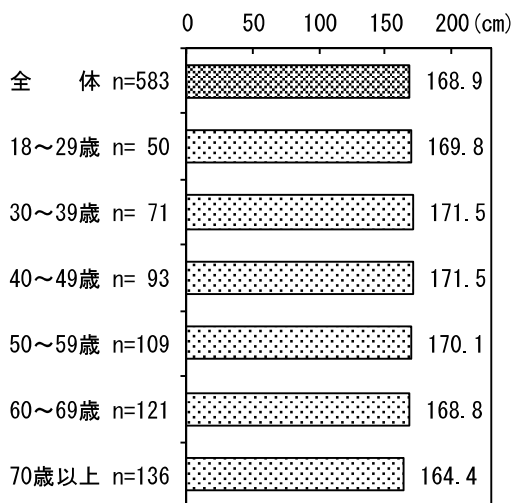
第1章 住民一般調査

(2) 平均身長

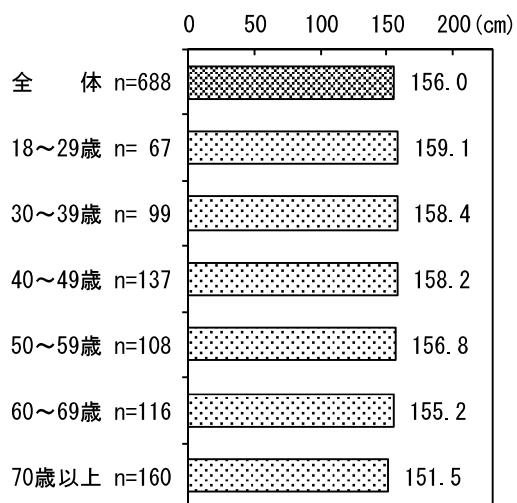
回答者の平均身長は、男性が168.9cm、女性が156.0cmです。

図表1-11 平均身長

① 男性



② 女性

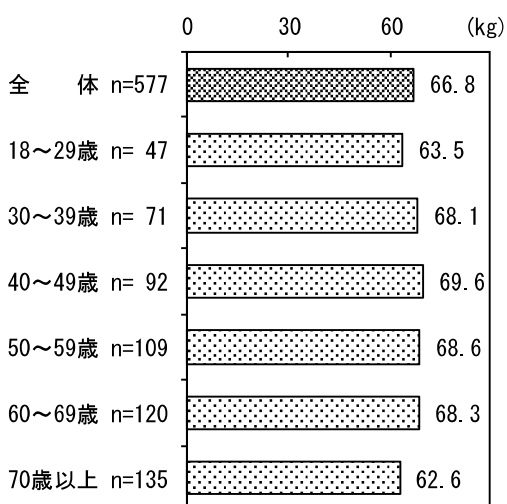


(3) 平均体重

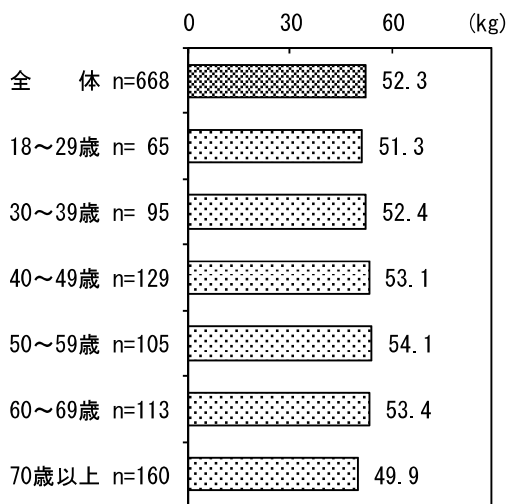
回答者の平均体重は、男性が66.8kg、女性が52.3kgです。

図表1-12 平均体重

① 男性



② 女性



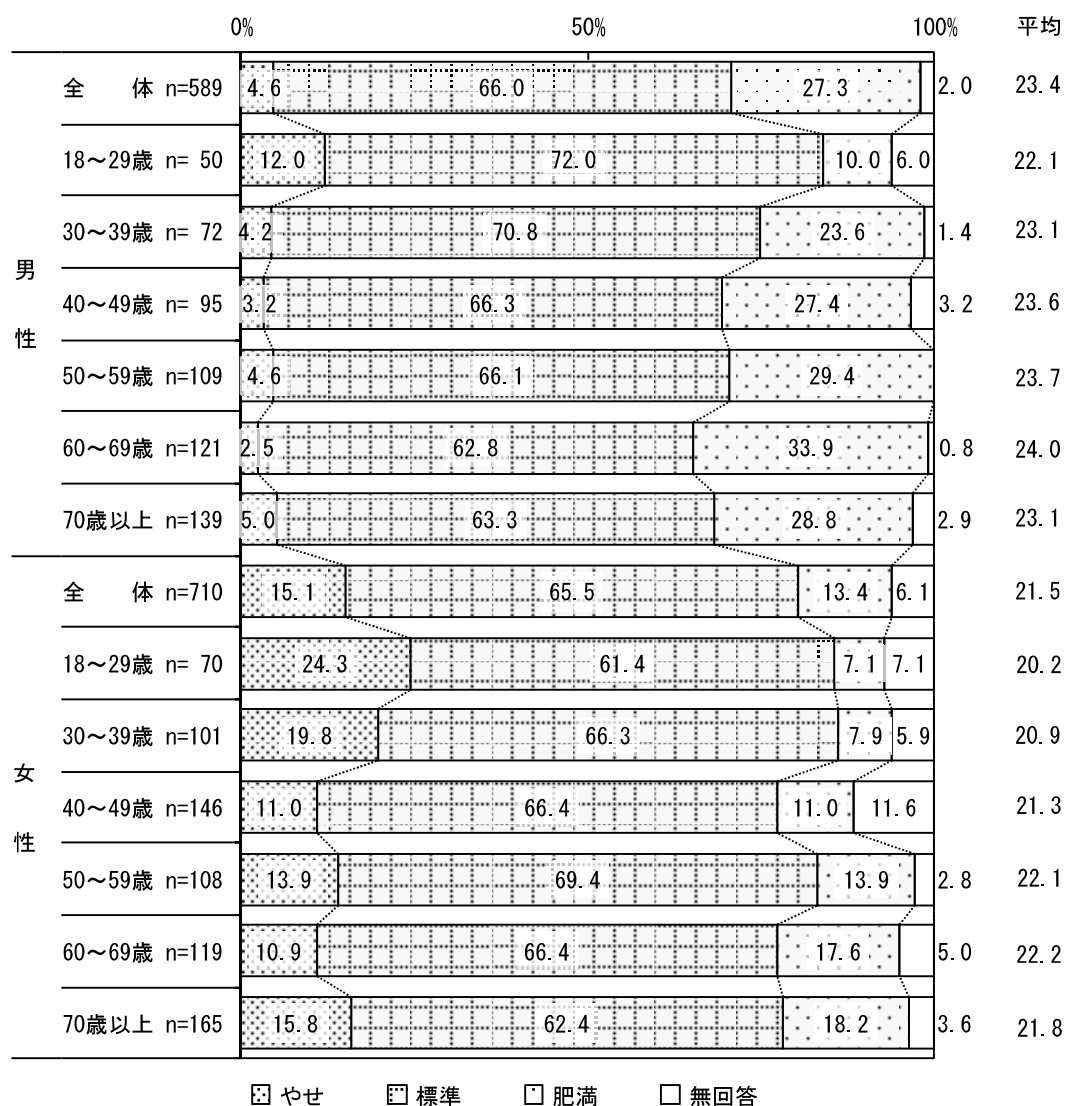
(4) BMI

BMIは世界共通の肥満度の指標で、下記の算式により求められます。BMIは22が標準で、18.5未満を「やせ」、25.0以上を「肥満」としており、25.0以上の「肥満」の人は、メタボリックシンドローム、あるいは特定保健指導の対象となる可能性が高いと考えられます。

男性の平均は23.4、女性の平均は21.5となっており、「肥満」の率は女性に比べて男性が高くなっています。性・年齢別にみると、男性の60～69歳の「肥満」が30%を超える高い率となっています。一方、女性は18～29歳の「やせ」が24.3%と比較的高くなっています。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$$

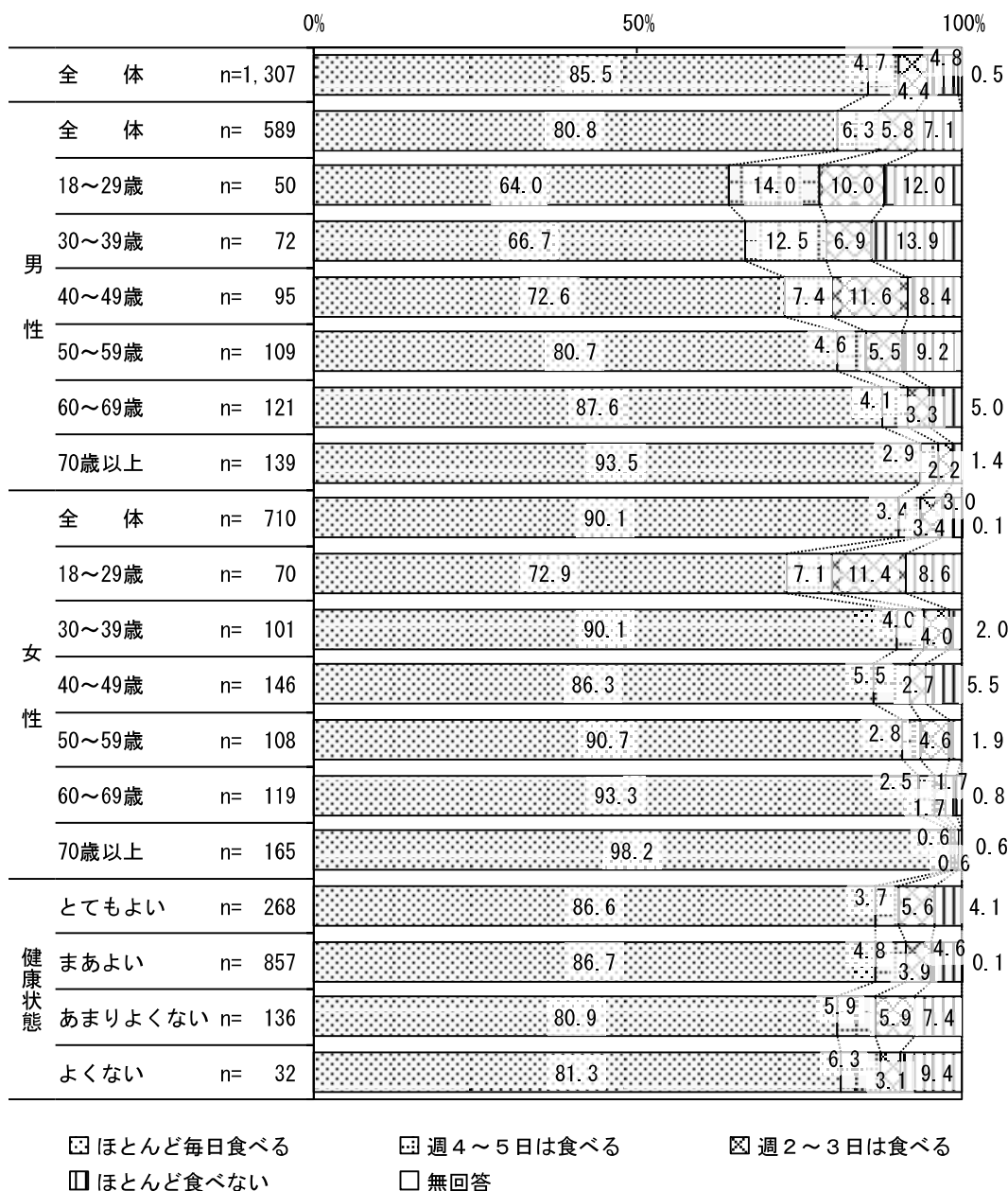
図表1-13 BMI



(5) 3食を規則正しくとっているか

「あなたは、ふだん朝・昼・晩3食を食べていますか」という設問に対しては、「ほとんど毎日食べる」が85.5%を占めています。「ほとんど食べない」は4.8%ですが、男性の40歳未満では10%を超えています。健康状態について「とてもよい」または「よい」と回答した人は「ほとんど毎日食べる」が85%を超えています。

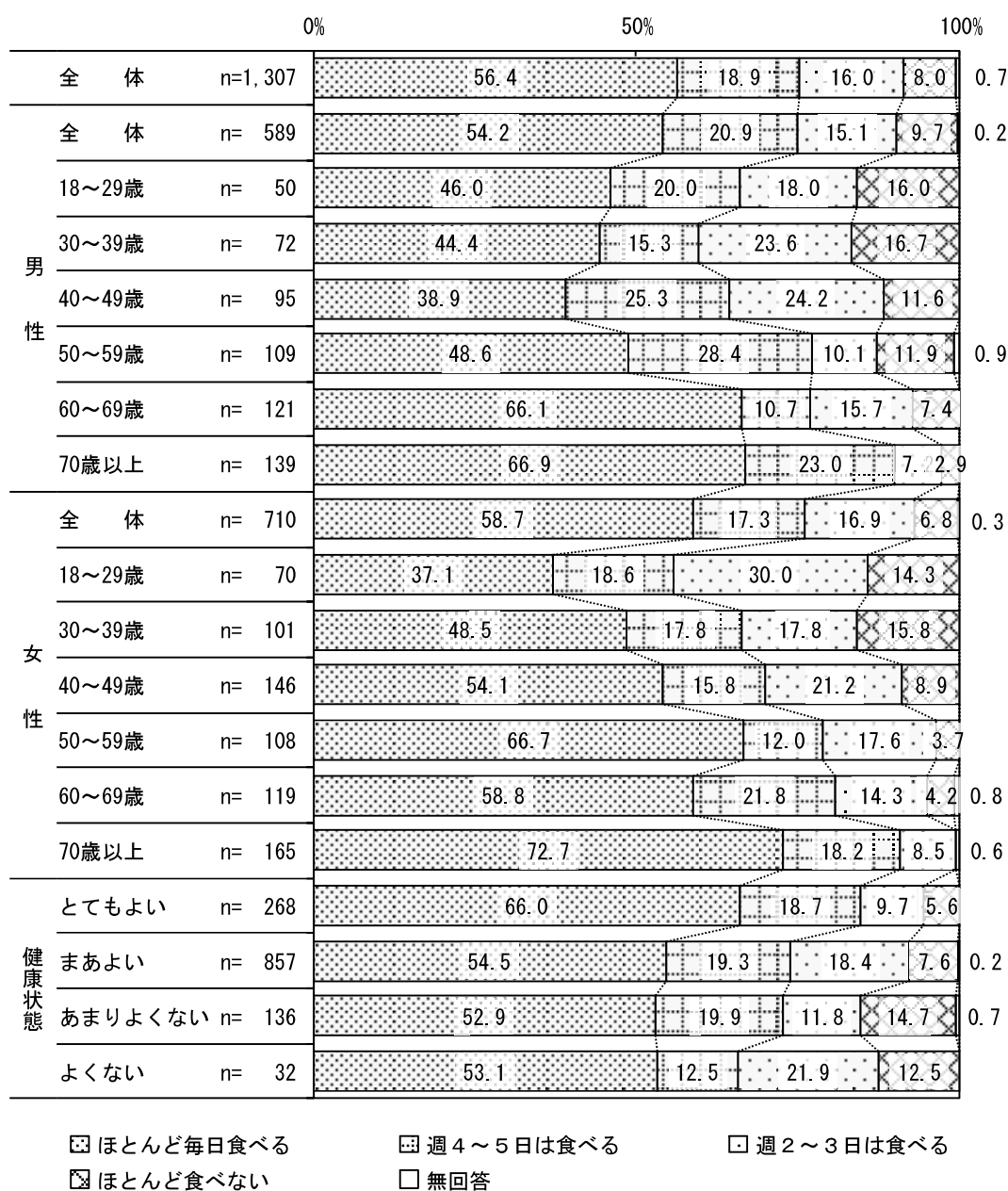
図表1-14 3食を規則正しくとっているか



(6) 主食、主菜、副菜をそろえて食べる頻度

「あなたは、主食（ごはん・パン・麺など）、主菜（肉・魚・卵・大豆などを使ったメインの料理）、副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある日が週に何日ありますか」という設問に対しては、「ほとんど毎日食べる」は56.4%、「週4～5日は食べる」が18.9%などとなっています。「ほとんど食べない」は8.0%ですが、男女とも40歳未満では15%前後となっています。健康状態について「とてもよい」と回答した人は「ほとんど毎日食べる」が65%を超えています。

図表1-15 主食、主菜、副菜をそろえて食べる頻度

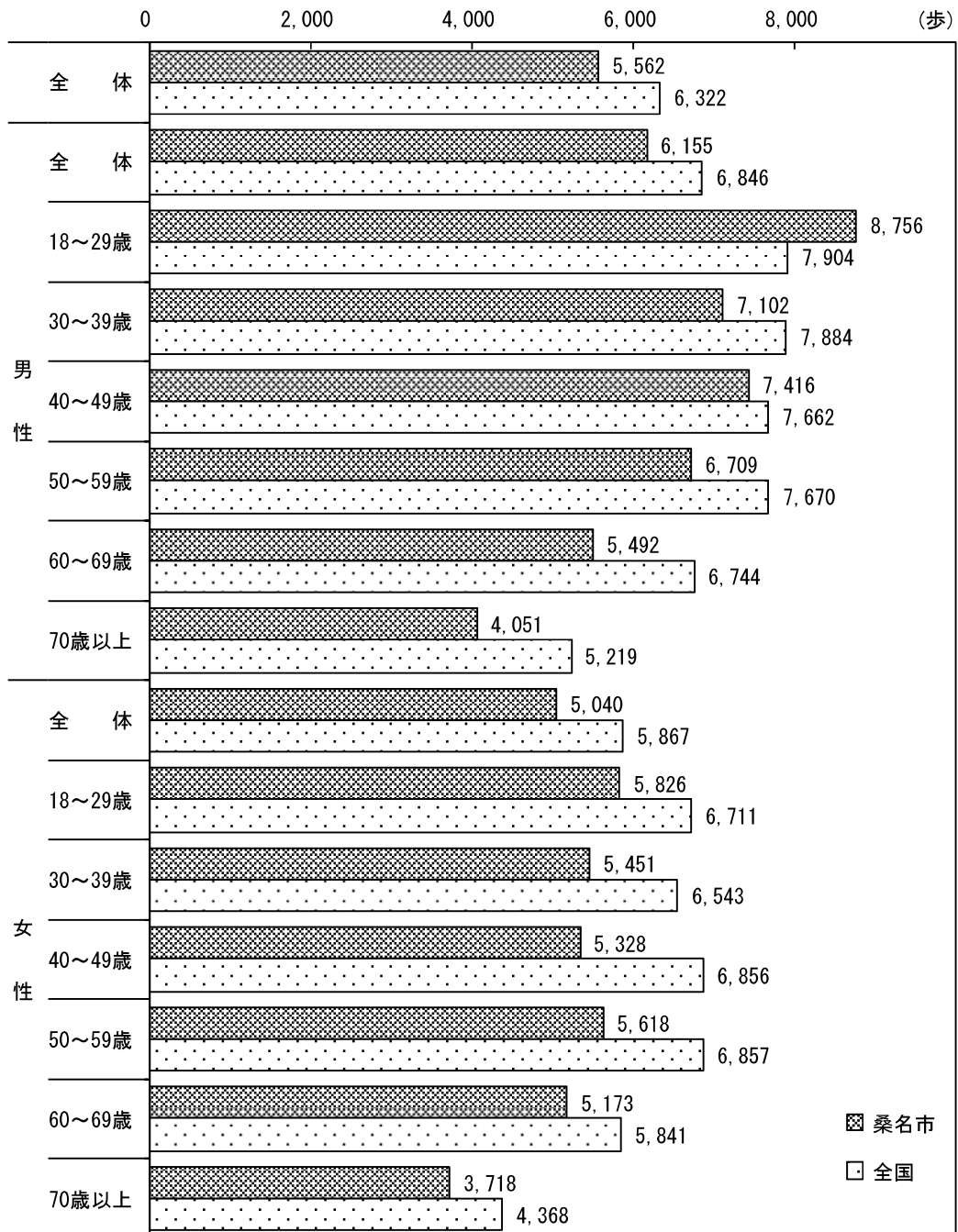


(7) 1日の歩数

日常生活において、屋内も含めた1日の平均歩数は、男性が6,155歩、女性が5,040歩です。男女ともに年齢が上がるにしたがい少なくなる傾向にあります。

全国との比較では、男性が600歩以上、女性が800歩以上少なくなっています。

図表1-16 1日の平均歩数



資料：全国は「平成29年国民健康・栄養調査報告」（厚生労働省）

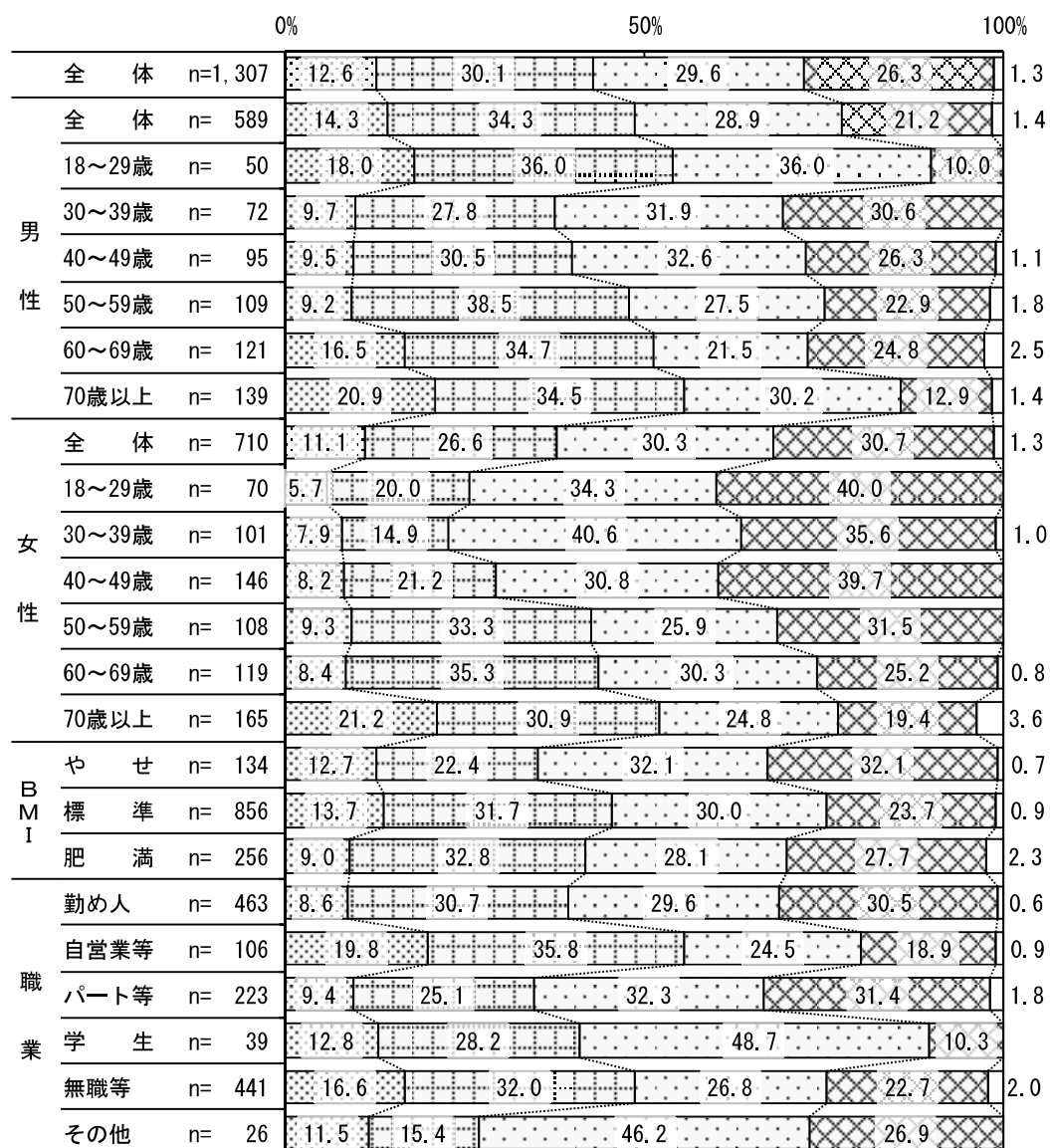
※「18~29歳」の全国は20~29歳の数値

(8) 意識的に運動をしている人の割合

「日常生活のなかで健康の維持・増進のために意識的に汗ばむほどの身体を動かすなど運動をしていますか」という設問に対しては、「いつもしている」(12.6%)と「ときどきしている」(30.1%)を合計した〈している〉は42.7%です。

性・年齢別にみると、男女とも70歳以上の「いつもしている」が20%以上と比較的高くなっています。BMI別にみると、〈している〉はやせが最も低く、標準が最も運動を意識的に行っているという結果となっています。

図表 1-17 意識的に運動をしている人の割合



□ いつもしている

□ ときどきしている

□ 以前はしていたが現在はしていない

□ していない(したことがない)

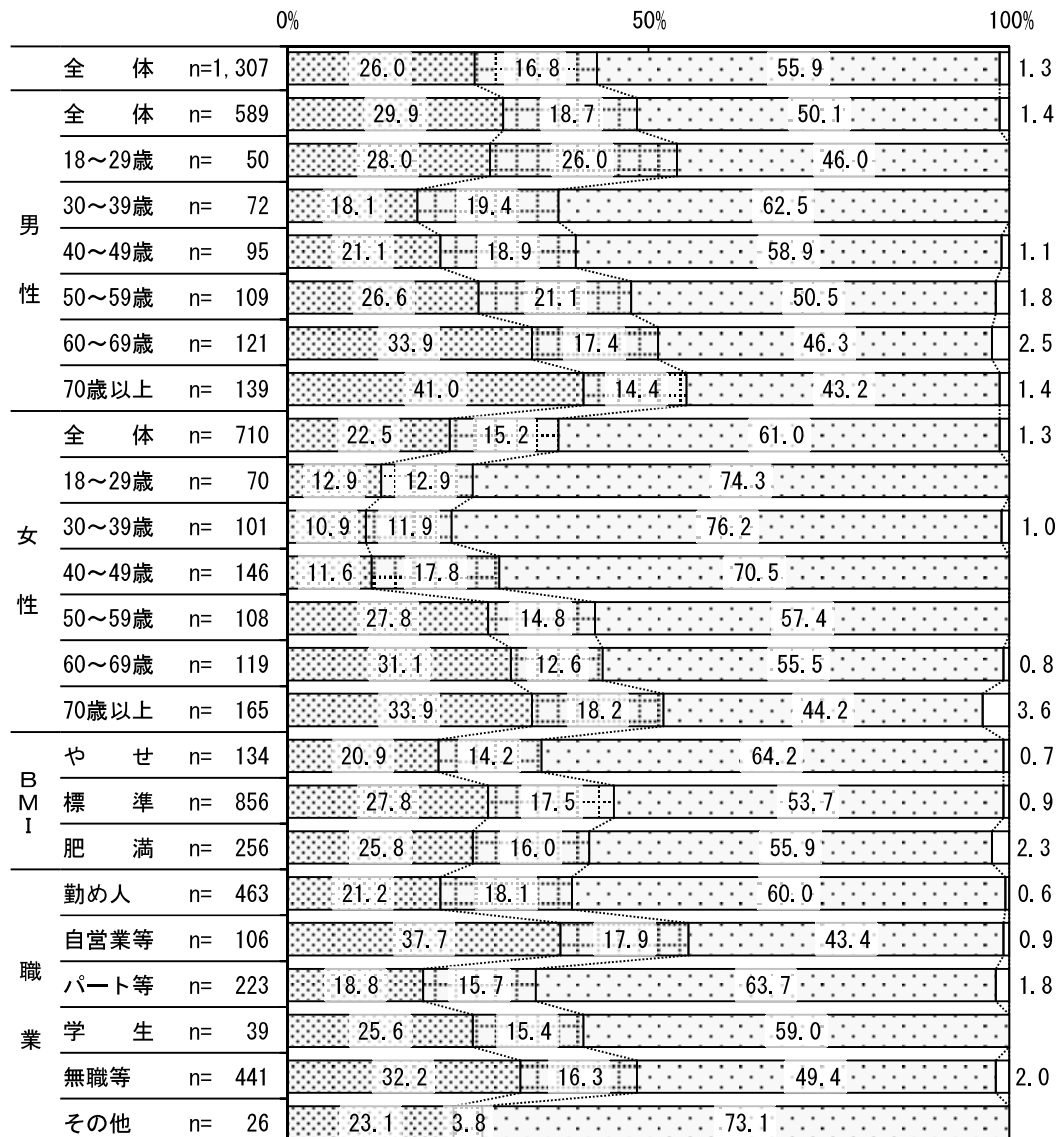
□ 無回答

(9) 運動習慣者

運動習慣者は1日30分以上の運動を、週2回以上実施し、1年以上継続している人を指します。(8)で「いつもしている」または「ときどきしている」と回答した人のうち、運動習慣者に該当する人は全体の26.0%です。

運動習慣者に該当する人の割合は、性・年齢別では男女ともに70歳以上が高く、30～39歳が低くなっています。BMI別ではやせが低く、職業別では自営業等が高いのに対しパート等及び勤め人が低くなっています。

図表1-18 運動習慣者



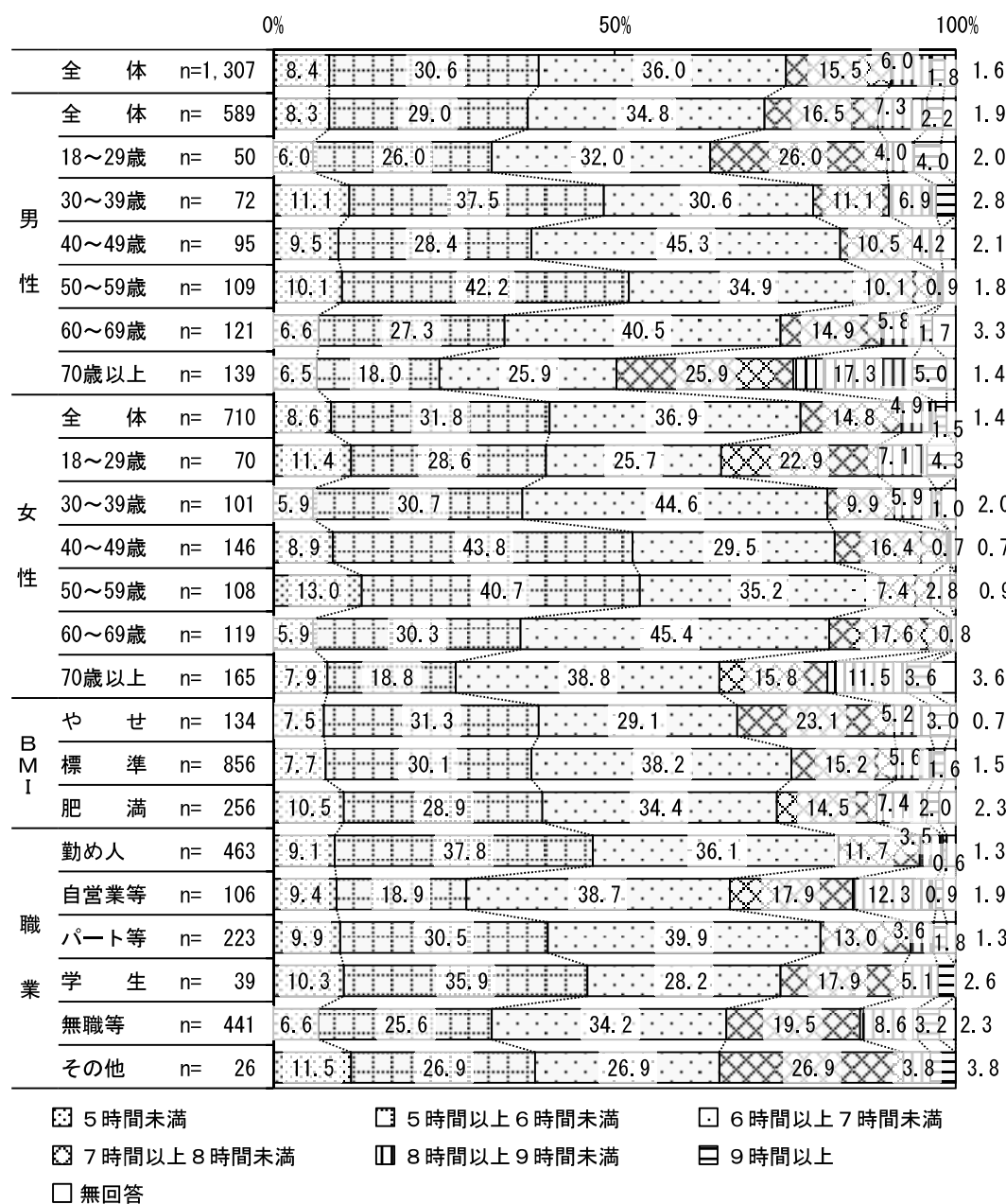
☒ 運動習慣者
 ☒ 運動はしているが該当しない
 ☐ 運動をしていない
 ☐ 無回答

(10) 1日の平均睡眠時間

ここ1か月間の1日の平均睡眠時間をたずねたところ、「6時間以上7時間未満」が36.0%と最も高く、次いで「5時間以上6時間未満」が30.6%、「7時間以上8時間未満」が15.5%となっています。

性・年齢別にみると、男性の30～39歳、50～59歳、女性の18～29歳、50～59歳の「5時間未満」が10%を超えています。

図表1-19 1日の平均睡眠時間

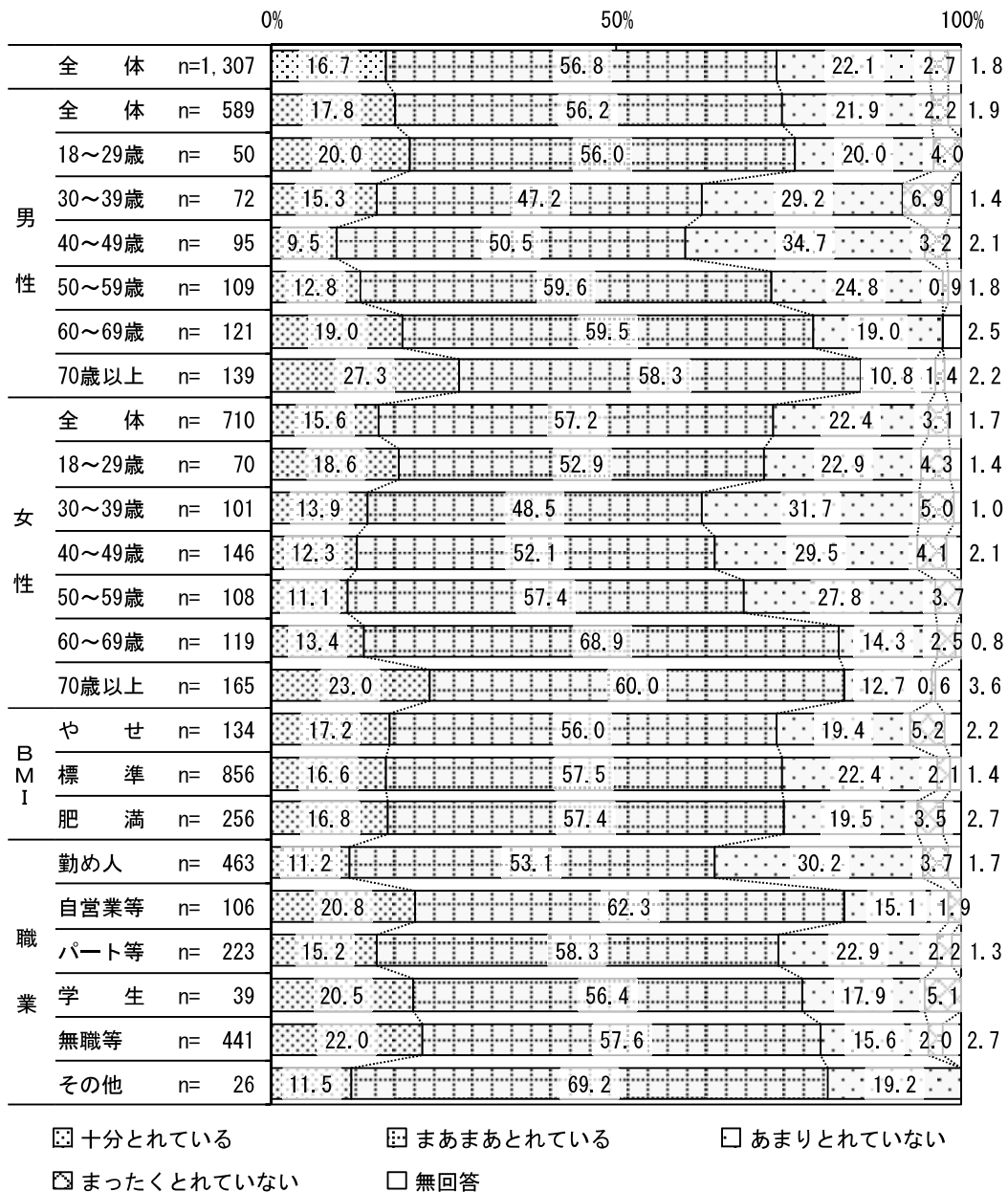


(11) 睡眠で休養がとれているか

「あなたは、日ごろの睡眠で休養が十分にとれていると思いますか」という設問に対しては、「十分とれている」(16.7%)と「まあまあとれている」(56.8%)を合計した〈とれている〉が73.5%、「あまりとれていない」(22.1%)と「まったくとれていない」(2.7%)を合計した〈とれていない〉が24.8%となっています。

〈とれていない〉が高いのは、性・年齢別では男女ともに30～39歳及び40～49歳、職業別では勤め人です。

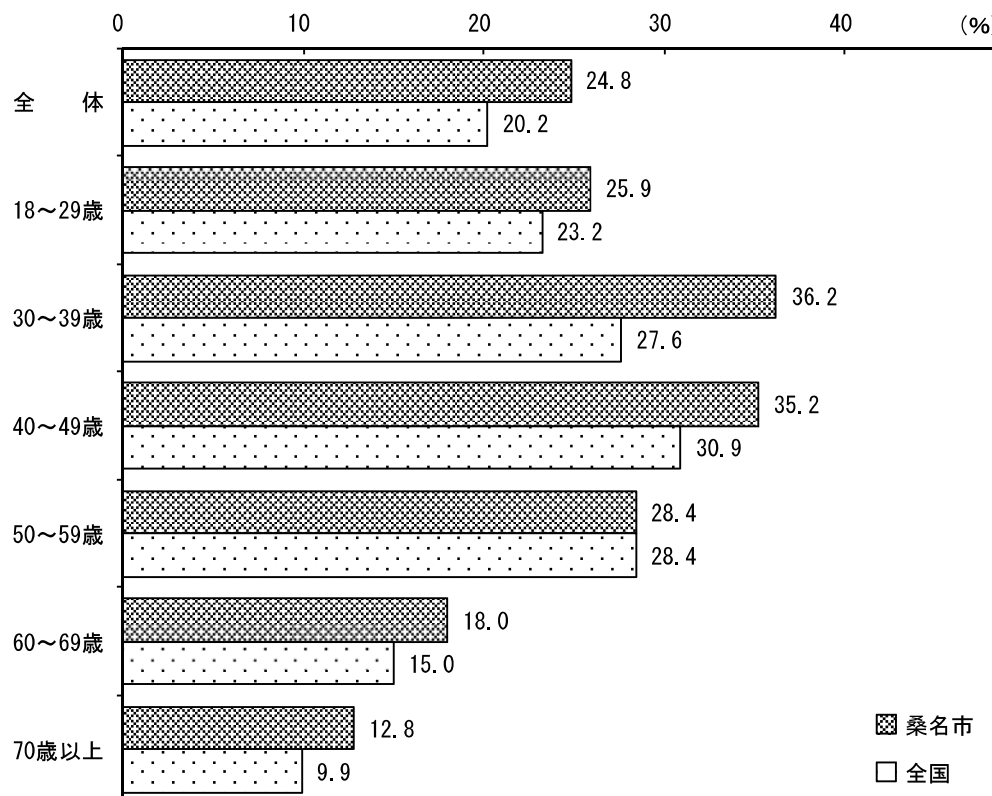
図表 1-20 睡眠で休養がとれているか



図表1-21は睡眠で休養が〈とれていない〉と回答した人の割合を全国と比較したものです。本市は、全国と比べて4.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、50～59歳を除く年齢区分はすべて本市が高くなっています。特に、30～39歳は全国が27.6%であるのに対し、本市は36.2%と8.6ポイントの差があります。

図表1-21 睡眠で休養が〈とれていない〉と回答した人の割合（全国との比較）



資料：全国は「平成29年国民健康・栄養調査報告」（厚生労働省）

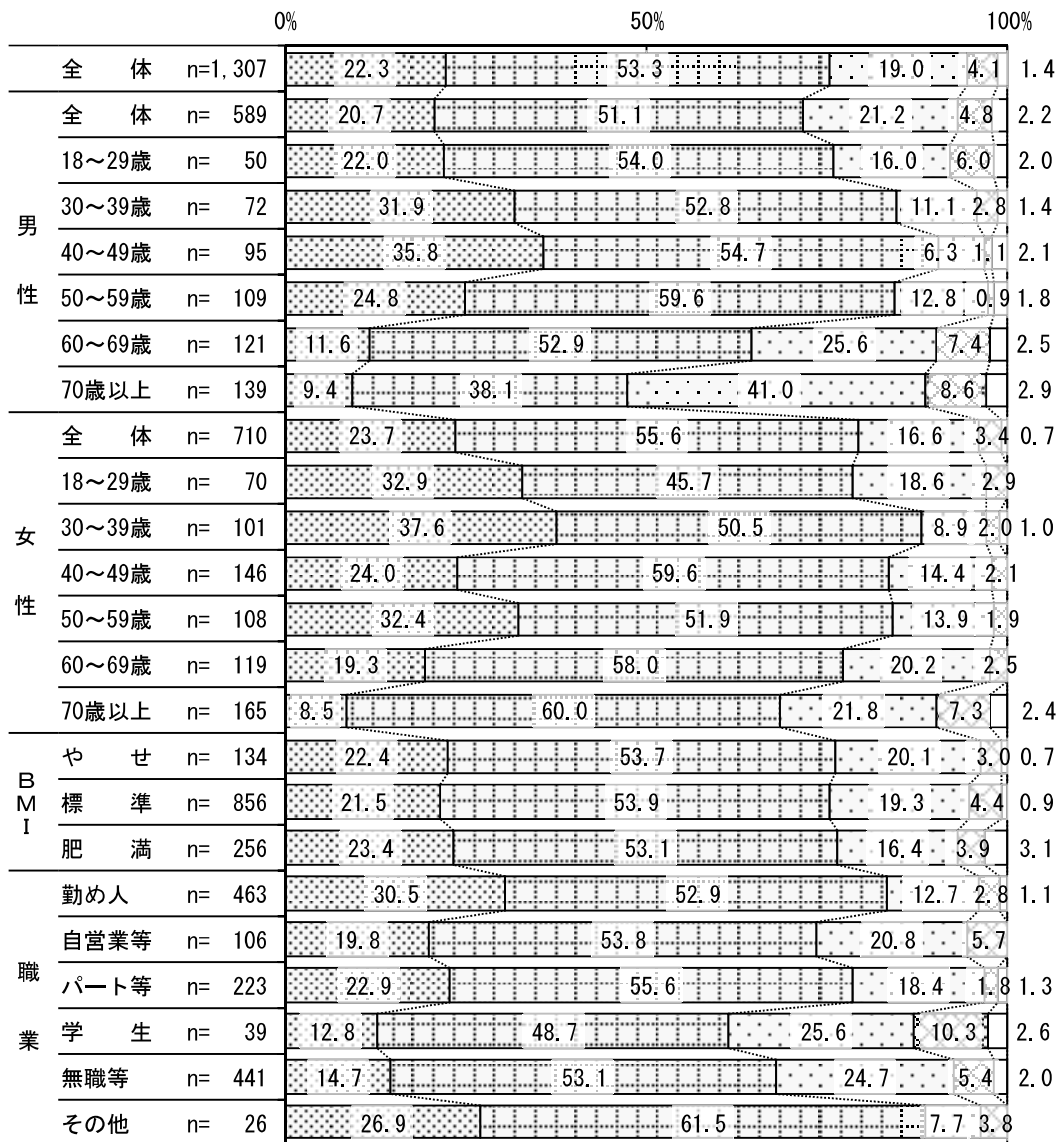
注）「18～29歳」の全国は20～29歳の数値

(12) ストレス

この1か月間に、ストレスを感じたかをたずねたところ、「おおいに感じる」(22.3%)と「多少感じる」(53.3%)を合計した〈ストレスを感じる〉が75.6%です。

「おおいに感じる」が高いのは、性・年齢別にみると、男性では40～49歳、女性では30～39歳、職業別では勤め人です。また、運動していない人や睡眠時間が短い人ほど〈ストレスを感じる〉が高くなっていることがわかります。

図表1-22 睡眠の質

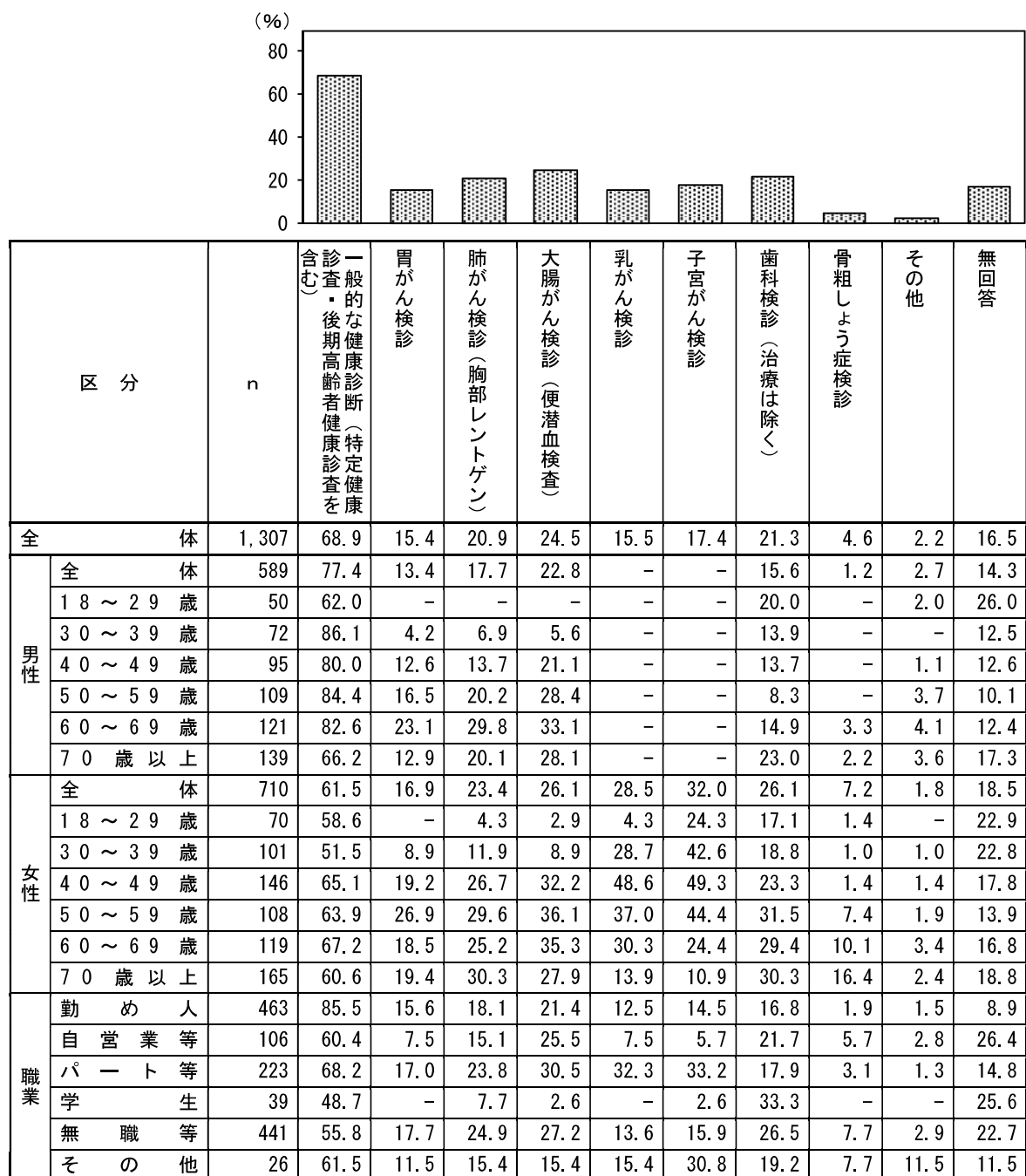


☒ おおいに感じる
 ☒ 多少感じる
 ☐ あまり感じない
 ☒ まったく感じない
 ☐ 無回答

(13) 健（検）診の受診状況

過去1年間に、受診した健康診断や健診等をたずねたところ、「一般的な健康診断（特定健康診査・後期高齢者健康診査を含む）」が68.9%と最も高く、次いで「大腸がん検診（便潜血検査）」が24.5%、「歯科検診」が21.3%、「肺がん検診（胸部レントゲン）」が20.9%などとなっています。性・年齢別にみると、女性の30～39歳では「一般的な健康診断（特定健康診査・後期高齢者健康診査を含む）」が51.5%と比較的低くなっています。

図表1-23 健（検）診の受診状況（複数回答）



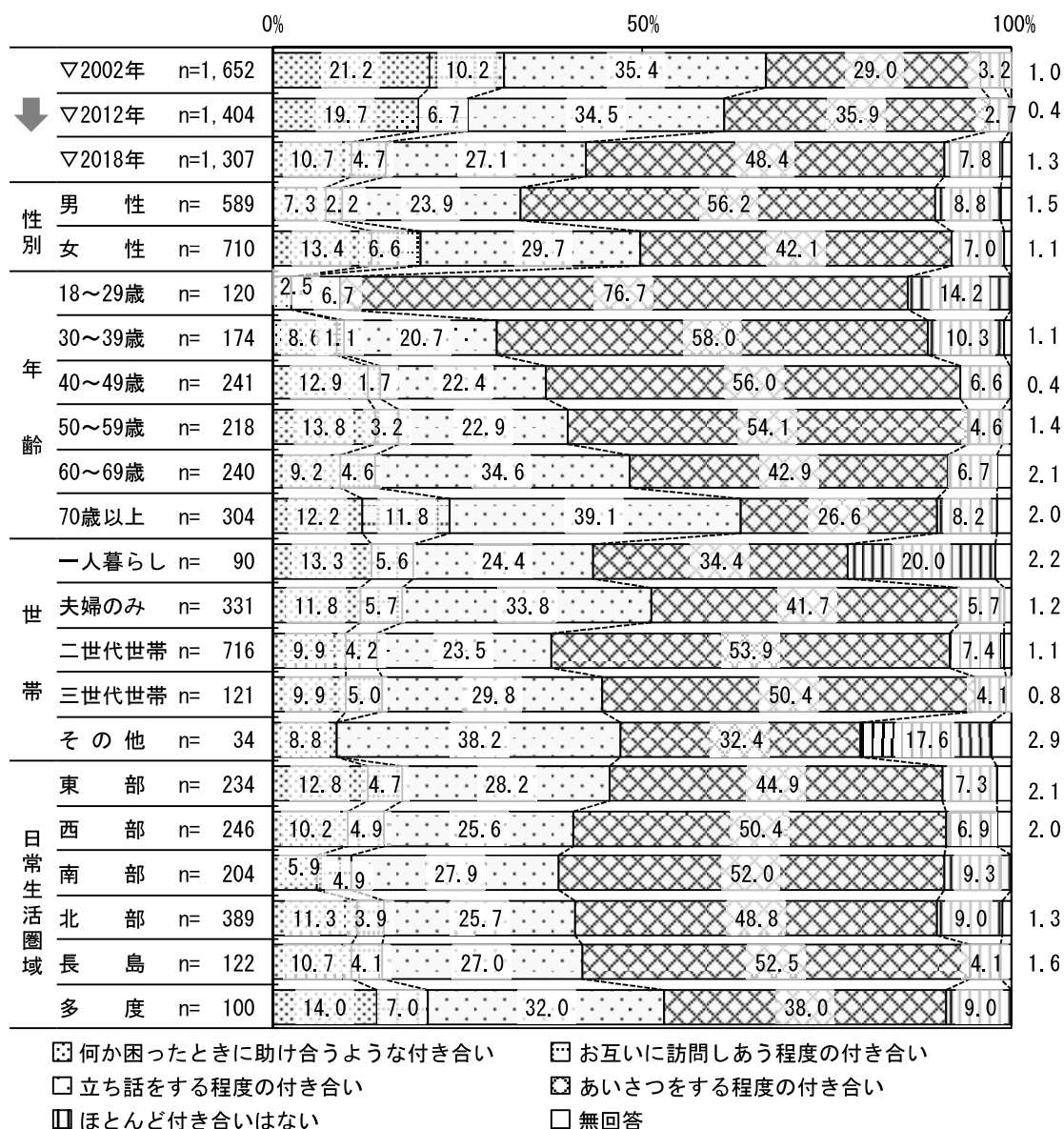
3 地域の活動等について

(1) 近所付き合いの程度

「ふだん近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか」という設問では、「あいさつをする程度の付き合い」が48.4%と最も高く、次いで「立ち話をする程度の付き合い」が27.1%となっており、この2項目で75.5%を占めています。過去の調査との比較では、回を追うごとに付き合いが浅くなってきています。

日常生活圏域別にみると、南部において「何か困ったときに助け合うような付き合い」が他に比べ低くなっています。「ほとんど付き合いはない」理由として、「会う機会がない」「仕事をしていると顔を合わせる時がない」などが多数記載されていました。

図表1-24 近所付き合いの程度

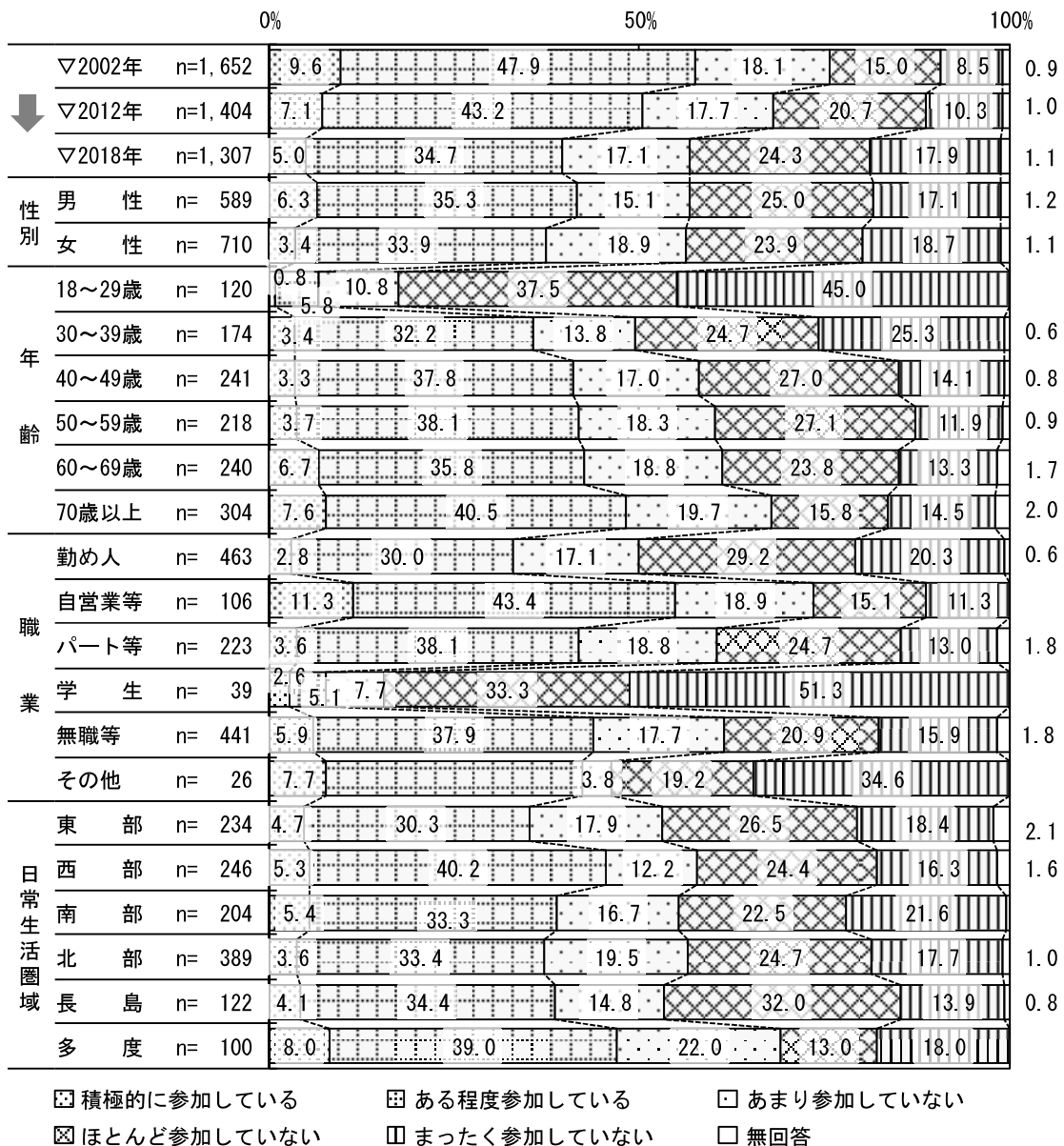


(2) 地域の活動や行事への参加

「地域の活動や行事にどの程度参加していますか」という設問では、「ある程度参加している」が34.7%と最も高く、次いで「ほとんど参加していない」が24.3%となっています。過去の調査との比較では、「積極的に参加している」及び「ある程度参加している」が、回を追うごとに低くなってきています。

年齢別にみると、「積極的に参加している」及び「ある程度参加している」は70歳以上高くなっており、地域の活動や行事の中心が高齢者であることがわかります。職業別にみると、自営業等に比べ勤め人の「積極的に参加している」が低くなっています。

図表1-25 地域の活動や行事への参加

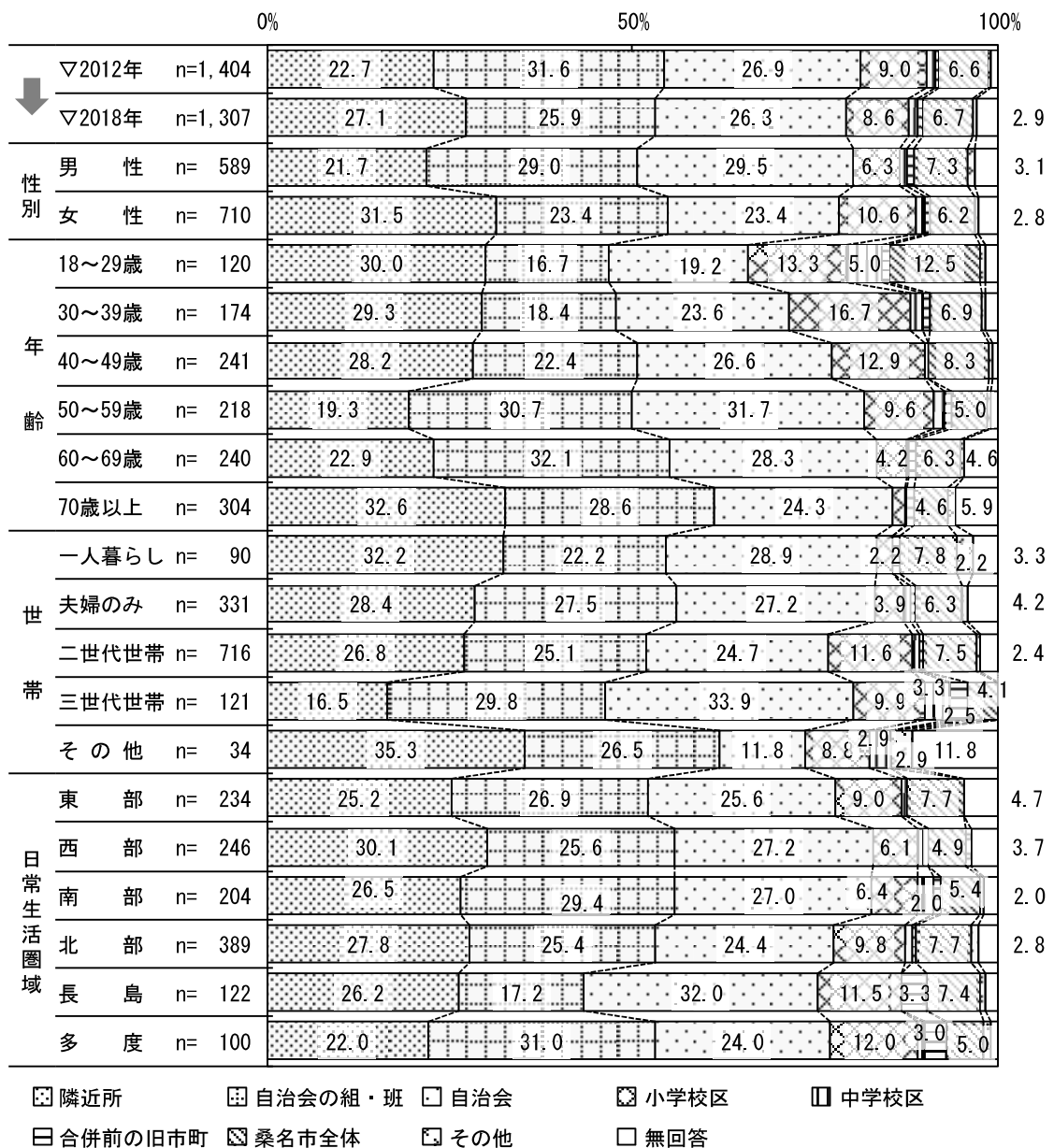


(3) 「地域」の範囲

「ふだんの生活において「地域で支え合う・助け合う」ということを意識した場合、あなたの考える「地域」とは、次のどの範囲ですか」という設問では、「隣近所」が27.1%と最も高く、次いで「自治会」（26.3%）、「自治会の組・班」（25.9%）などとなっています。

年齢別にみると、50歳未満及び70歳以上は「隣近所」、50～59歳は「自治会」、60～69歳は「自治会の組・班」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 1-26 「地域」の範囲



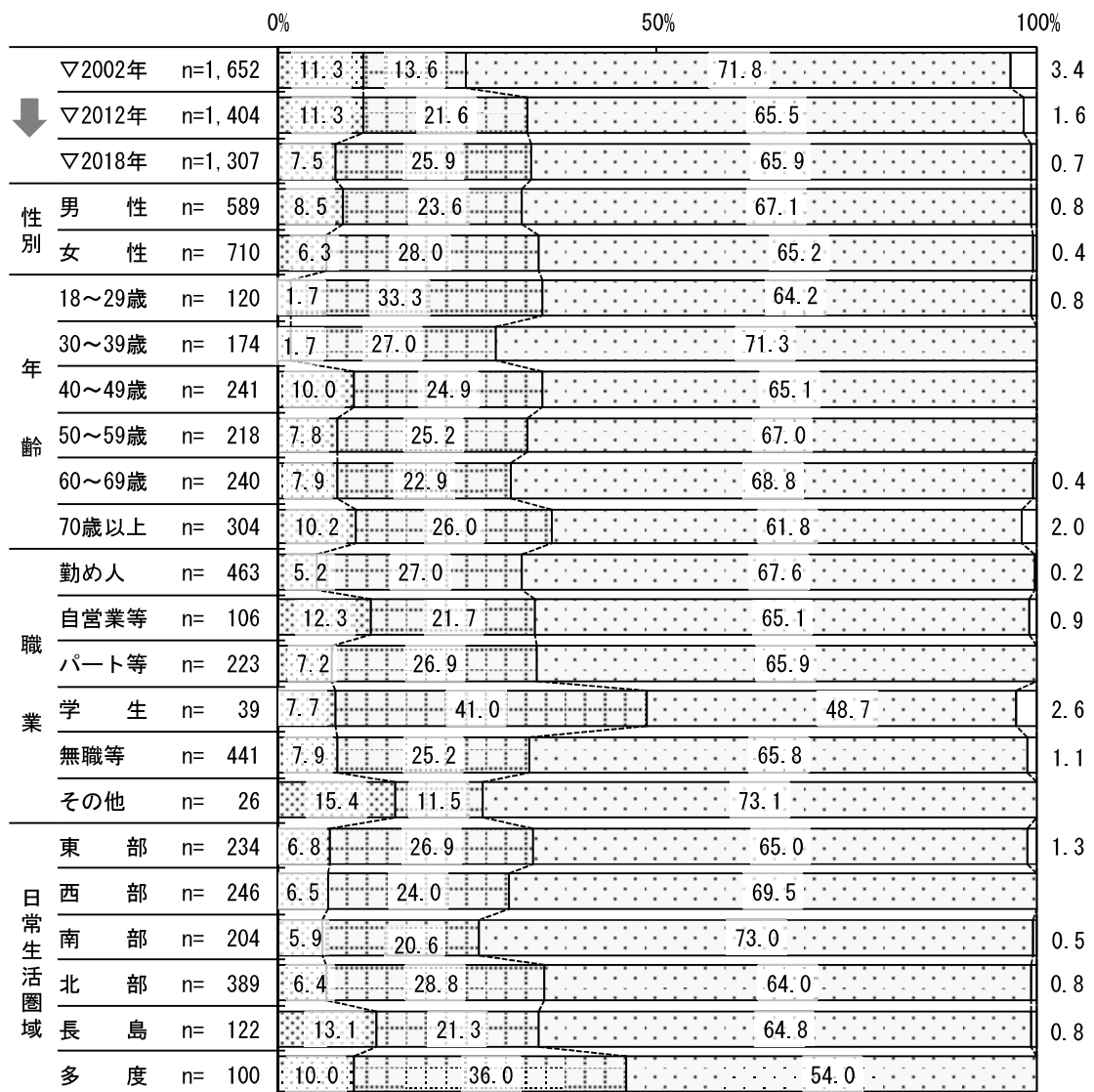
(注) 2%未満の数値はグラフ上の表記を省略してあります。

(4) ボランティア活動への参加

「ボランティア活動に参加したことがありますか」という設問では、「参加したことがない」が65.9%を占めています。「現在、参加している」は低下していますが、「以前に参加したことがある」は、回を追うごとに上昇しています。

「現在、参加している」を属性別にみると、年齢別では40～49歳及び70歳以上、日常生活圏域別では長島及び多度で10%以上となっています。

図表 1-27 ボランティア活動への参加



■ 現在、参加している

■ 以前に参加したことがある

□ 参加したことがない

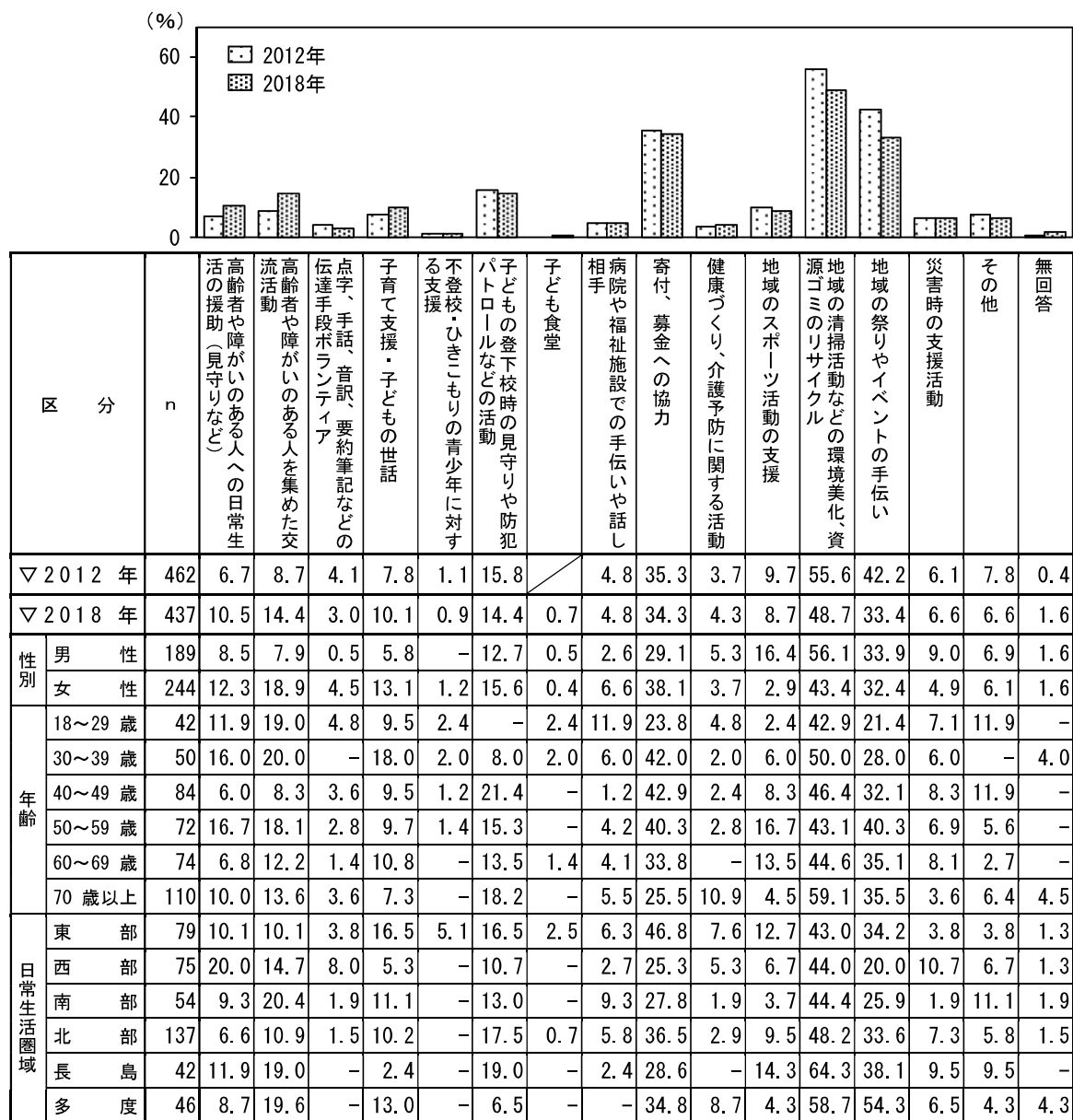
□ 無回答

(5) 参加した活動や行事

(4)で「現在、参加している」または「以前に参加したことがある」と回答した人の具体的な活動としては、「地域の清掃活動などの環境美化、資源ゴミのリサイクル」が48.7%と最も高く、次いで「寄付・募金への協力」(34.3%)、「地域の祭りやイベントの手伝い」(33.4%) などとなっています。

図表1-28 参加した活動や行事（複数回答）

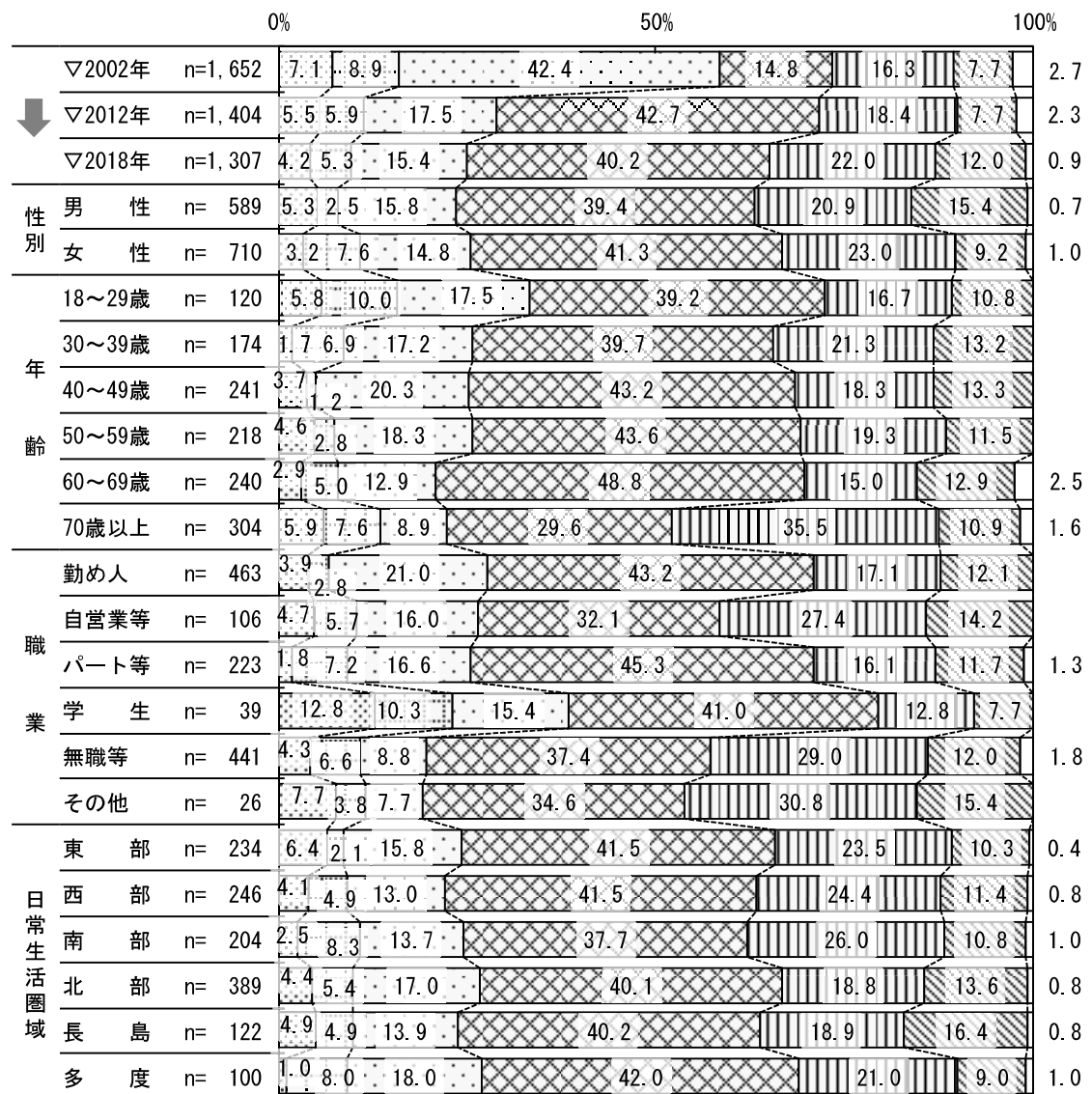
単位：％（nは人）



(6) ボランティア活動への参加意向

「今後ボランティア活動に参加したいと思いますか」という設問では、「機会があったら参加したい」が40.2%と最も高くなっており、次いで「参加できない」(22.0%)、「時間ができたら参加したい」(15.4%)の順となっています。最も積極的な参加意向である「ぜひ参加したい」は、過去の調査に比べ低くなっています。また、「友人などが一緒なら～」 「時間ができたら～」 「機会があったら～」といった条件付きの参加意向を合計すると60.9%となります。潜在的な参加意向を顕在化するような機会の創出が求められています。

図表1-29 ボランティア活動への参加意向

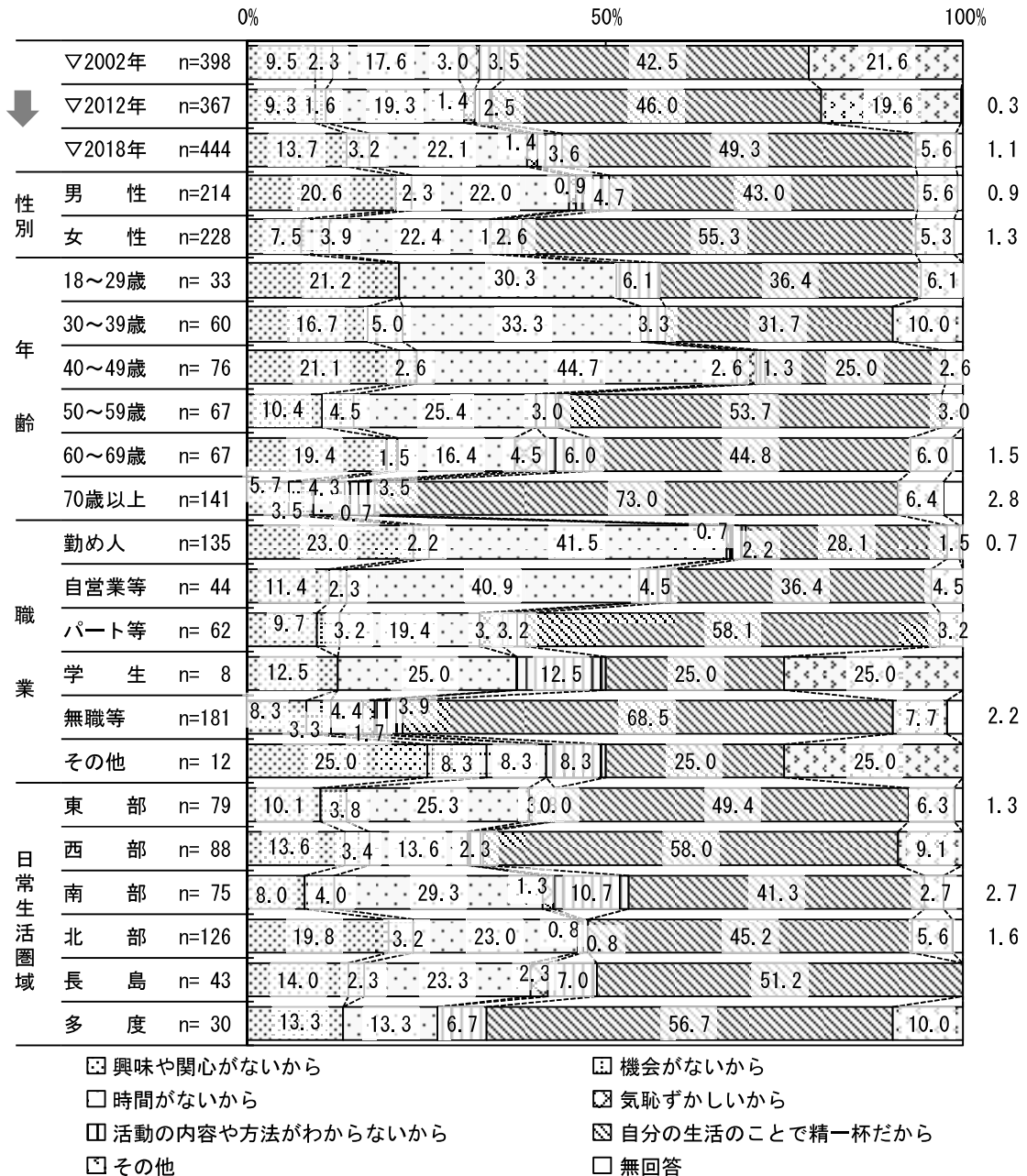


☐ ぜひ参加したい ☐ 友人などが一緒なら参加したい ☐ 時間ができたら参加したい
☐ 機会があったら参加したい ☐ 参加できない ☐ 参加したくない
☐ 無回答

(7) ボランティア活動に参加しない理由

ボランティア活動に「参加できない」または「参加したくない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「自分の生活のことで精一杯だから」が49.3%と半数近くを占め、次いで「時間がないから」が22.1%、「興味や関心がないから」が13.7%となっています。

図表1-30 ボランティア活動に参加しない理由

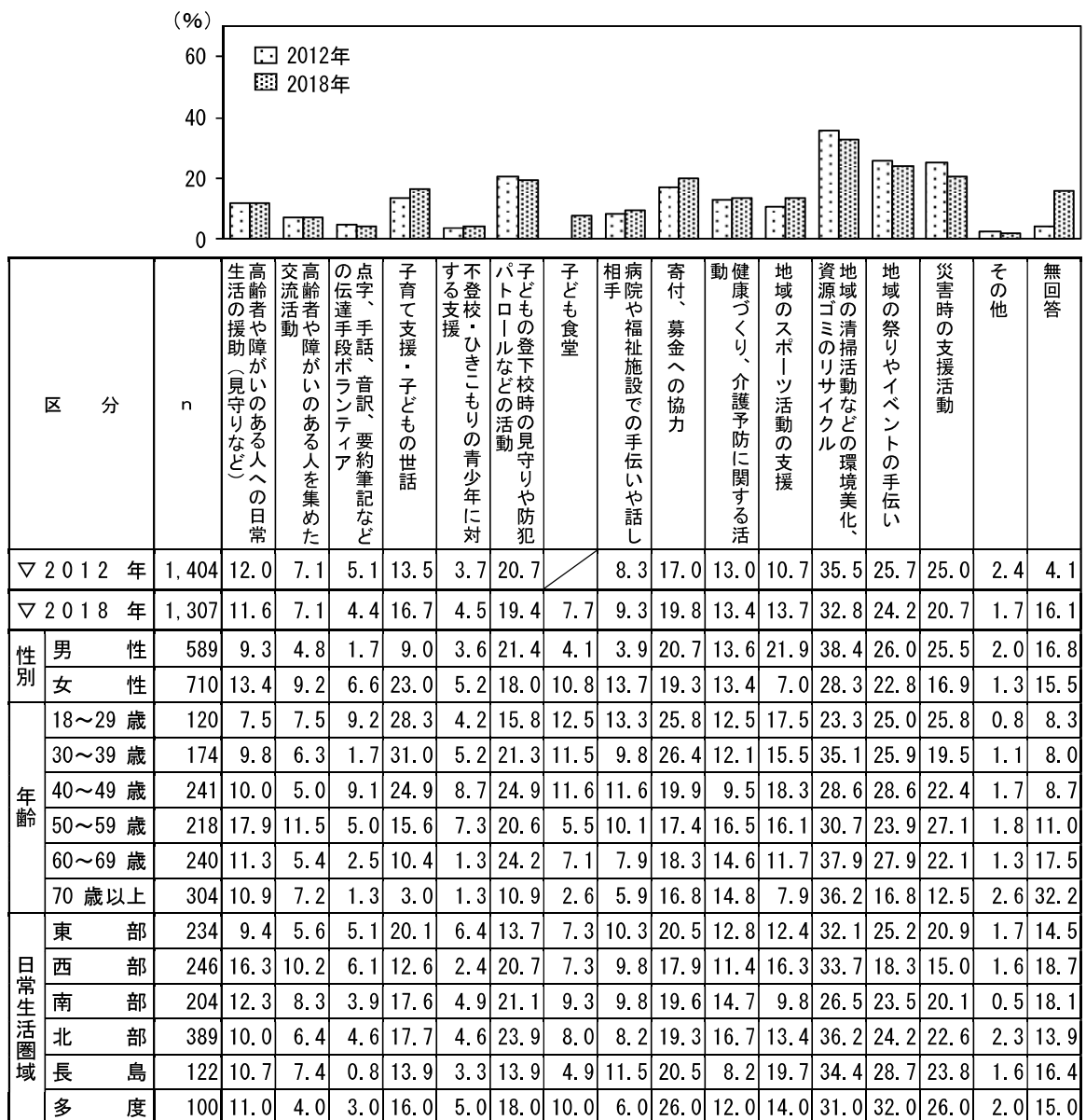


(8) やってみたい活動やできそうな活動

「これからの地域福祉は地域住民の参加や協力が必要といわれていますが、次の活動の中であなたがやってみたいことやできそうなものがありますか」という設問では、「地域の清掃活動などの環境美化、資源ゴミのリサイクル」が32.8%と最も高く、次いで「地域の祭りやイベントの手伝い」が24.2%、「災害時の支援活動」が20.7%などとなっています。過去の調査に比べ「子育て支援・子どもの世話」「地域のスポーツ活動の支援」「寄付、募金への協力」などが高くなっています。

図表 1-31 やってみたい活動・できそうな活動（複数回答・3つまで）

単位：％（nは人）



(9) 会・グループ等への参加頻度

会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合計した〈参加している〉人の割合は、③趣味関係のグループが20.5%と最も高く、次いで、②スポーツ関係のグループやクラブが16.8%、④学習・教養サークルが8.2%、①ボランティアのグループが8.1%、⑤特技や経験を他の人へ伝える活動が3.9%の順となっています。

①ボランティアのグループ及び⑤特技や経験を他の人へ伝える活動は「年に数回」、②スポーツ関係のグループやクラブは「週1回」、③趣味関係のグループ及び④学習・教養サークルは「月1～3回」が最も高くなっています。

〈週1回以上〉が10%を超えているのは、②スポーツ関係のグループやクラブのみです。

図表1-32 会・グループ等への参加頻度

単位：％（nは人）

区 分 n=1,307	週4回以上	週2～3回	週1回	〈週1回以上〉	月1～3回	年に数回	〈参加している〉	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.3	0.6	0.8	1.7	2.0	4.4	8.1	90.0	1.8
②スポーツ関係のグループやクラブ	1.7	4.3	4.9	10.9	2.7	3.2	16.8	81.5	1.8
③趣味関係のグループ	1.0	1.7	3.0	5.7	9.1	5.7	20.5	77.8	1.8
④学習・教養サークル	0.3	0.4	1.4	2.1	3.6	2.5	8.2	90.1	1.8
⑤特技や経験を他の人へ伝える活動	0.3	0.7	0.2	1.2	0.8	1.9	3.9	94.1	2.0

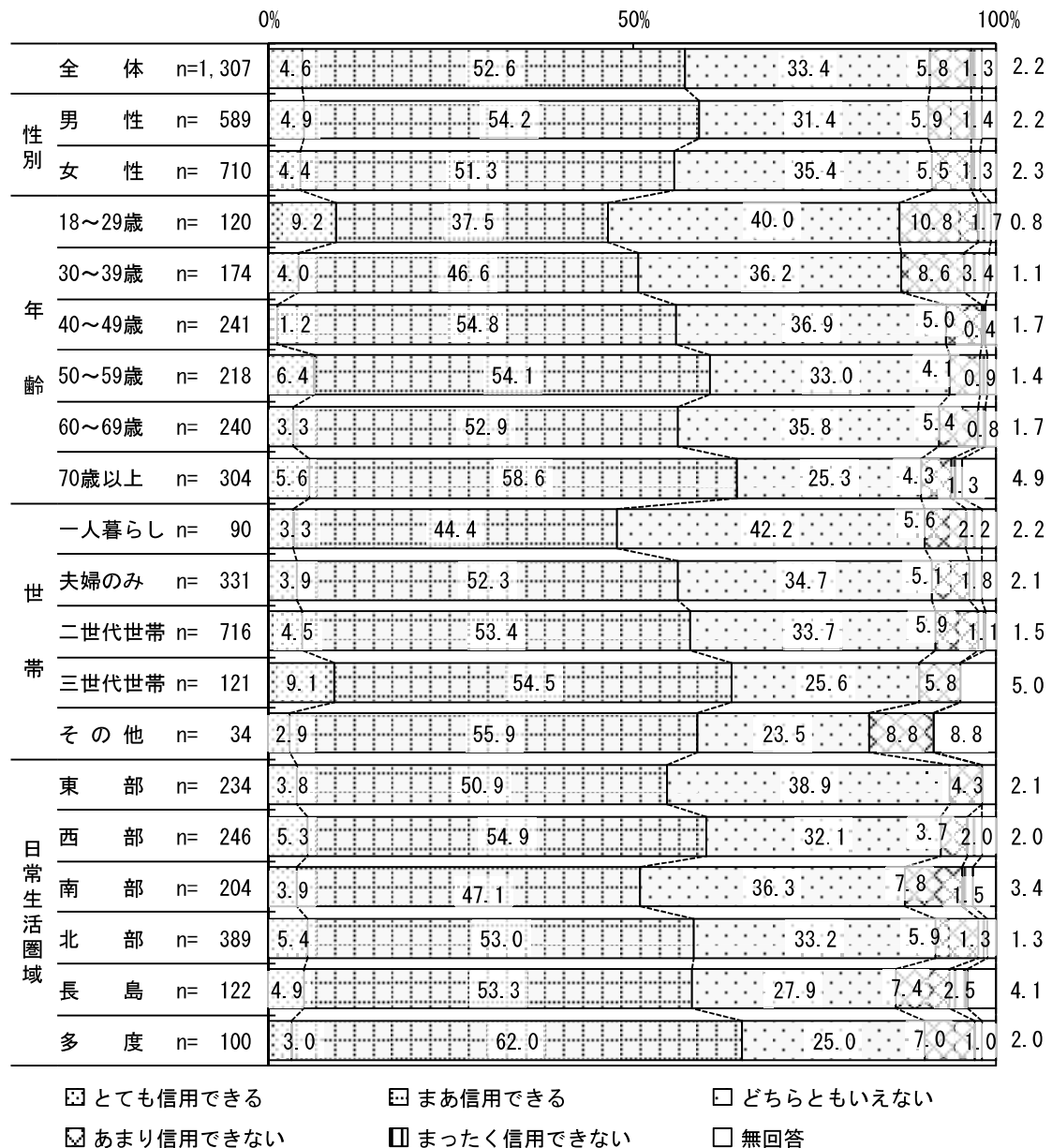
（注）『参加している』＝「週4回以上」＋「週2～3回」＋「週1回」＋「月1～3回」＋「年に数回」

4 地域の課題等について

(1) 地域の人信用できるか

「一般的に、地域の人信用できると思いますか」という設問では、「まあ信用できる」が52.6%を占め、「とても信用できる」(4.6%)との合計〈信用できる〉は57.2%です。「あまり信用できない」(5.8%)と「まったく信用できない」(1.3%)の合計〈信用できない〉は7.1%です。年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい〈信用できる〉が高くなっています。日常生活圏域別にみると、多度において〈信用できる〉が他に比べ高くなっています。

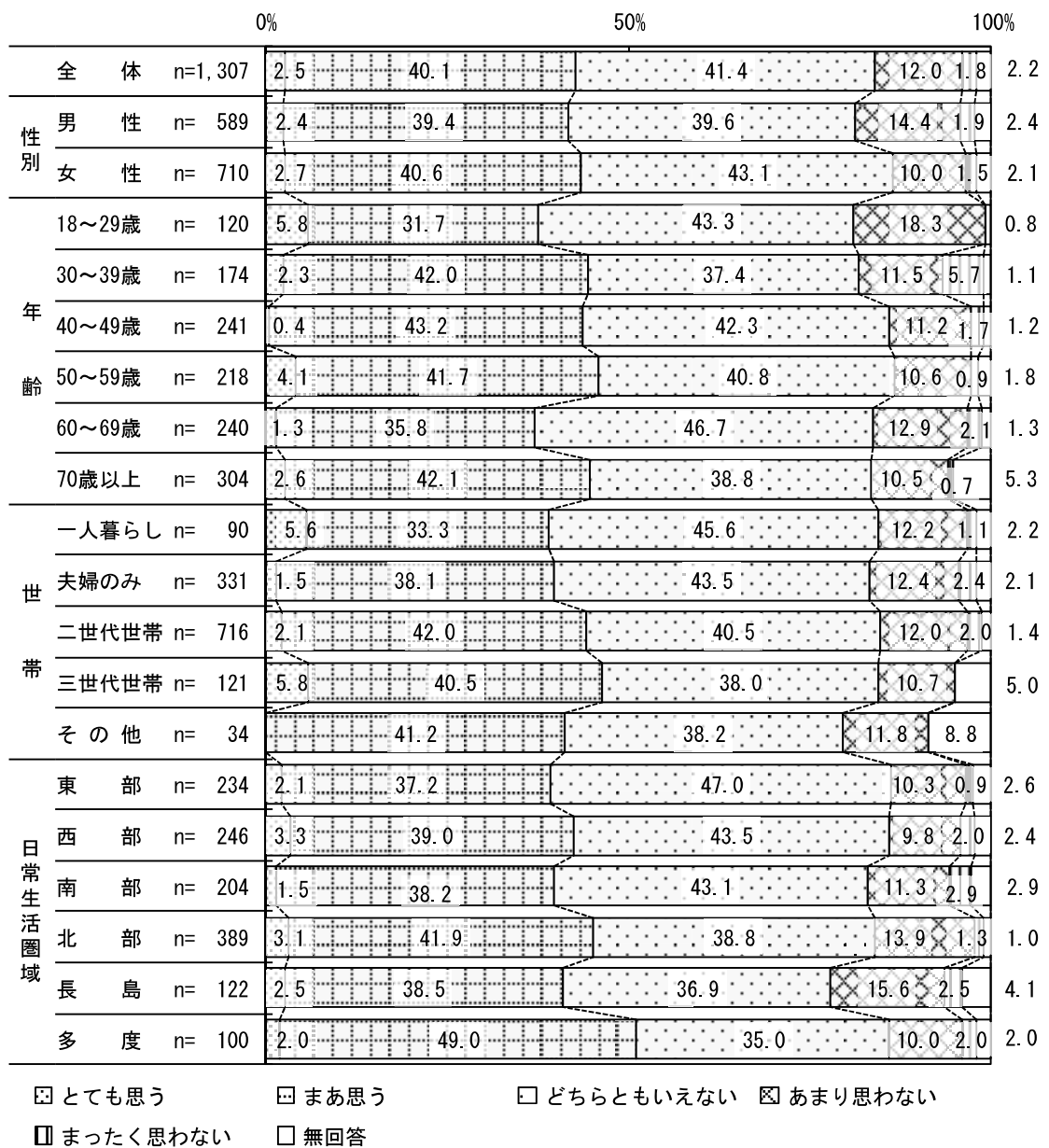
図表1-33 地域の人信用できるか



(2) 地域の人々は他の人の役に立とうと思うか

「一般的に、地域の人々は、他の人の役に立とうと思いますか」という設問では、「どちらともいえない」が41.4%と最も高くなっています。「まあ思う」(40.1%)と「とても思う」(2.5%)との合計〈思う〉は42.6%です。「あまり思わない」(12.0%)と「まったく思わない」(1.8%)の合計〈思わない〉は13.8%です。〈思う〉を属性別にみると、年齢別では50～59歳、日常生活圏域別では多度が他に比べ高くなっています。

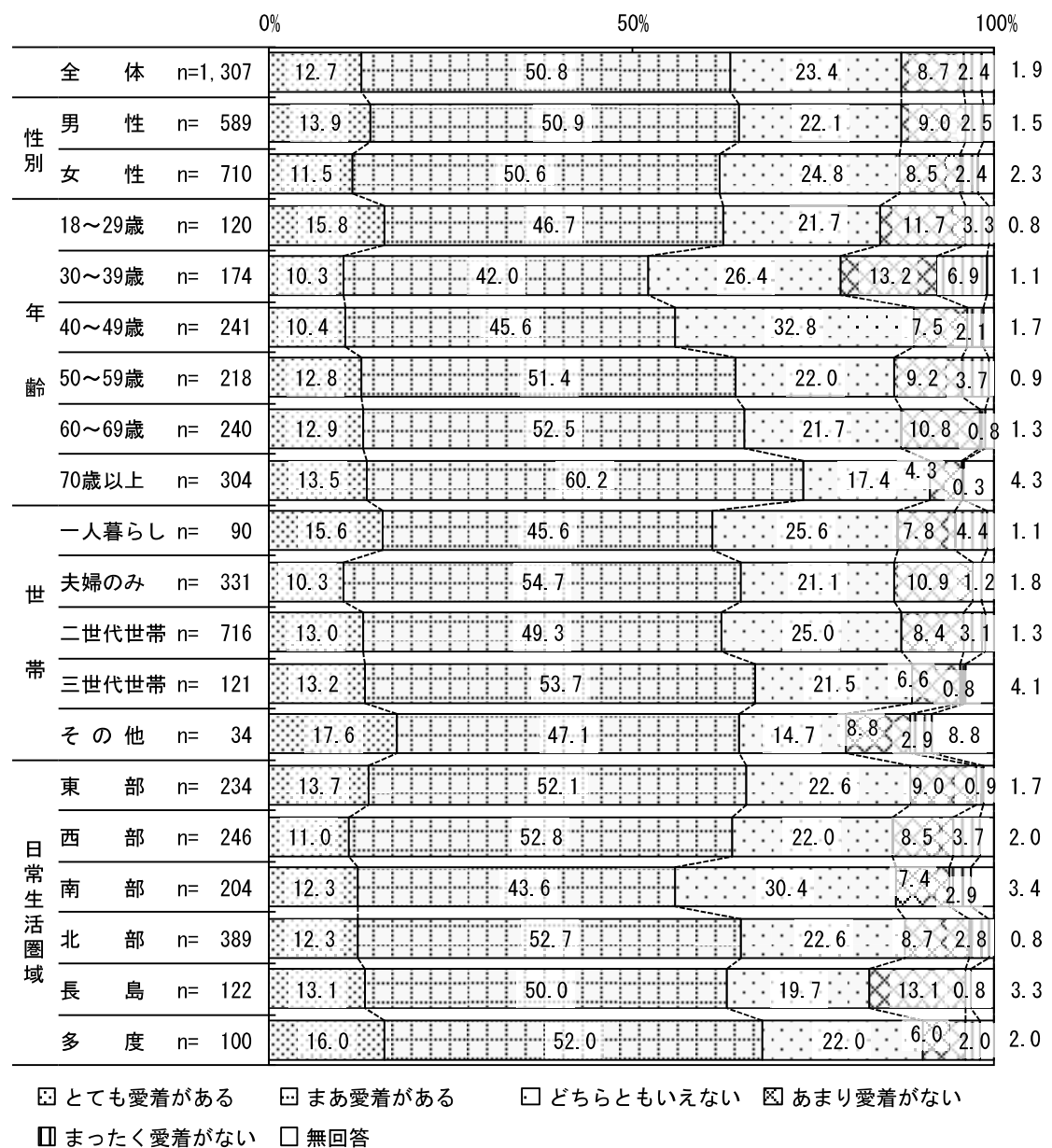
図表 1-34 地域の人々は他の人の役に立とうと思うか



(3) 地域に対する愛着

「あなたは、住んでいる地域に愛着はありますか」という設問では、「まあ愛着がある」が50.8%を占めており、「とても愛着がある」(12.7%)との合計〈愛着がある〉は63.5%です。「あまり愛着がない」(8.7%)と「まったく愛着がない」(2.4%)の合計〈愛着がない〉は11.1%です。年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい〈愛着がある〉が高くなる傾向にあります。日常生活圏域別にみると、〈愛着がある〉が最も高いのは多度、最も低いのは南部となっています。

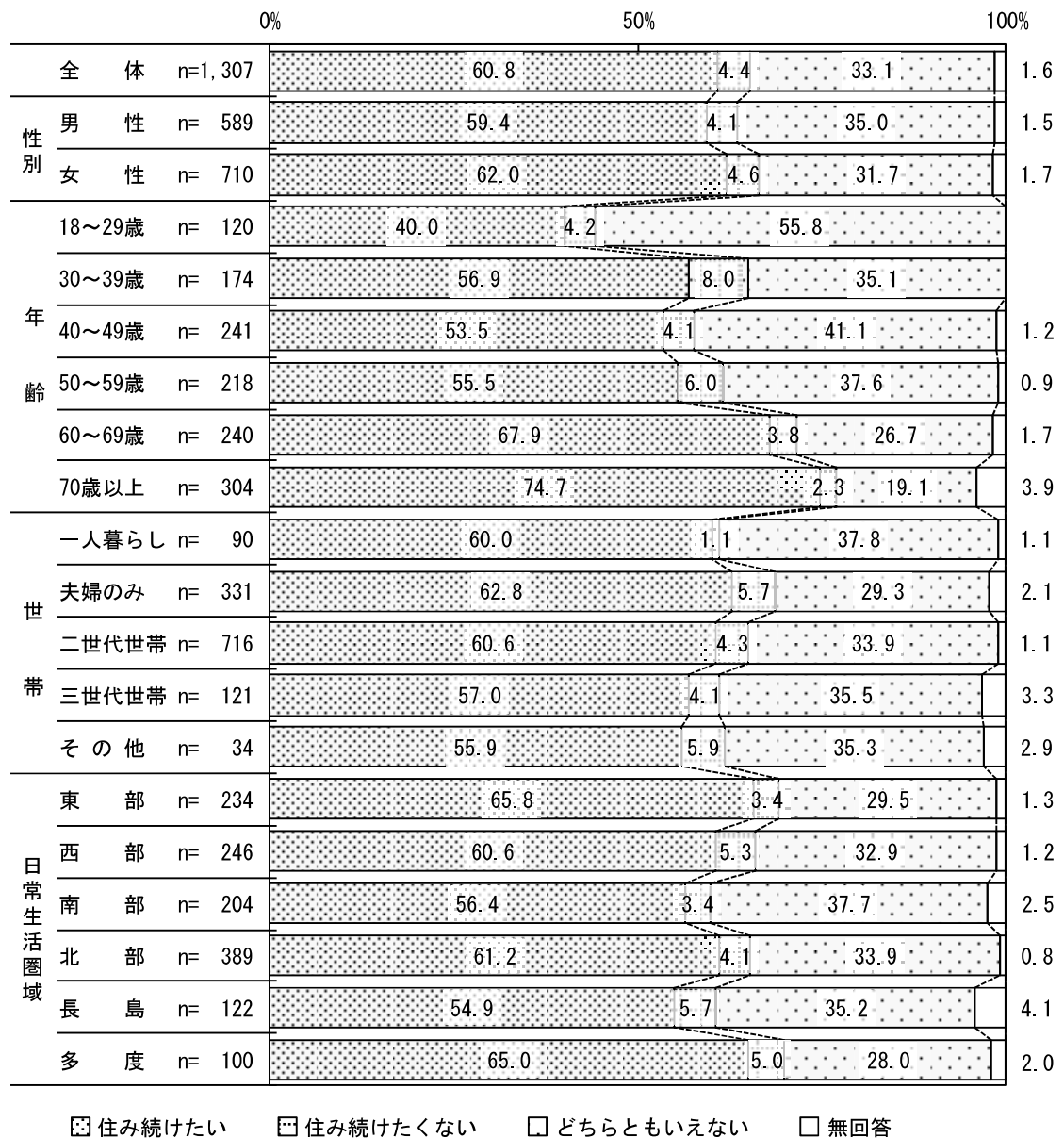
図表 1-35 地域に対する愛着



(4) 地域に住み続けたいか

「これからあなたの地域に住み続けたいと思いますか」という設問では、「住み続けたい」が60.8%を占めています。「住み続けたくない」はわずか4.4%ですが、「どちらともいえない」が33.1%あります。年齢別にみると、「住み続けたい」は、年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。日常生活圏域別にみると、「住み続けたい」が最も高いのは東部、最も低いのは長島で、10ポイント以上の差があります。

図表1-36 地域に住み続けたいか

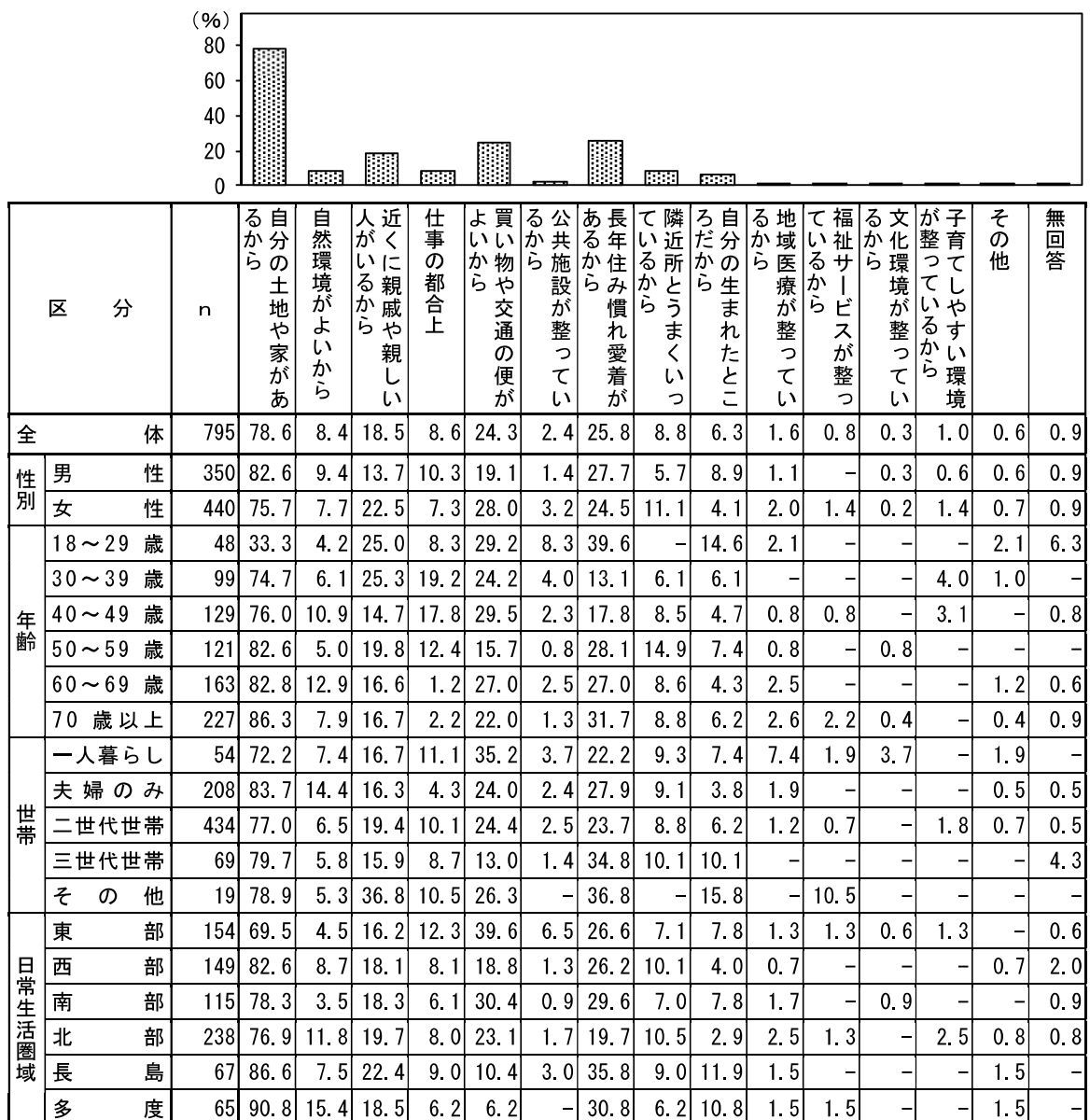


(5) 地域に住み続けたい理由

(4)で地域に「住み続けたい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「自分の土地や家があるから」が78.6%と最も高く、次いで「長年住み慣れ愛着があるから」(25.8%)、「買い物や交通の便がよいから」(24.3%)などとなっています。日常生活圏域別にみると、「買い物や交通の便がよいから」や「自分の土地や家があるから」は地域によって20ポイント以上の差があります。

図表 1-37 地域に住み続けたい理由（複数回答・2つまで）

単位：％（nは人）

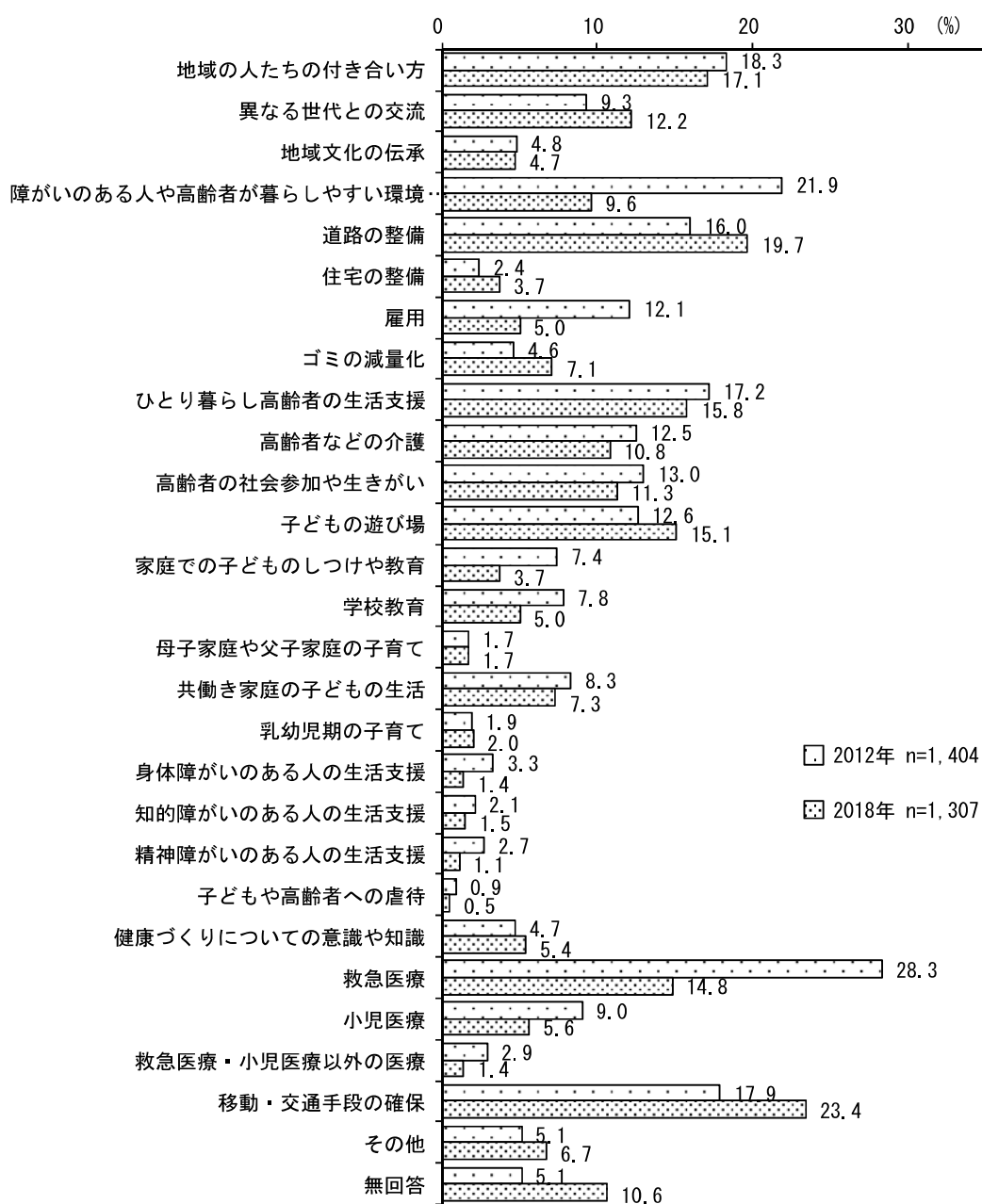


(6) 地域の課題

「あなたの住んでいる地域には、どのような課題や問題があると感じていますか」という設問では、「移動・交通手段の確保」が23.4%と最も高く、次いで「道路の整備」(19.7%)、「地域の人たちの付き合い方」(17.1%)、「ひとり暮らし高齢者の生活支援」(15.8%)、「子どもの遊び場」(15.1%)などの順となっています。

過去の調査との比較では、「救急医療」や「障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり」が大幅に低くなっている反面、「移動・交通手段の確保」などが高くなっています。

図表1-38 地域の課題（複数回答・3つまで／2012年との比較）



年齢別にみると、18～29歳では「道路の整備」、30～39歳及び40～49歳では「子どもの遊び場」、50歳以上の各年齢層では「移動・交通手段の確保」が最も高くなっています。

無回答以外の項目の合計は、30～39歳が238.8%と最も高く、次いで40～49歳が226.5%、50～59歳が226.0%となっており、30～50代の働き盛りの世代が、多くの課題を抱えていることが分かります。

図表 1-39 地域の課題（複数回答・3つまで／年齢別）

単位：％（nは人）

区 分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
n	120	174	241	218	240	304
地域の人たちの付き合い方	10.8	10.3	16.2	③19.7	③21.3	②18.8
異なる世代との交流	10.0	6.3	11.6	11.9	17.1	13.2
地域文化の伝承	4.2	4.0	5.8	5.0	5.4	3.9
障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり	9.2	7.5	8.3	9.2	12.5	10.2
道路の整備	①22.5	③21.3	③18.3	②21.1	20.0	17.4
住宅の整備	4.2	2.9	4.6	4.6	3.3	2.6
雇用	8.3	9.2	5.4	6.4	4.2	1.0
ゴミの減量化	10.0	4.0	8.7	6.9	3.3	8.6
ひとり暮らし高齢者の生活支援	9.2	10.9	14.1	15.1	②22.1	③18.4
高齢者などの介護	11.7	6.3	8.7	10.6	11.3	14.5
高齢者の社会参加や生きがい	4.2	4.0	6.2	12.4	15.8	17.8
子どもの遊び場	③17.5	①29.3	①24.1	9.6	11.7	5.6
家庭での子どものしつけや教育	3.3	4.6	6.2	4.1	2.9	1.6
学校教育	5.8	12.6	7.9	3.2	2.1	2.0
母子家庭や父子家庭の子育て	1.7	3.4	2.9	2.3	－	0.7
共働き家庭の子どもの生活	11.7	③21.3	10.4	5.5	1.3	1.3
乳幼児期の子育て	5.0	5.7	2.5	1.4	0.4	－
身体障がいのある人の生活支援	2.5	1.1	1.2	1.8	0.8	1.3
知的障がいのある人の生活支援	2.5	1.7	2.1	0.9	0.8	1.6
精神障がいのある人の生活支援	3.3	0.6	2.1	1.4	0.4	0.3
子どもや高齢者への虐待	0.8	0.6	0.8	0.5	－	0.3
健康づくりについての意識や知識	1.7	2.3	3.7	6.0	5.0	9.2
救急医療	11.7	②22.4	14.5	18.3	14.2	9.9
小児医療	6.7	20.1	5.8	5.0	2.1	－
救急医療・小児医療以外の医療	－	2.9	1.2	1.8	0.8	1.3
移動・交通手段の確保	②20.8	17.8	②22.8	①29.8	①23.8	①23.7
その他	8.3	5.7	10.4	11.5	2.9	3.3
無回答	7.5	6.9	7.5	7.8	9.6	19.7
無回答以外の合計	207.6	238.8	226.5	226.0	205.5	188.5

※ ①は上位3位

第1章 住民一般調査

日常生活圏域別にみると、東部では「道路の整備」が、南部では「道路の整備」と「移動・交通手段の確保」が同率で、それ以外の圏域では「移動・交通手段の確保」が最も高くなっています。なお、「移動・交通手段の確保」及び「道路の整備」以外では、東部及び西部では「ひとり暮らし高齢者の生活支援」、東部及び南部並びに長島では「子どもの遊び場」、北部では「地域の人たちの付き合い方」と「救急医療」、多度では「救急医療」が、それぞれ上位3位までに入っています。

無回答以外の項目の合計は、多度が最も高くなっています。

図表 1-40 地域の課題（複数回答・3つまで／日常生活圏域別）

単位：％（nは人）

区 分	東 部	西 部	南 部	北 部	長 島	多 度
n	234	246	204	389	122	100
地域の人たちの付き合い方	15.8	15.9	16.7	②19.5	14.8	17.0
異なる世代との交流	15.8	11.8	8.8	13.9	9.8	7.0
地域文化の伝承	6.4	2.4	2.9	3.6	6.6	12.0
障がいのある人や高齢者が暮らしやすい環境づくり	6.0	12.2	9.3	9.0	11.5	14.0
道路の整備	①19.7	②23.6	①23.0	14.1	②20.5	③22.0
住宅の整備	4.3	4.5	4.9	2.6	3.3	3.0
雇用	2.6	4.5	5.4	5.9	4.1	10.0
ゴミの減量化	9.8	3.7	5.4	10.5	4.1	1.0
ひとり暮らし高齢者の生活支援	②18.4	③17.5	15.2	15.4	14.8	10.0
高齢者などの介護	8.5	17.1	9.8	11.3	4.1	9.0
高齢者の社会参加や生きがい	10.3	13.4	11.3	12.3	11.5	5.0
子どもの遊び場	③16.2	15.4	③21.1	10.5	③18.9	14.0
家庭での子どものしつけや教育	3.4	4.1	2.5	4.4	0.8	6.0
学校教育	6.8	2.8	3.9	3.9	6.6	12.0
母子家庭や父子家庭の子育て	2.6	1.6	0.5	2.3	－	2.0
共働き家庭の子どもの生活	7.7	4.1	5.9	10.8	5.7	7.0
乳幼児期の子育て	2.1	1.2	2.5	2.1	1.6	3.0
身体障がいのある人の生活支援	0.9	2.4	1.0	1.3	－	3.0
知的障がいのある人の生活支援	1.3	1.6	2.5	1.5	0.8	1.0
精神障がいのある人の生活支援	1.3	1.6	1.5	1.0	－	1.0
子どもや高齢者への虐待	0.4	0.8	0.5	0.8	－	－
健康づくりについての意識や知識	7.3	3.7	4.9	4.4	5.7	9.0
救急医療	9.4	13.4	12.7	③17.0	16.4	②24.0
小児医療	7.7	3.7	4.9	5.9	4.9	7.0
救急医療・小児医療以外の医療	0.4	2.0	1.0	1.8	0.8	1.0
移動・交通手段の確保	13.2	①26.8	①23.0	①22.6	①32.8	①33.0
その他	4.3	8.5	5.4	7.7	9.0	3.0
無回答	12.0	10.2	13.2	11.3	7.4	5.0
無回答以外の合計	202.6	220.3	206.5	216.1	209.1	236.0

※ は上位3位

(7) 周りの人との「助け合い」の状況

周りの人との「助け合い」の状況をみると、「該当する人がいる」は、①心配事や愚痴を聞いてくれる人が94.5%と最も高く、次いで、③看病や世話をしてくれる人が93.6%、②心配事や愚痴を聞いてあげる人が92.7%、④看病や世話をしてあげる人が91.5%となっています。

①～④のいずれの項目も「配偶者」が最も高くなっていますが、①及び②の心配事や愚痴については「友人」が同居の子どもを始めとする親族を上回っており、コミュニケーションを通じた心の健康には友人の存在が非常に重要であることがわかります。

図表 1-41 周りの人とのたすけあいの状況

単位：％（nは人）

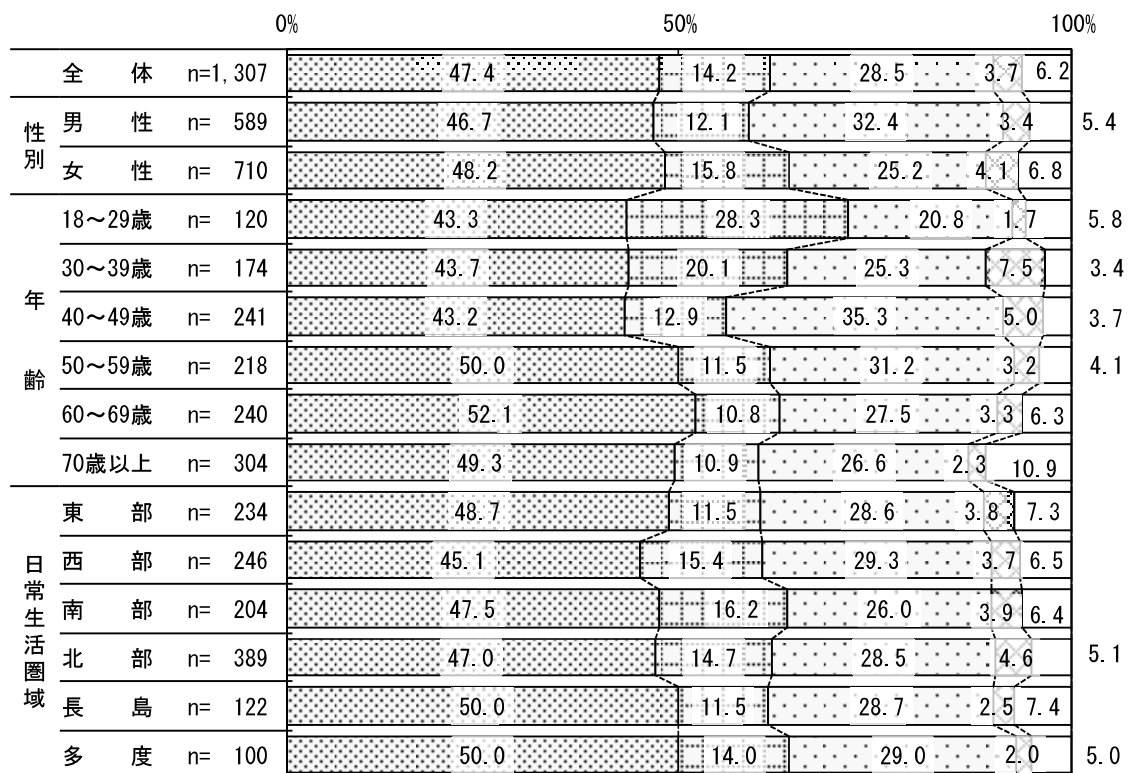
区 分 n=1,307	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・孫 兄弟姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない そのような人は いない	無回答	該当する人が いる
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	59.3	32.3	27.0	23.6	8.7	45.7	2.1	3.7	1.8	94.5
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	56.6	40.1	30.7	24.7	10.7	45.8	1.5	5.2	2.1	92.7
③看病や世話をしてくれる人	65.2	31.7	26.8	10.4	0.9	3.4	0.7	4.9	1.5	93.6
④看病や世話をしてあげる人	67.3	51.4	36.6	16.1	1.9	4.5	0.4	6.8	1.7	91.5

（注）『該当する人がいる』＝100%－「そのような人はいない」－無回答

(8) 地域の課題の解決方法

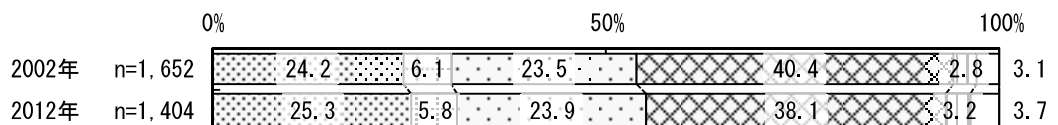
「住んでいる地域で、問題や困りごとが生じた場合、どのような方法で解決するのがよいと思いますか」という設問では、「住民同士で協力して解決したい」が47.4%、「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」が28.5%と、〈住民主体型〉が〈行政依存型〉を大きく上回っています。年齢別にみると、〈住民主体型〉が高いのは60～69歳及び50～59歳で50%以上となっています。一方、〈行政依存型〉は40～49歳が35.3%と比較的高くなっています。

図表 1-42 地域の課題の解決方法



- ☒ 住民同士で協力して解決したい
- ☒ 地域のことに熱心な人たちに任せておきたい
- ☐ 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
- ☒ その他
- ☐ 無回答

【参考】過去の類似した設問

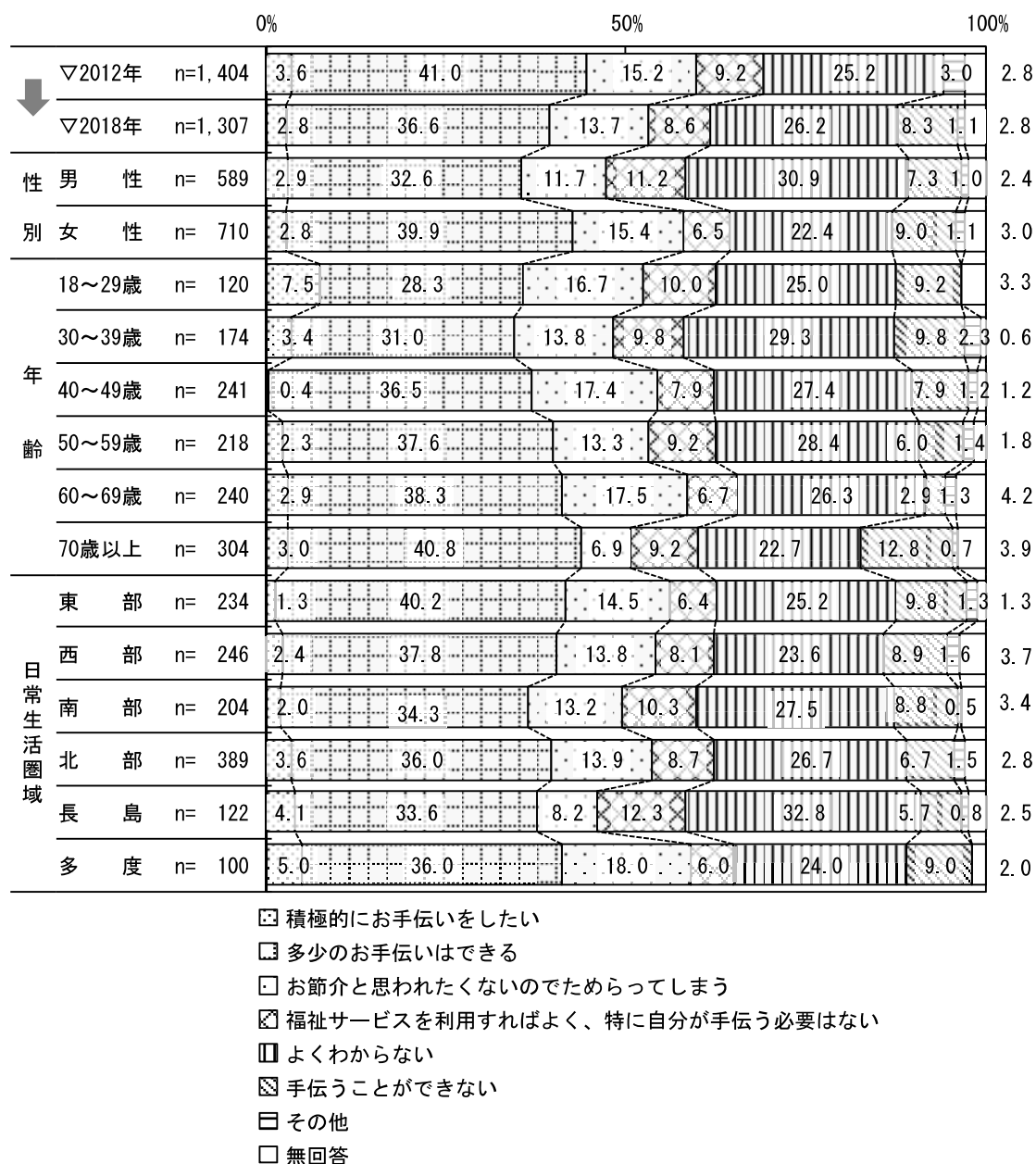


- ☒ 地域のしきたりにしたがって、周りの人と協力して解決したい
- ☒ 地域のことに熱心な人たちに任せておきたい
- ☐ 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
- ☒ 住民同士で協力して解決したい
- ☐ その他
- ☐ 無回答

(9) 困っている世帯への対応

「ご近所に、一人暮らしの高齢者・障がいのある人などで困っている世帯があったら、どんな対応をしますか」という設問に対しては、「多少のお手伝いはできる」が36.6%と最も高く、「積極的にお手伝いをしたい」（2.8%）との合計〈手伝える〉は39.4%と4割近くとなります。年齢別にみると、〈手伝える〉は70歳以上が高くなっています。18～29歳では他の年齢層に比べ「積極的にお手伝いをしたい」及び「福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない」が高くなっています。

図表 1-43 困っている世帯への対応



※2012年の選択肢には「手伝うことができない」がありません。

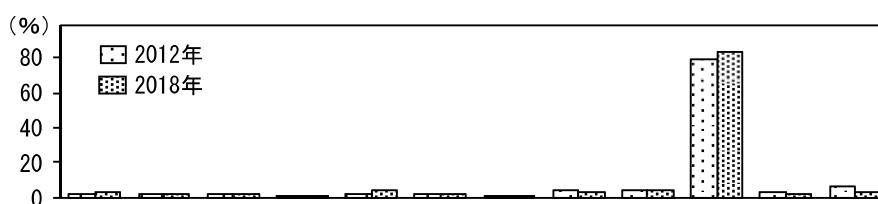
(10) 手助けしてもらいたいこと

ご近所や地域の人に手助けしてもらいたいこととしては、「特にない」が83.3%を占めています。以下、高い順に「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」（4.4%）、「ゴミ捨て・ゴミ出し」（3.8%）、「家の保守点検・修理など」（3.7%）などとなっています。世帯状況別にみると、一人暮らしでは上記3項目が10%以上と比較的高い率となっています。

「その他」として、「子どもの預かり、子どもの見守り」が多数記載されていました。

図表1-44 近所や地域の人に手助けしてもらいたいこと（複数回答）

単位：％（nは人）



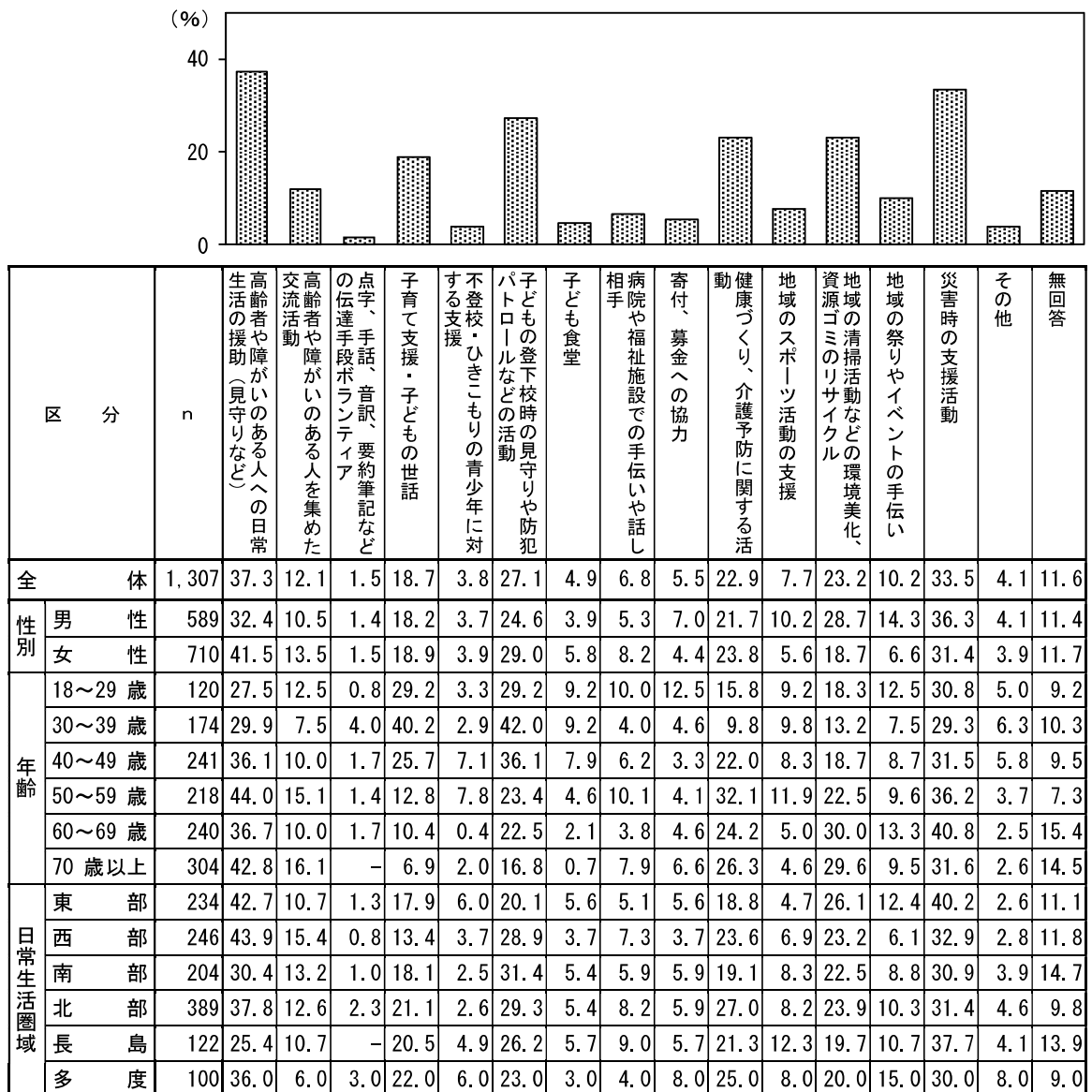
区 分		n	買い物	通院	掃除	洗濯	ゴミ捨て・ゴミ出し	市役所での手続き	銀行や郵便局でのお金の出し入れ	家の保守点検・修理など	高い所の作業（蛍光灯の取替など）	特にない	その他	無回答
▽ 2 0 1 2 年		1,404	2.3	1.9	1.6	0.4	2.4	2.0	0.2	4.6	4.1	78.9	3.6	6.0
▽ 2 0 1 8 年		1,307	2.8	2.0	2.3	0.4	3.8	1.6	0.7	3.7	4.4	83.3	2.3	3.1
性別	男 性	589	2.7	2.2	2.9	0.3	4.6	2.4	1.0	4.6	2.9	83.5	1.5	2.5
	女 性	710	3.0	1.8	1.8	0.4	3.2	1.0	0.4	3.0	5.6	83.2	2.8	3.4
年齢	1 8 ～ 2 9 歳	120	1.7	—	3.3	0.8	5.0	3.3	0.8	1.7	6.7	83.3	0.8	0.8
	3 0 ～ 3 9 歳	174	1.1	0.6	1.7	—	1.7	1.7	1.1	2.3	1.1	87.9	4.0	1.1
	4 0 ～ 4 9 歳	241	2.5	1.2	2.9	1.2	4.1	1.2	0.4	2.9	2.5	86.7	3.3	2.1
	5 0 ～ 5 9 歳	218	1.8	0.9	2.3	—	2.3	1.4	—	4.1	1.8	86.2	4.1	—
	6 0 ～ 6 9 歳	240	2.9	1.7	1.7	0.4	4.2	0.8	0.8	3.3	1.7	86.3	1.3	5.4
	7 0 歳 以 上	304	5.3	5.3	2.3	—	5.3	2.0	1.0	5.9	10.9	73.7	0.7	5.6
世帯	一 人 暮 ら し	90	6.7	4.4	8.9	2.2	11.1	2.2	1.1	10.0	12.2	65.6	3.3	5.6
	夫 婦 の み	331	3.6	2.7	2.1	0.3	5.1	0.9	0.6	3.0	5.1	83.4	0.9	3.3
	二 世 代 世 帯	716	2.0	1.4	1.7	0.3	2.8	1.5	0.6	3.5	3.6	85.2	2.9	2.4
	三 世 代 世 帯	121	0.8	—	1.7	—	2.5	2.5	—	1.7	1.7	86.8	1.7	2.5
	そ の 他	34	11.8	8.8	2.9	—	—	2.9	5.9	5.9	2.9	82.4	—	5.9
日常生活圏域	東 部	234	1.7	1.3	2.1	—	3.8	0.9	—	4.3	6.4	81.6	3.4	3.0
	西 部	246	3.7	3.7	2.8	0.8	4.9	2.0	0.4	2.0	4.1	82.5	2.4	3.7
	南 部	204	2.0	2.9	2.9	—	2.5	2.0	1.5	3.4	2.9	84.3	1.5	3.4
	北 部	389	3.1	1.3	2.1	0.3	4.4	1.3	0.5	4.4	4.1	84.6	2.1	2.1
	長 島	122	2.5	0.8	1.6	0.8	3.3	0.8	0.8	4.1	3.3	83.6	2.5	3.3
多 度		100	4.0	2.0	2.0	—	2.0	4.0	2.0	4.0	6.0	82.0	2.0	4.0

(11) 地域に必要な活動

「あなたの住んでいる地域が、より暮らしやすくなるには、地域にどのような活動が必要だと思いますか」という設問では、「高齢者や障がいのある人への日常生活の援助（見守りなど）」が37.3%と最も高く、次いで「災害時の支援活動」が33.5%、「子どもの登下校時の見守りや防犯パトロールなどの活動」が27.1%、「地域の清掃活動などの環境美化、資源ゴミのリサイクル」が23.2%、「健康づくり、介護予防に関する活動」が22.9%などとなっています。

図表 1-45 地域に必要な活動（複数回答・3つまで）

単位：％（nは人）

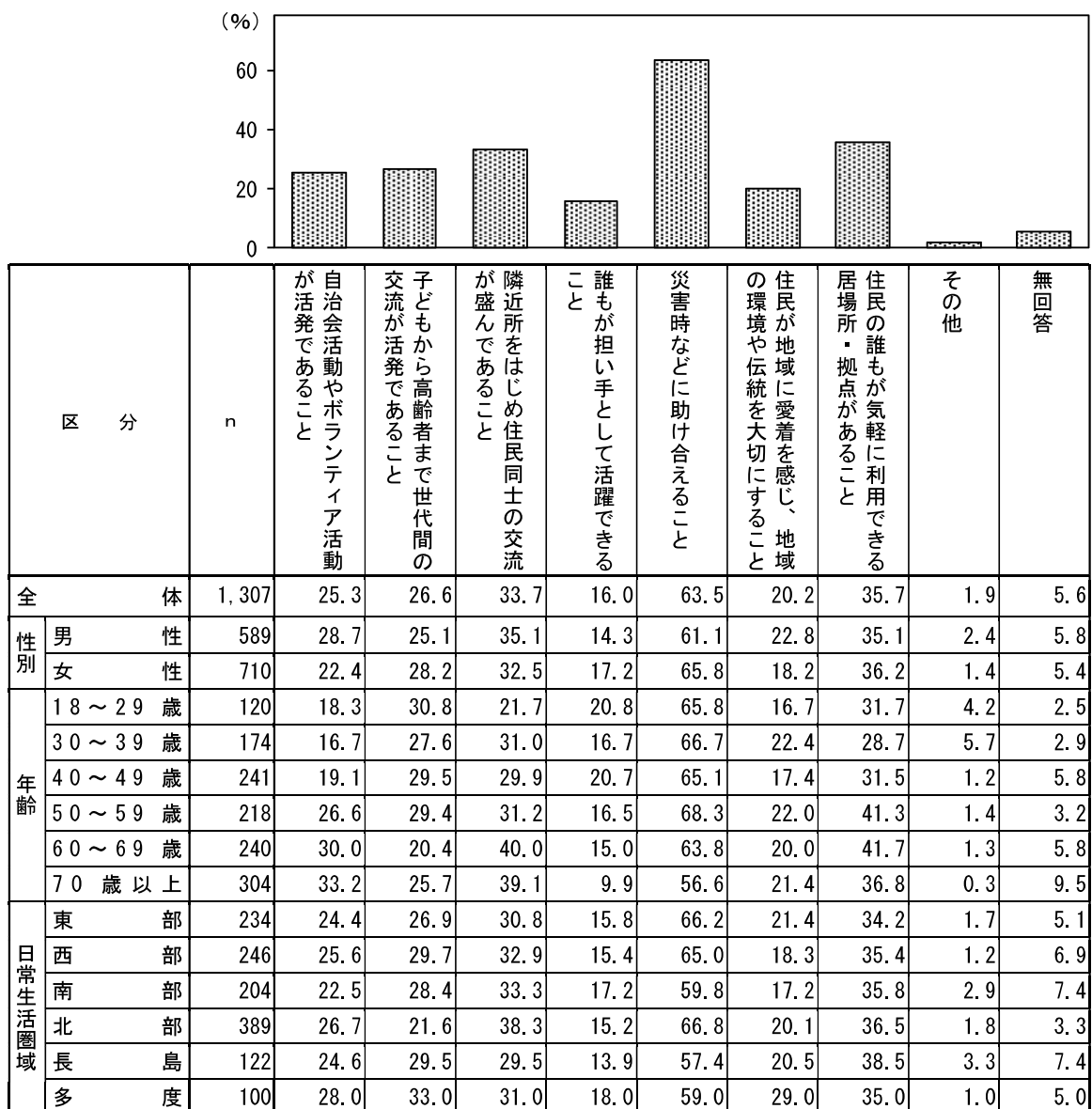


(12) 地域のあり方

「これからも安心して地域で住み続けるためには、どのような地域のあり方が大切だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問では、「災害時などに助け合えること」が63.5%と突出して高く、次いで「住民の誰もが気軽に利用できる居場所・拠点があること」が35.7%、「隣近所をはじめ住民同士の交流が盛んであること」が33.7%、「子どもから高齢者まで世代間の交流が活発であること」が26.6%、「住民の支え合い意識が高く自治会活動やボランティア活動が活発であること」が25.3%などとなっています。

図表1-46 地域のあり方（複数回答・3つまで）

単位：％（nは人）

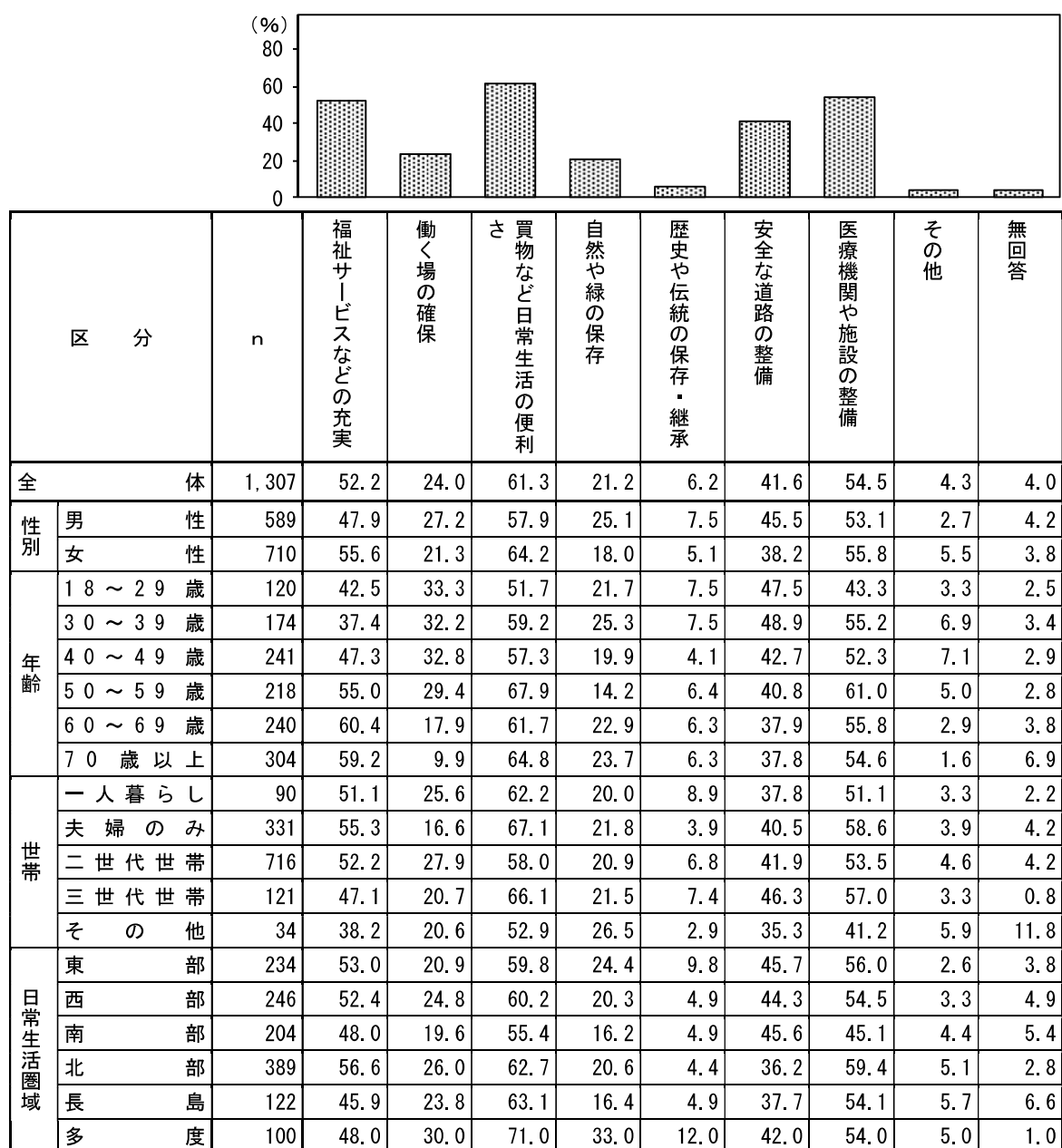


(13) 地域に住み続けるために重要なこと

「あなたの地域で住み続けるためには、次のうち何が重要と思いますか」という設問では、「買物など日常生活の便利さ」61.3%と最も高く、次いで「医療機関や施設の整備」(54.5%)、「福祉サービスなどの充実」(52.2%)の順となっています。日常生活圏域別にみると、いずれの項目も地域による差が大きく、特に「自然や緑の保存」及び「買物などの日常生活の便利さ」は高い多度と低い南部の間に15ポイントを超える差があります。

図表 1-47 地域に住み続けるために重要なこと（複数回答）

単位：％（nは人）

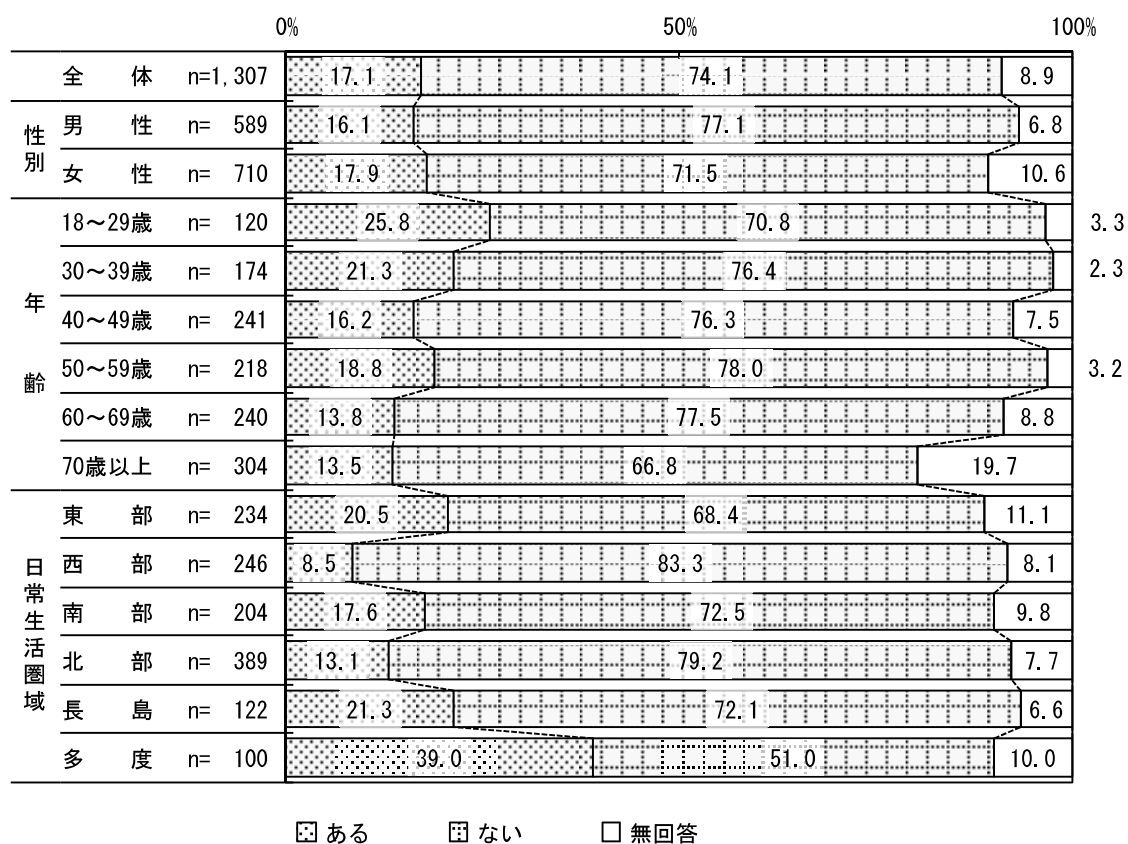


(14) 次の時代に伝えたい地域の行事等

「あなたの地域のイベント・行事、風習などで、自慢できるもの、次の時代に伝えたいと思うものはありますか」という設問では、「ある」が17.1%です。「ある」を属性別にみると、年齢別では若年齢ほど高くなる傾向にあり、日常生活圏域別では多度が高くなっています。

次の時代に伝えたい地域の行事等について、具体的に記述していただいたところ、「石取祭」「多度祭」「花火大会」「地藏盆」などが多数記載されていました。

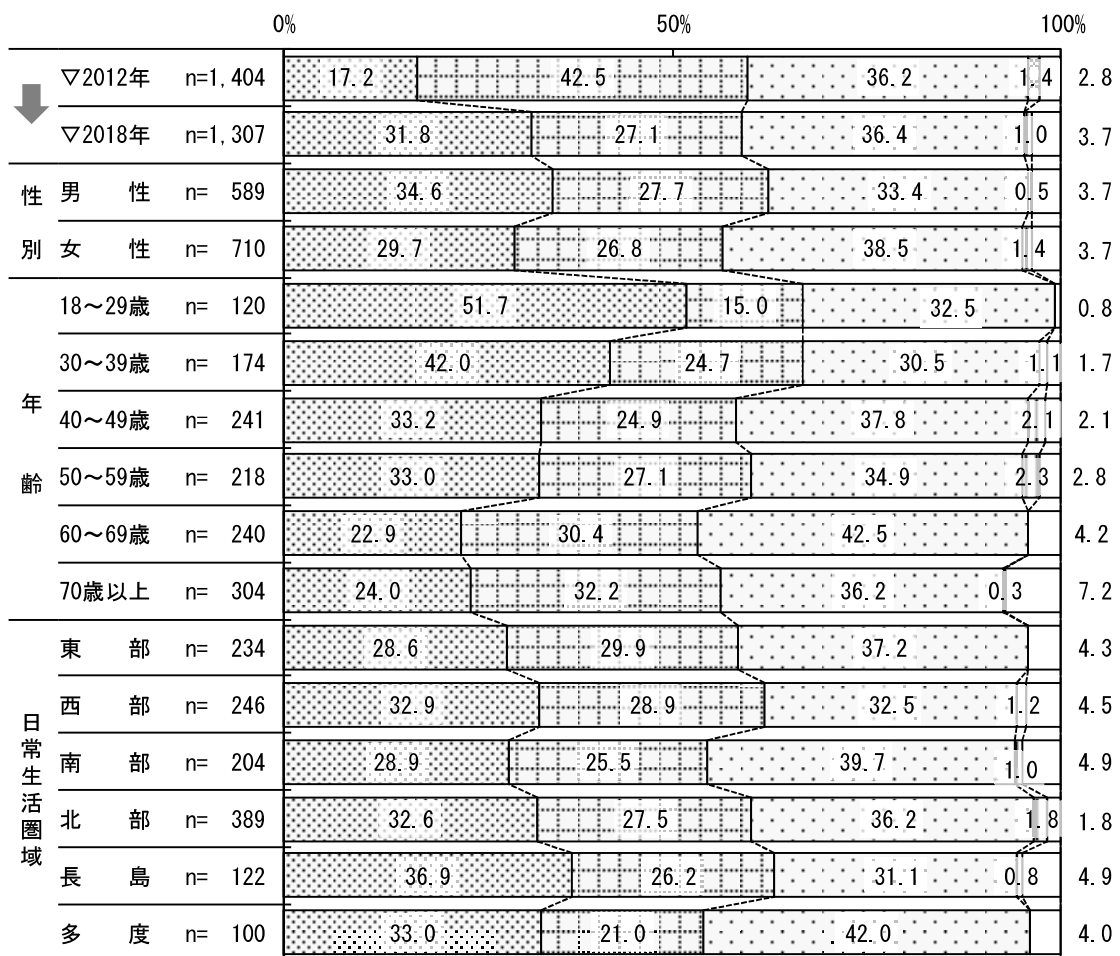
図表 1-48 次の時代に伝えたい地域の行事等があるか



(15) プライバシーの取り扱いについて

「プライバシーの取り扱いについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください」という設問では、「福祉の支援や災害への対処に必要な情報は共有すべきである」が36.4%と最も高く、次いで「いかなる理由があっても保護されなければならない」が31.8%、「隣近所の付き合いに必要な程度の情報であれば知られてもかまわない」が27.1%でした。年齢別にみると、若い年齢層ほど「いかなる理由があっても保護されなければならない」が高くなっています。

図表 1-49 プライバシーの取り扱いについて



- ☒ いかなる理由があっても保護されなければならない
☒ 隣近所の付き合いに必要な程度であれば知られてもかまわない
☐ 福祉の支援や災害への対処に必要な情報は地域で共有すべきである
☒ その他
☐ わからない
☐ 無回答

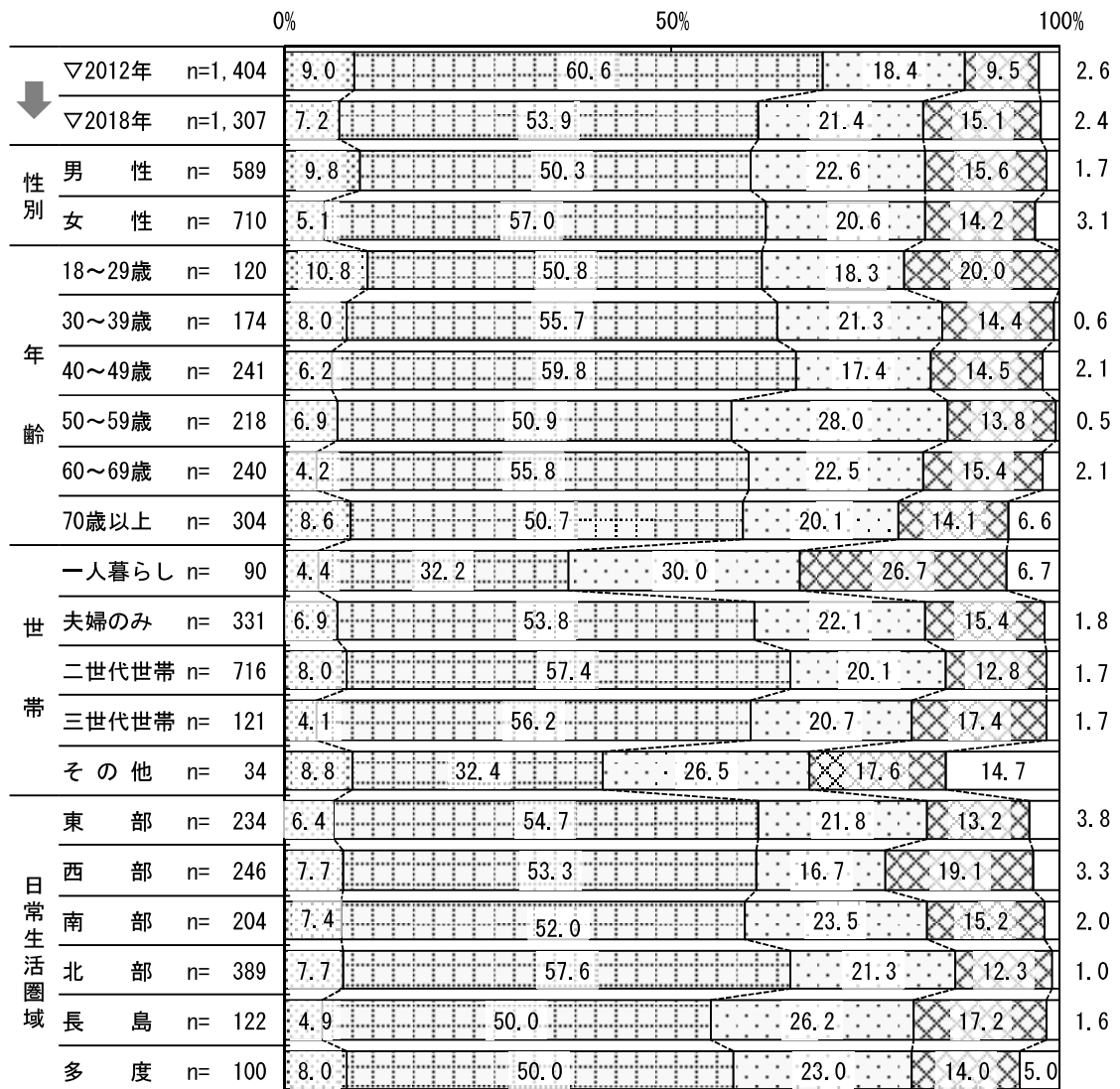
※2012年の選択肢には「わからない」が、2018年の選択肢には「その他」がありません。

5 福祉・介護の考え方等について

(1) 家族に介護が必要になった場合の希望

「仮にあなたの家族に介護が必要となったとき（介護をしている場合も含む）、どのようにしたいと思いますか」という設問では、「自宅で訪問介護、通所介護、短期入所などを活用しながら介護したい」が53.9%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設や病院などに入所（入院）させたい」が21.4%となっています。過去の調査との比較では、〈居宅サービス〉が低下し〈施設サービス〉が上昇しています。年齢別にみると、〈施設サービス〉が最も高いのは50～59歳ですが、その背景には、親の介護と仕事の両立などに現実問題として直面していることなどが考えられます。

図表 1-50 家族に介護が必要になった場合の希望

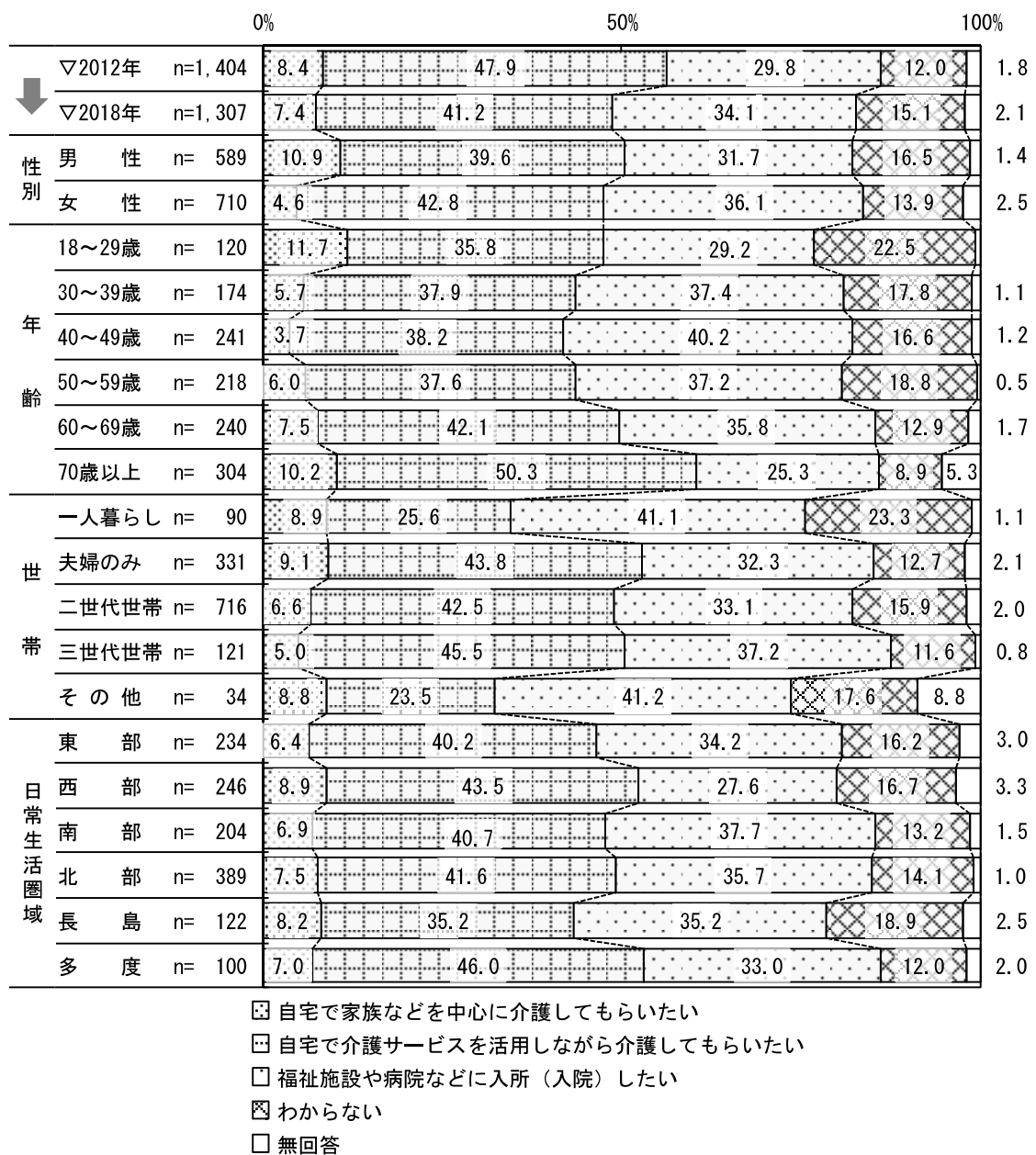


- ☐ 自宅で家族などを中心に介護したい ☐ 自宅で介護サービスを活用しながら介護したい
☐ 福祉施設や病院などに入所（入院）させたい ☒ わからない
☐ 無回答

(2) 自分に介護が必要になった場合の希望

「仮にあなたに介護が必要となったとき（介護を受けている場合も含む）、どのようにしたいと思いますか」という設問では、前項の家族の場合と同様に「自宅で訪問介護、通所介護、短期入所などを活用しながら介護してもらいたい」が41.2%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設や病院などに入所（入院）したい」が34.1%となっています。ただし、(1)の家族の場合に比べ〈居宅サービス〉が低く、〈施設サービス〉が高くなっています。過去の調査との比較では、〈居宅サービス〉が低下し、〈施設サービス〉が上昇しています。

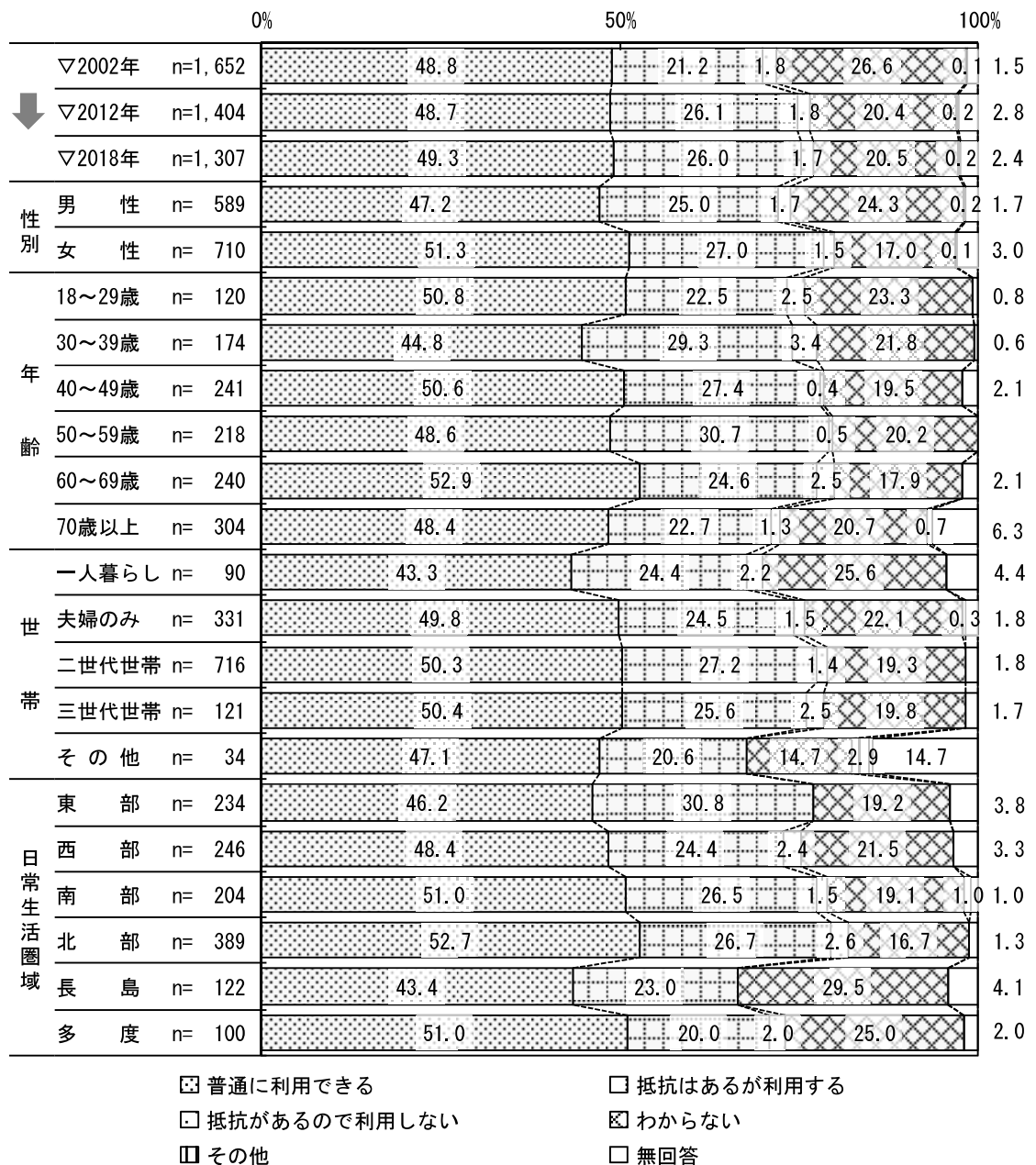
図表 1-51 自分に介護が必要になった場合の希望



(3) 福祉サービスに対する抵抗感

「あなたや家族がホームヘルプサービスなどの福祉サービスを必要としたとき、抵抗なく利用することができますか」という設問では、「普通に利用できる」が49.3%と最も高く、「抵抗はあるが利用する」（26.0%）との合計〈利用する〉は75.3%となります。過去の調査との比較では、回を追うごとに〈利用する〉は上昇しています。世帯別にみると、一人暮らし及び夫婦のみの〈利用する〉が若干低くなっています。

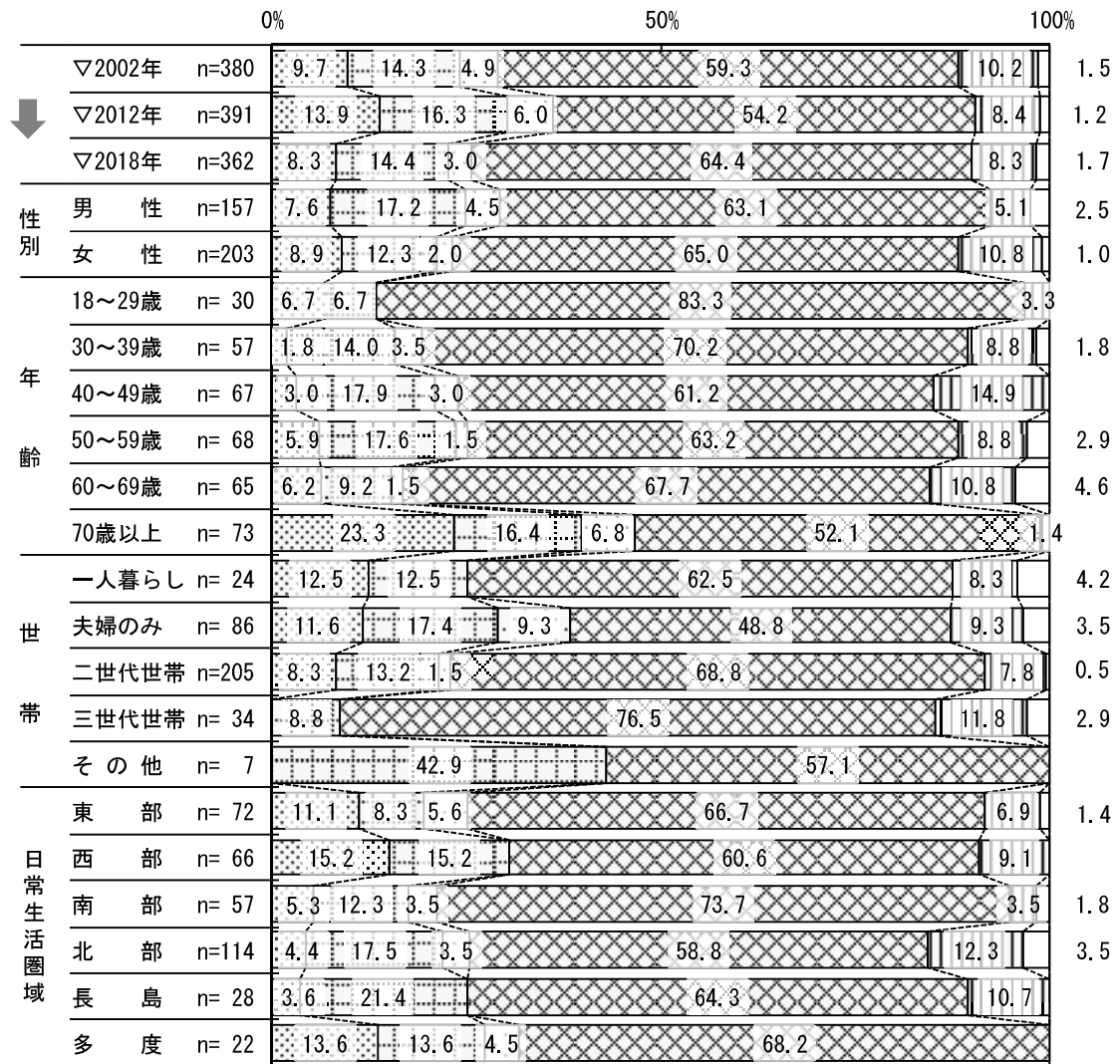
図表 1-52 福祉サービスに対する抵抗感



(4) 福祉サービスに抵抗を感じる理由

福祉サービスの利用に対して「抵抗はあるが利用する」または「抵抗があるので利用しない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「経済的な負担が心配」が64.4%を占めています。次いで「親族などへの気兼ねがある」が14.4%あります。過去の調査との比較では、「行政～」「親族～」「隣近所～」などへの「気兼ねがある」が低くなった反面、「経済的な負担が心配」が高くなっています。

図表 1-53 福祉サービスに抵抗を感じる理由



- ☒ 行政などの世話になることに対する気兼ねがある
- ☒ 親族などへの気兼ねがある
- ☐ 隣近所への気兼ねがある
- ☒ 経済的な負担が心配
- ☐ その他
- ☐ 無回答

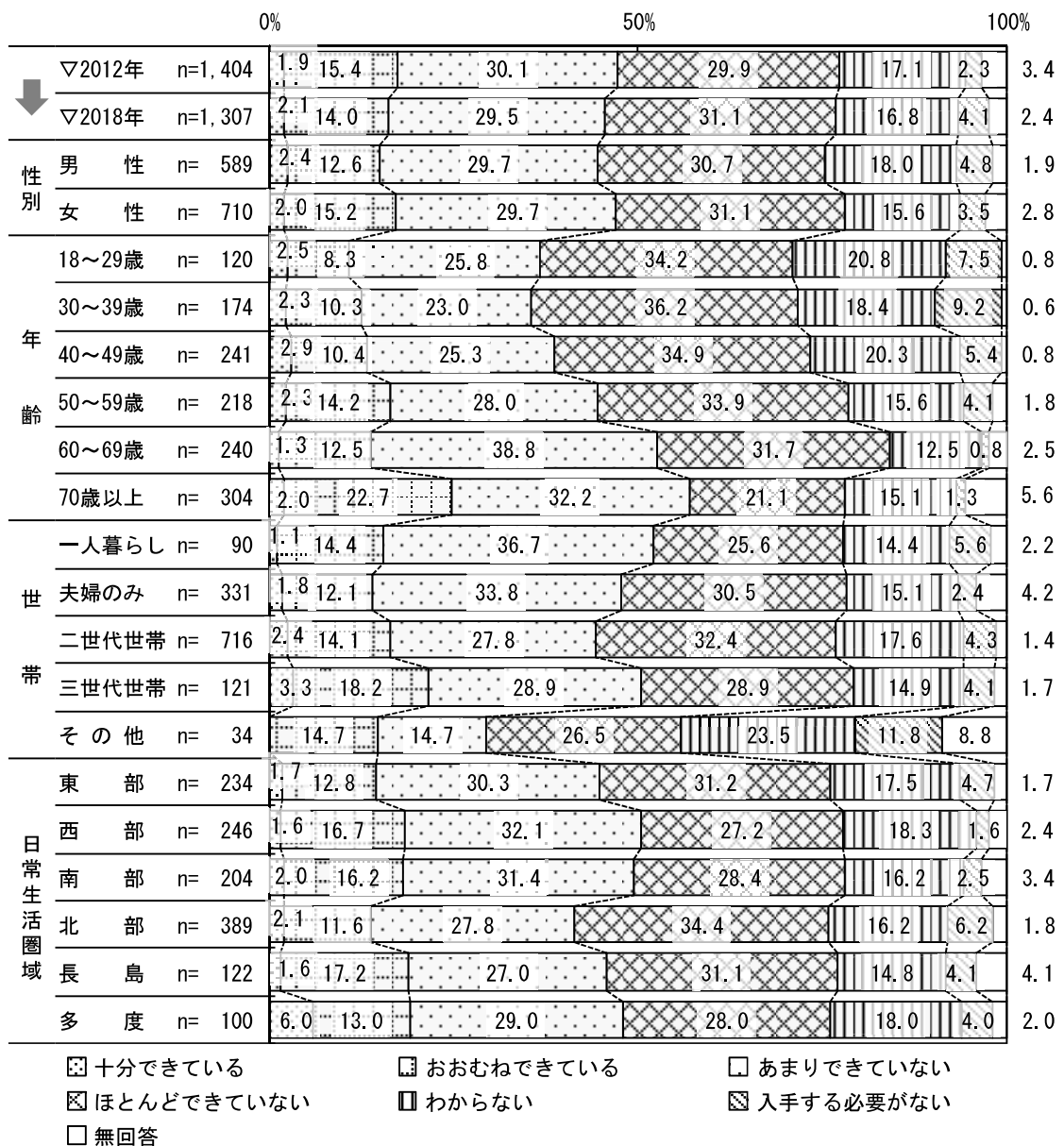
6 福祉に関する情報や相談について

(1) 福祉サービスに関する情報の入手

「必要な福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると思いますか」という設問では、「ほとんどできていない」が31.1%と最も高く、次いで「あまりできていない」が29.5%となっており、これらの合計〈できていない〉が60%以上を占めています。「十分できている」(2.1%)と「おおむねできている」(14.0%)の合計〈できている〉は16.1%となっています。

年齢別にみると、70歳以上では〈できている〉が20%を超え若干高くなりますが、〈できていない〉も50%を超えています。

図表 1-54 福祉サービスに関する情報の入手

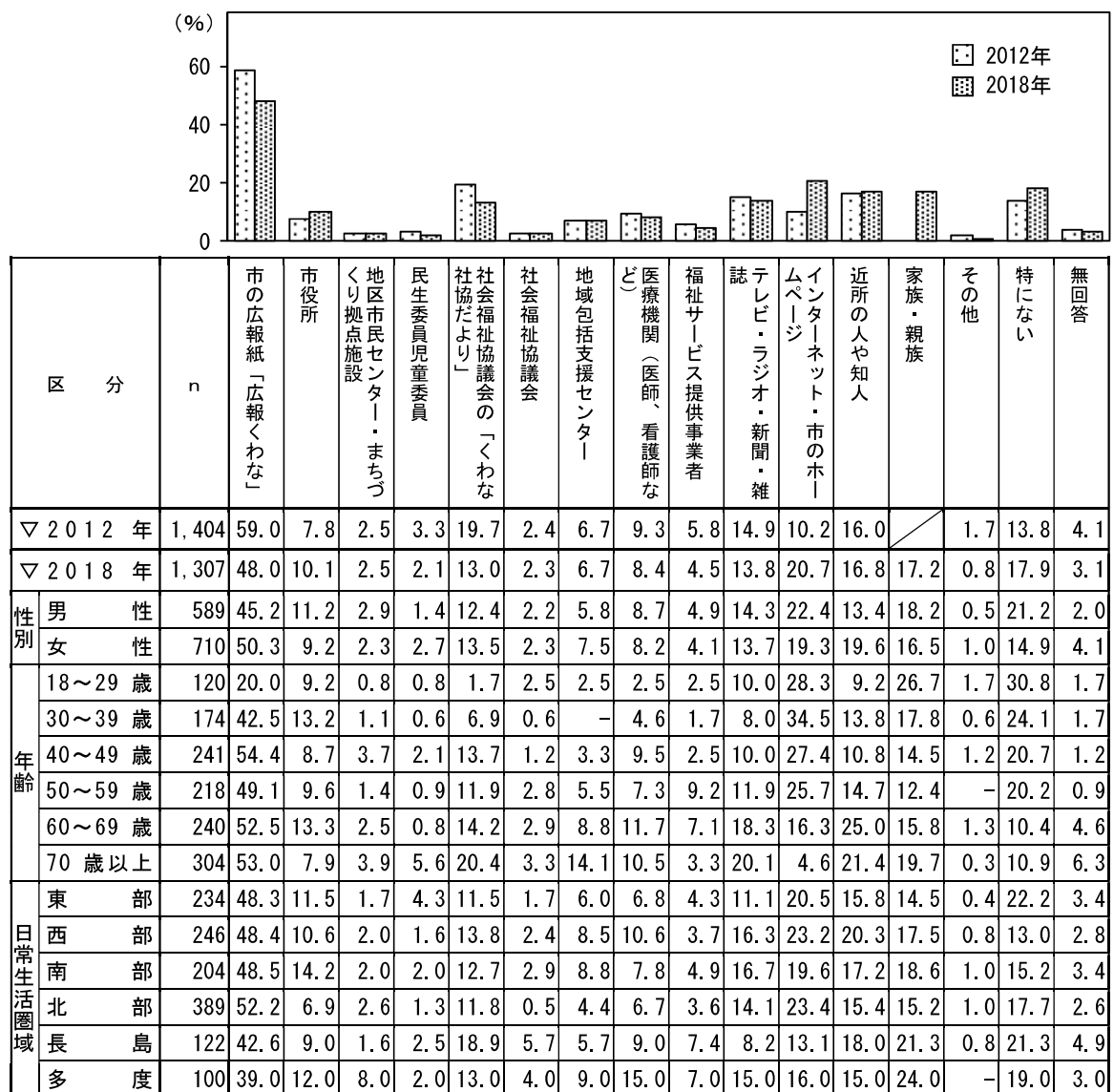


(2) 福祉サービスに関する情報の入手先

「福祉サービスに関する情報を主にどこから入手していますか」という設問では、「市の広報紙『広報くわな』」が48.0%と最も高く、次いで「インターネット・市のホームページ」が20.7%などとなっています。過去の調査との比較では、「市の広報紙『広報くわな』」などが低下している反面、「インターネット・市のホームページ」が大幅に上昇しています。年齢別にみると、60歳未満の各年齢層では「インターネット・市のホームページ」が25%を超えています。

図表 1-55 福祉サービスに関する情報の入手先（複数回答）

単位：％（nは人）



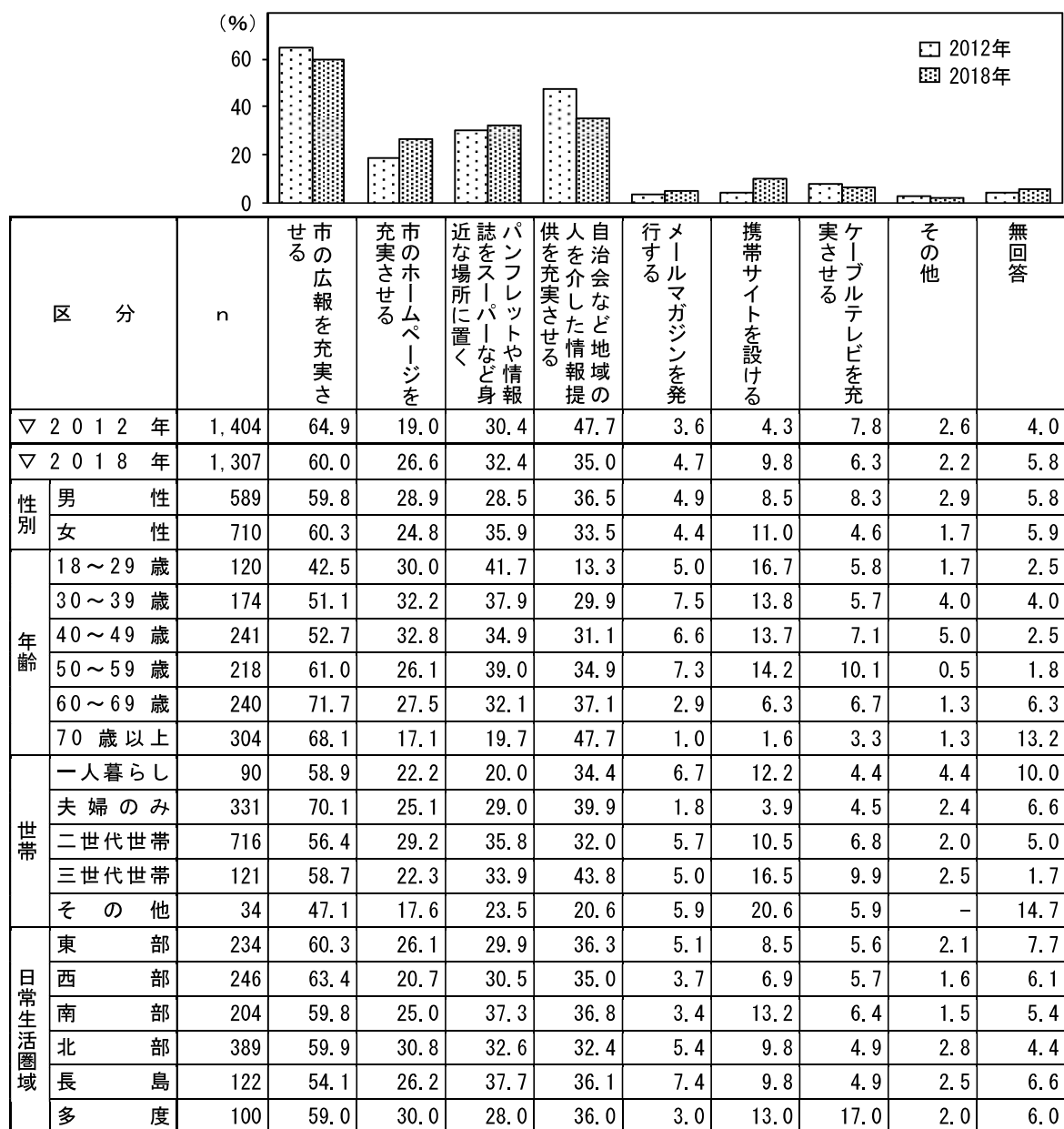
※2012年の「地区市民センター・まちづくり拠点施設」は「総合支所」です。

(3) 福祉サービス情報の提供方法

「市の福祉サービスに関する情報提供についてどのようにしたら必要な人に届くと思われますか」という設問に対しては、「市の広報を充実させる」が60.0%と最も高く、次いで「自治会など地域の人を介した情報提供を充実させる」が35.0%、「パンフレットや情報誌をスーパーなど身近な場所に置く」が32.4、「市のホームページを充実させる」が26.6%などとなっています。年齢別にみると、年齢が上がるにしたがい「市の広報を充実させる」及び「自治会など地域の人を介した情報提供を充実させる」が高くなる一方、「パンフレットや情報誌をスーパーなど身近な場所に置く」「メールマガジンを発行する」「携帯サイトを設ける」などは低くなる傾向にあります。

図表 1-56 福祉サービス情報の提供方法（複数回答）

単位：％（nは人）

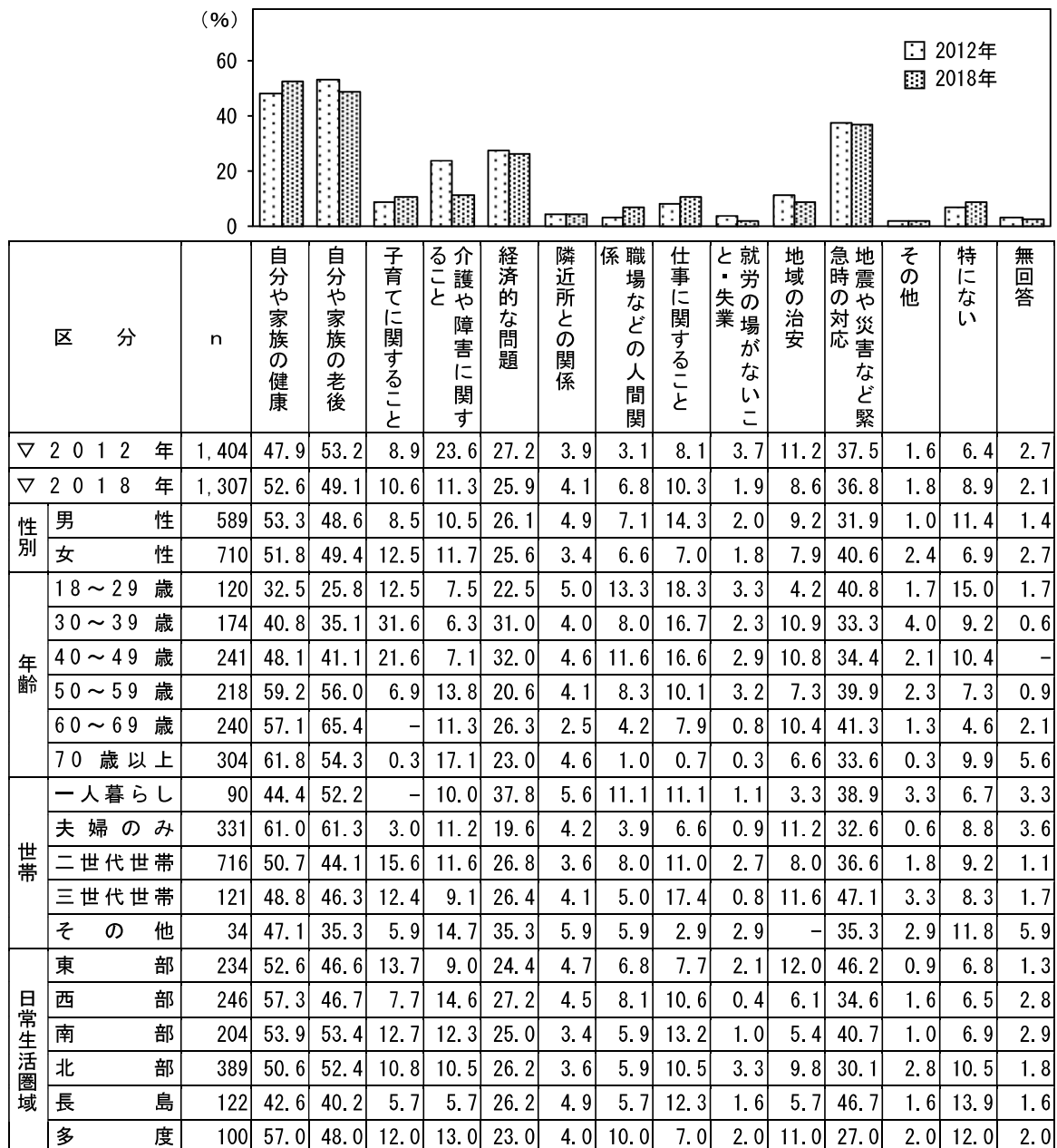


(4) 悩みや不安

「日々の生活においてどのような悩みや不安を感じていますか」という設問では、「自分や家族の健康」が52.6%と最も高く、次いで「自分や家族の老後」が49.1%、「地震や災害など緊急時の対応」が36.8%などとなっています。年齢別にみると、各年齢層とも上位3項目は変わりませんが、30～39歳の「子育てに関すること」及び「経済的な問題」、40～49歳の「経済的な問題」も30%を超える高い率となっています。

図表1-57 悩みや不安（複数回答）

単位：％（nは人）

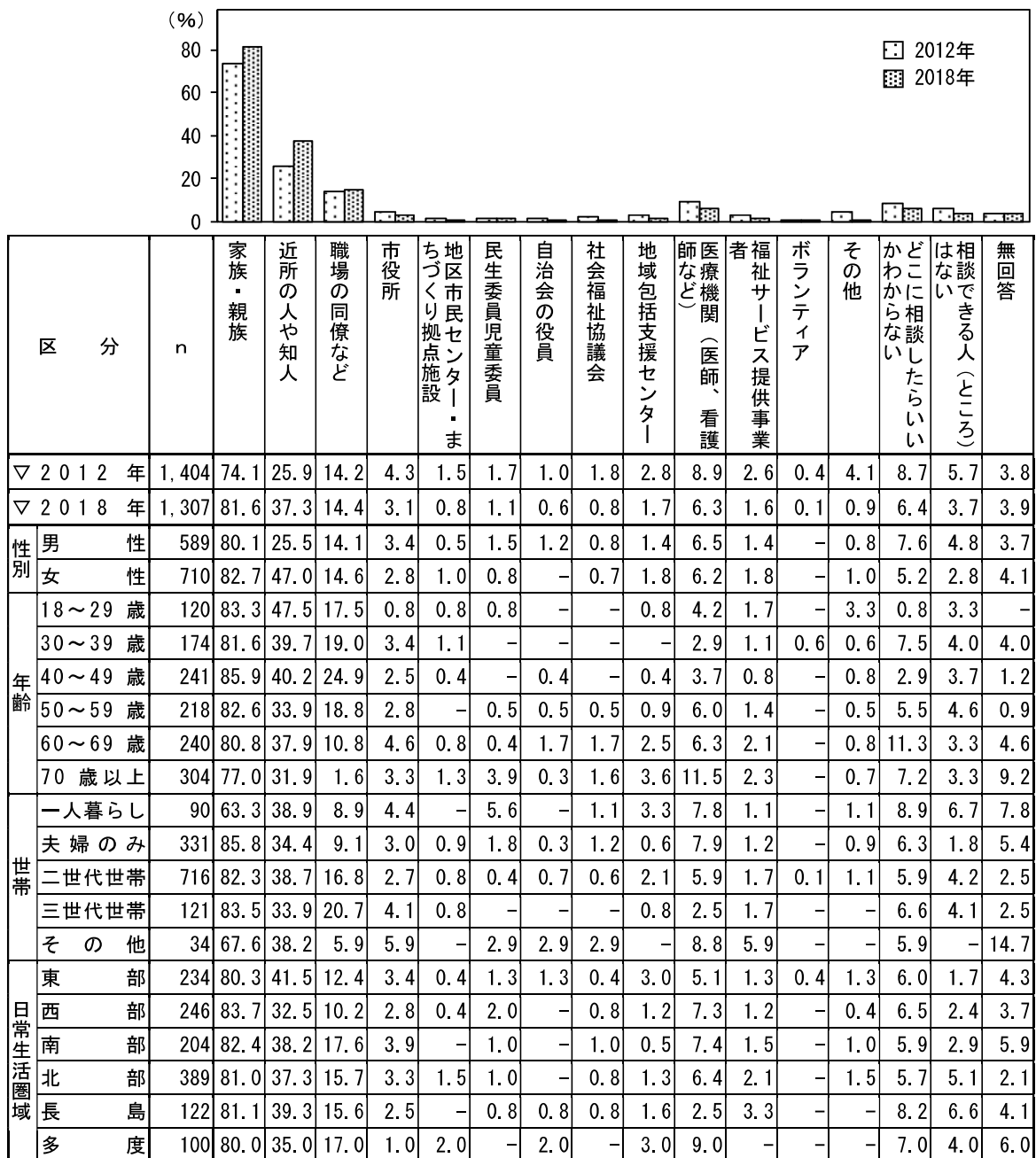


(5) 悩みや不安の相談相手

「悩みや不安について誰に（どこに）相談していますか」という設問では、「家族・親族」が81.6%と最も高く、次いで「近所の人や知人」が37.3%となっています。相談機関や専門機関では「医療機関」が6.3%ですが、その他の項目は5%未満です。なお、「どこに相談したらいいかわからない」が6.4%、「相談できる人（ところ）はない」が3.7%あります。

図表 1-58 悩みや不安の相談相手（複数回答）

単位：％（nは人）

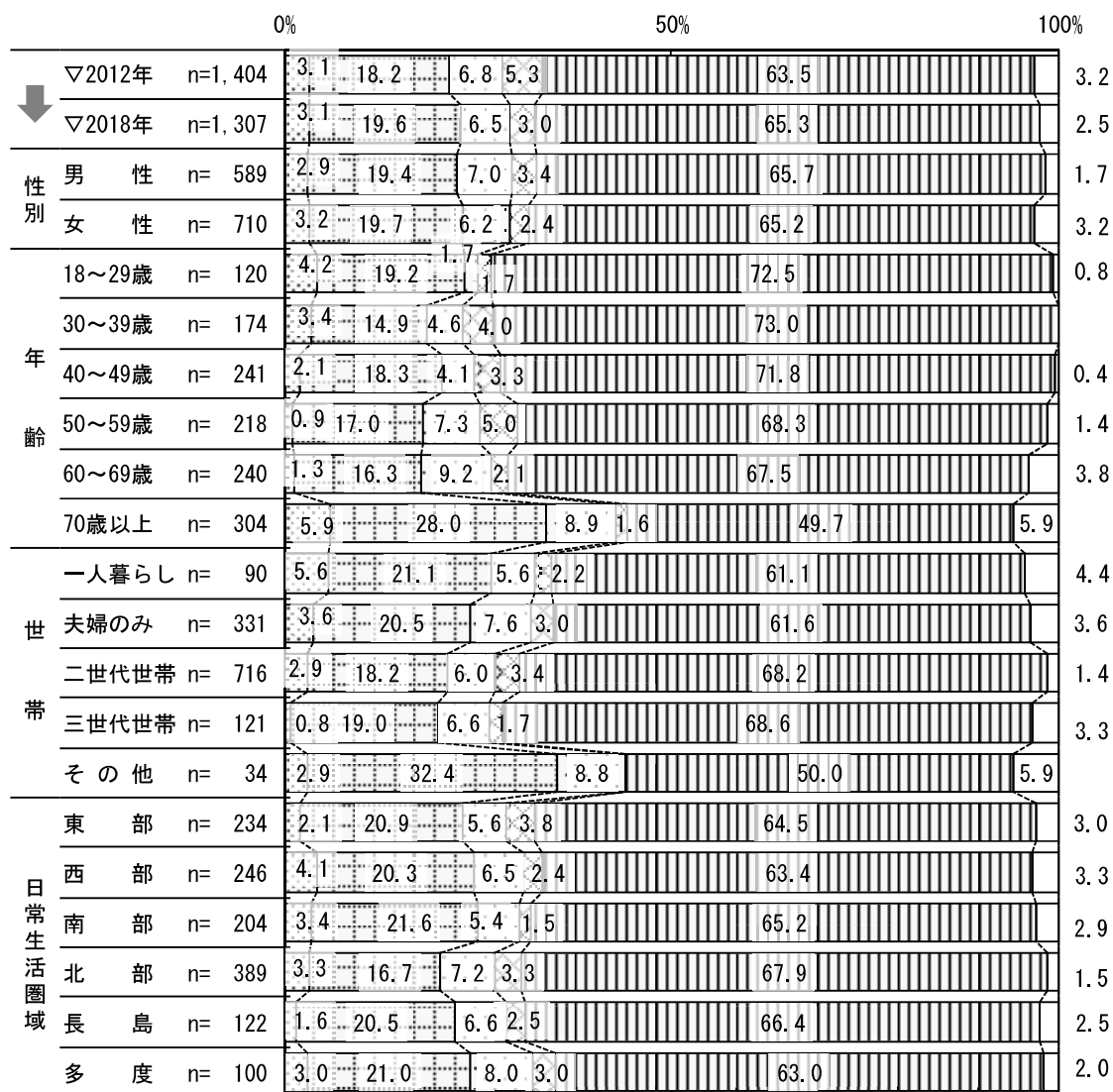


※2012年の「地区市民センター・まちづくり拠点施設」は「総合支所」です。

(6) 相談支援体制の満足度

「市の窓口や社会福祉協議会、地域の民生委員児童委員など現在の相談支援体制に満足していますか」という設問では、「わからない」が65.3%を占めていますが、「満足している」(3.1%)と「おおむね満足している」(19.6%)の合計〈満足〉は22.7%、「不満」(3.0%)と「やや不満」(6.5%)の合計〈不満〉は9.5%です。年齢別にみると、若年齢層ほど「わからない」が高くなる傾向にあります。また、70歳以上では〈満足〉が33.9%と他の年齢層に比べ高くなっています。

図表 1-59 相談支援体制の満足度



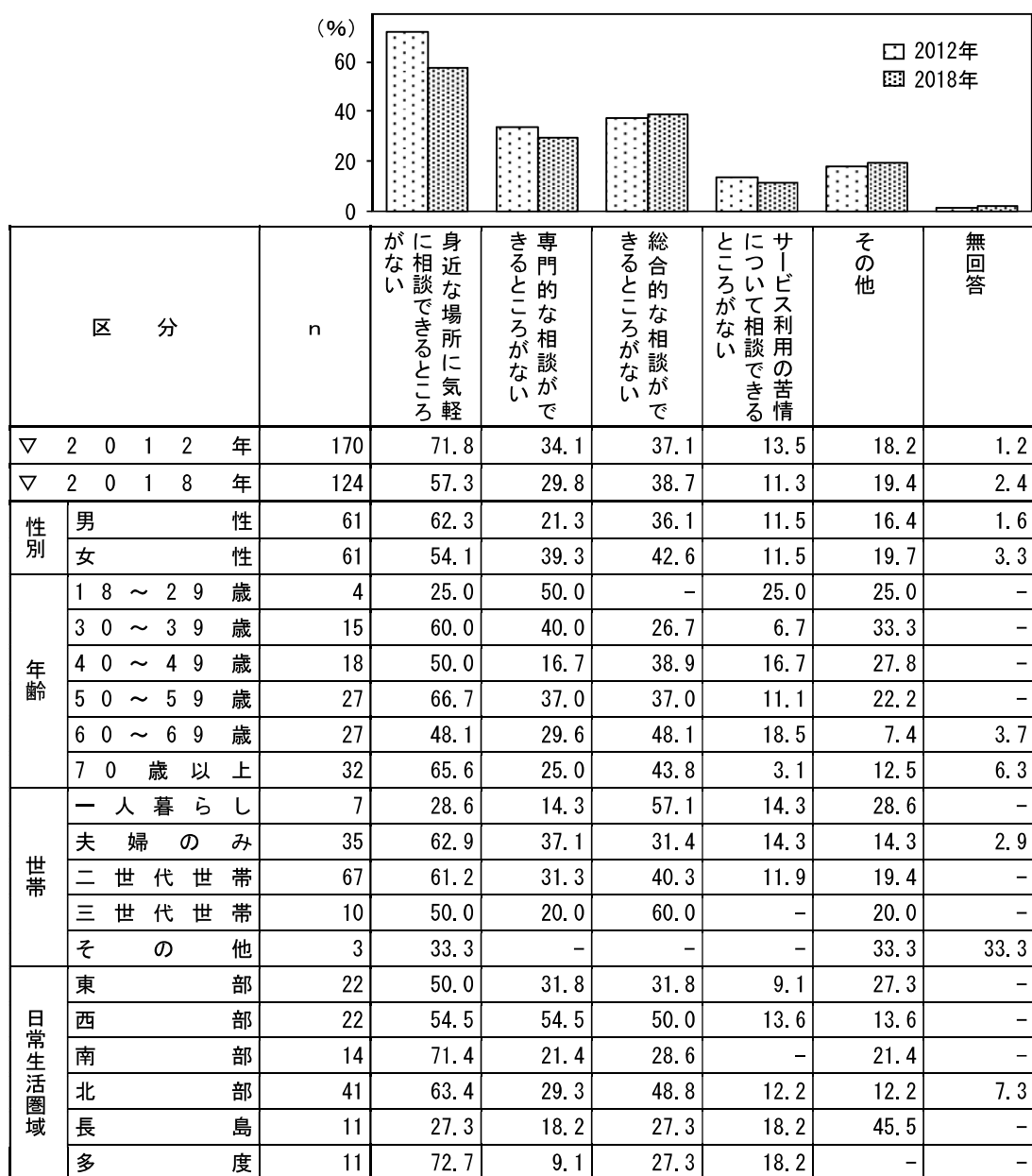
☒ 満足している
 ☒ おおむね満足している
 ☐ やや不満
 ☒ 不満
 ☐ わからない
 ☐ 無回答

(7) 相談支援体制について不満な理由

相談支援体制の満足度で「やや不満」または「不満」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「身近な場所に気軽に相談できるところがない」が57.3%と最も高く、次いで「総合的な相談ができるところがない」(38.7%)、「専門的な相談ができるところがない」(29.8%)の順となっています。過去の調査との比較では、「身近な場所に気軽に相談できるところがない」が大幅に低下しています。日常生活圏域別では南部及び多度において「身近な場所に気軽に相談できるところがない」が70%を超える高い率となっています。

図表1-60 相談支援体制について不満な理由

単位：％（nは人）

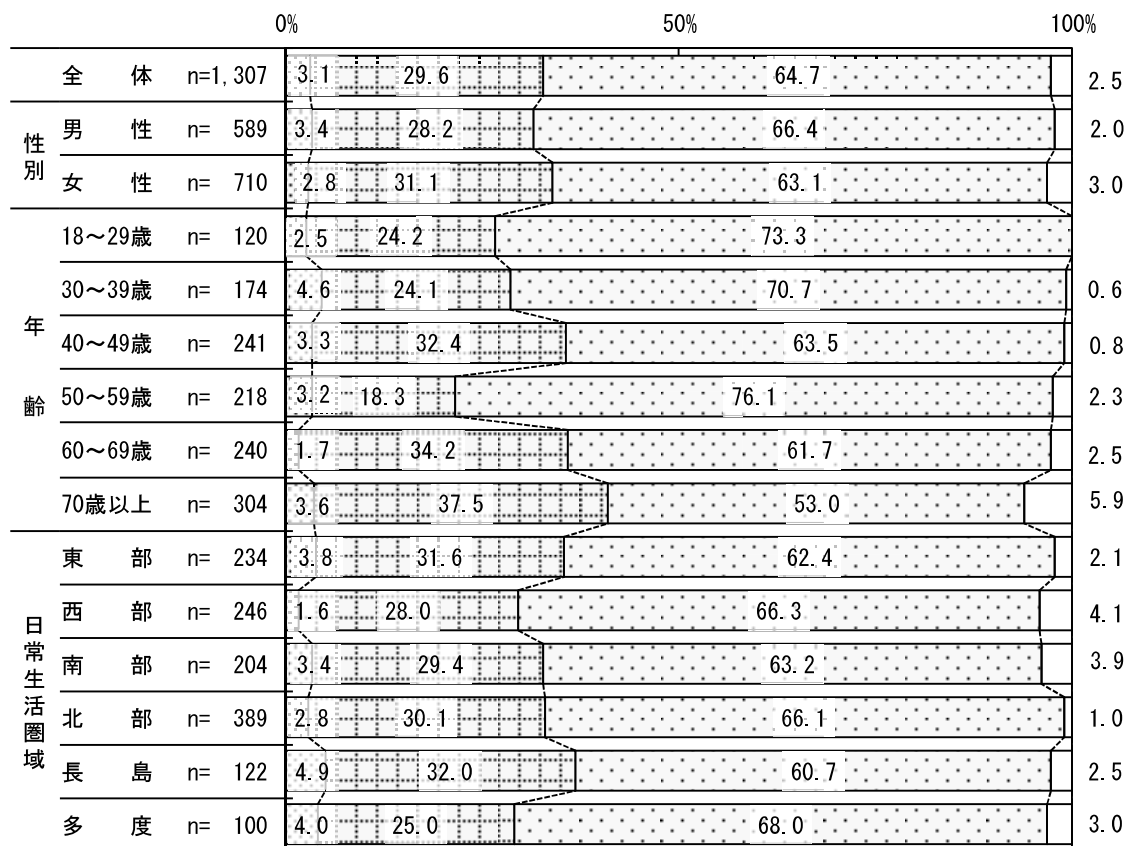


7 生活困窮者の自立支援について

(1) 生活困窮者自立支援制度の認知度

「家計、住居、仕事、子どもの学習環境など、生活に困難な状況にある人の自立を支援する生活困窮者自立支援制度が平成27年4月からはじまりました。あなたはこの制度を知っていましたか。」という設問では、「知らない」が64.7%を占めており、「知っている（内容も）」が3.1%、「聞いたことはあるが内容まではよくわからない」が29.6%となっています。

図表 1-61 生活困窮者自立支援制度の認知度



■ 知っている（内容も）

■ 聞いたことはあるが内容まではよくわからない

■ 知らない

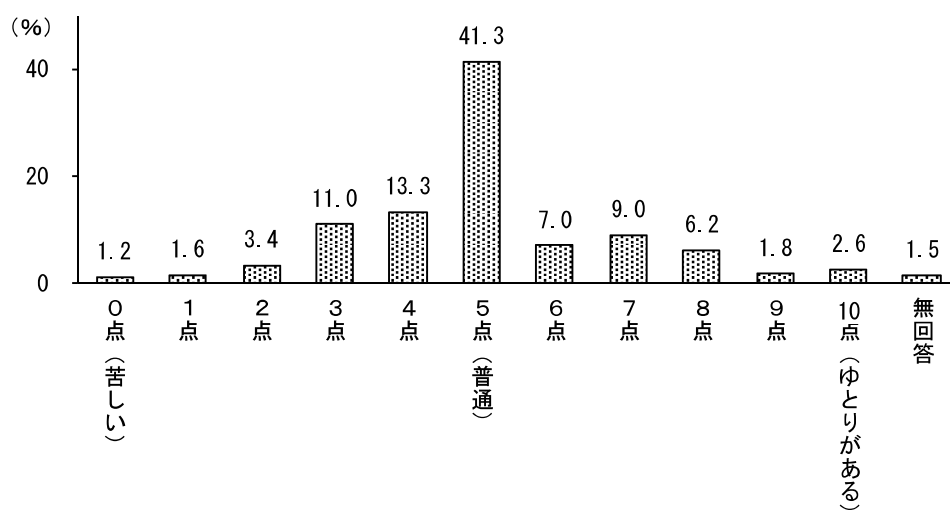
□ 無回答

(2) 家計状況

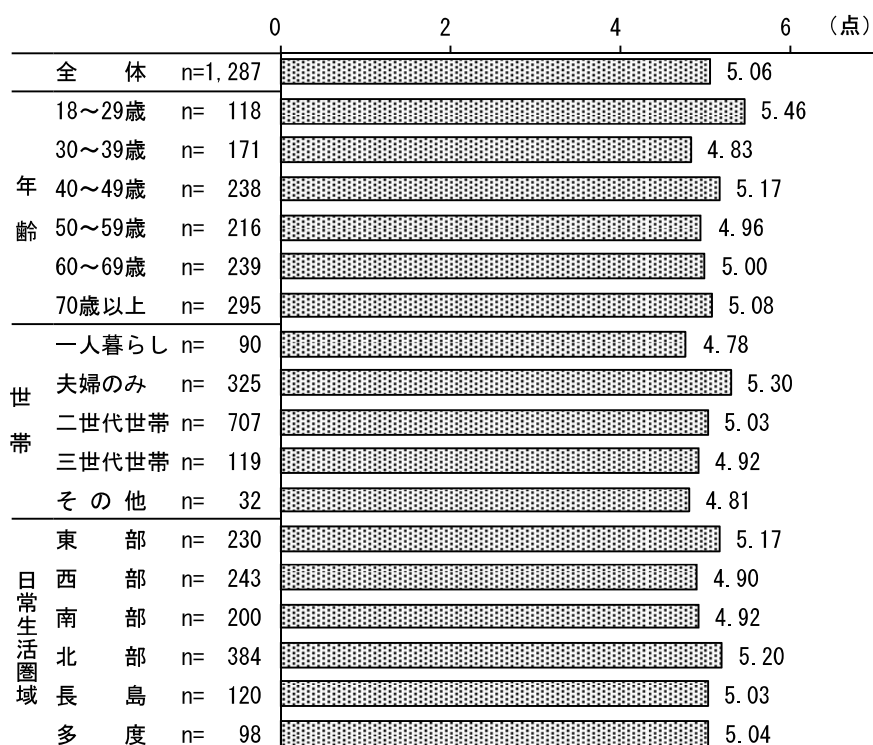
「あなたの家庭の家計状況について、『ゆとりがある』を10点、『苦しい』を0点とすると、何点くらいになると思いますか」という設問では、「普通」の5点が41.3%を占めており、次いで4点が13.3%などとなっています。

平均点をみると、全体では5.06点です。属性別にみて最も低いのは、年齢別では30～39歳の4.83点、世帯状況別では一人暮らしの4.78点、日常生活圏域別では西部の4.90点です。

図表 1-62 家計状況



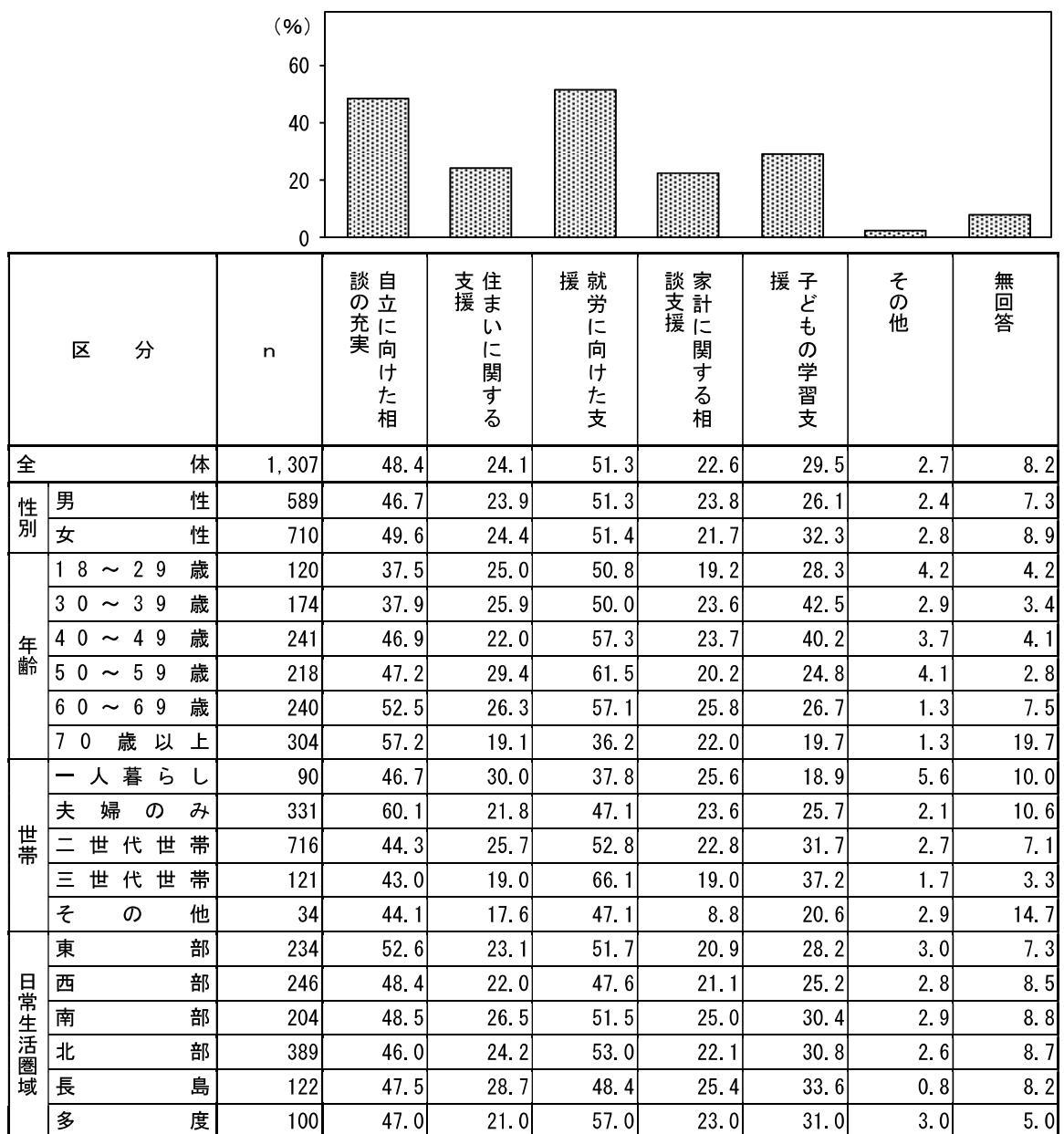
図表 1-63 家計状況の平均点



(3) 生活困窮者の自立支援についての取組

「生活困窮者の自立支援について桑名市がどのような取組に力を入れるべきだと思いますか」という設問では、「就労に向けた支援」が51.3%と最も高く、次いで「自立に向けた相談の充実」が48.4%となっています。年齢別にみると、70歳未満は「就労に向けた支援」が最も高く、70歳以上は「自立に向けた相談の充実」が最も高くなっています。30～39歳及び40～49歳は「子どもの学習支援」が40%を超えており、他の年齢層に比べて10ポイント以上高くなっています。

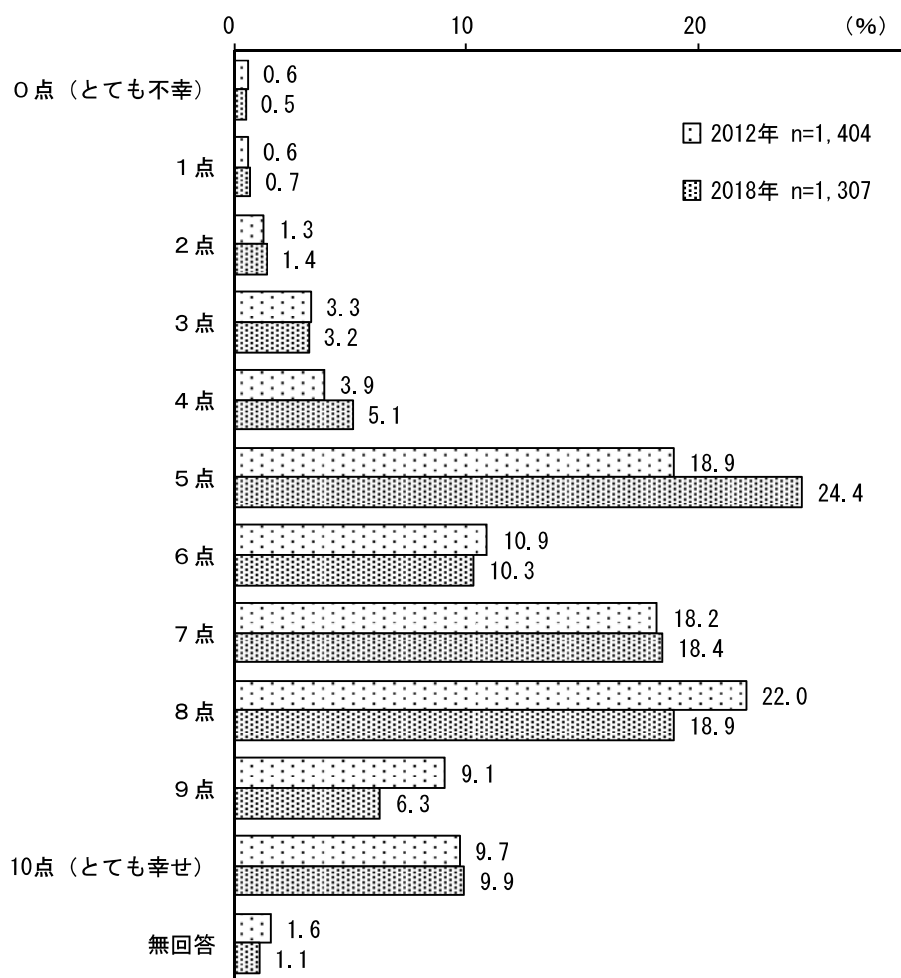
図表 1-64 生活困窮者の自立支援についての取組



8 幸福感について

「現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。」という設問では、5点と回答した人が24.4%と最も高く、次いで8点（18.9%）、7点（18.4%）の順となっています。過去の調査との比較では、5点が5ポイント以上上昇した反面、8点及び9点が3ポイント前後低下しています。

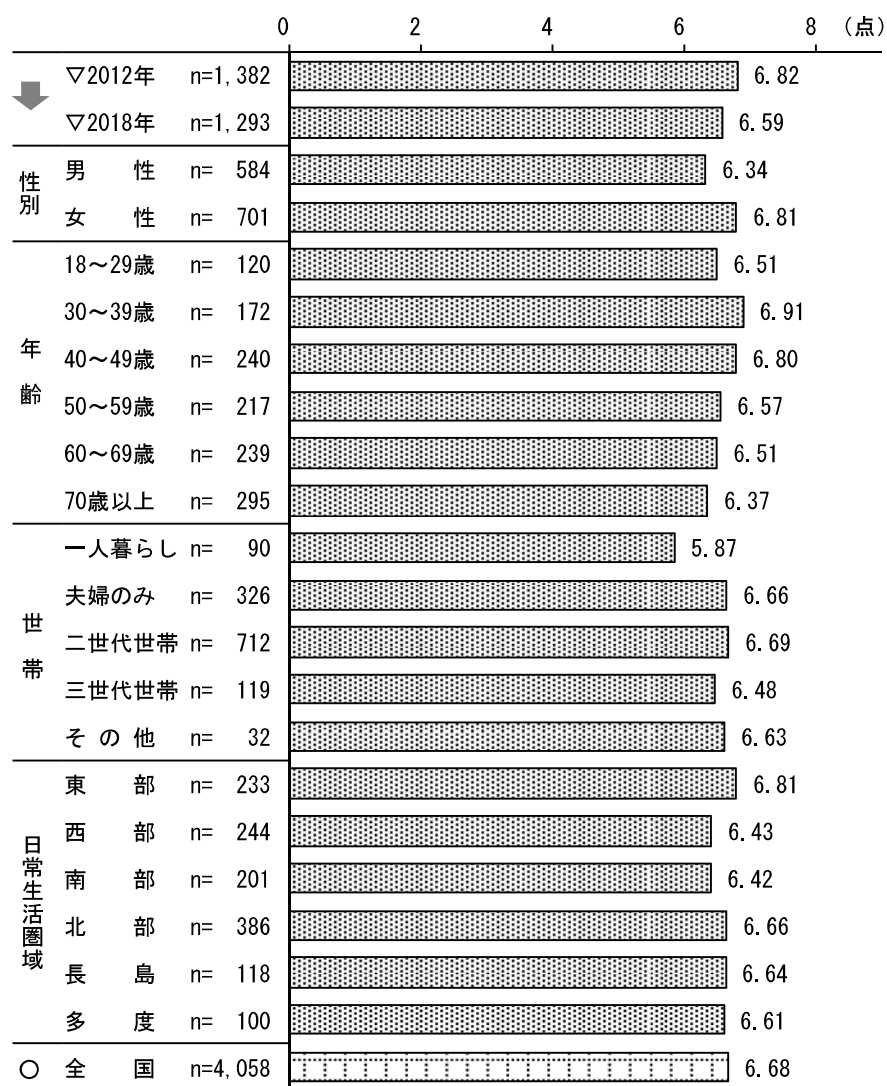
図表1-65 幸福感



平均点は6.59点で、過去の調査との比較では0.23点低くなっています。性別にみると女性が6.81点と男性を0.47点上回っています。その他の属性別に最も高いのをみると、年齢別では30～39歳の6.91点、世帯状況別では二世世代世帯の6.69点、日常生活圏域別では東部の6.81点です。一方、最も低いのは、年齢別では70歳以上の6.37点、世帯状況別では一人暮らしの5.87点、日常生活圏域別では南部の6.42点です。

なお、生活の質に関する調査（平成25年／内閣府経済社会総合研究所）によると、全国の平均は6.68点となっています。

図表 1－66 幸福感の平均値



第 2 章 中学生調査

1 調査対象者の属性等

(1) 性別

図表2-1 性別

n	男性	女性	その他	無回答
1,227	47.6	51.1	1.1	0.2

(2) 家族構成（世帯）

図表2-2 家族構成（世帯）

n	二世 代世帯	三世 代世帯	その他	無 回答
1,227	79.5	17.2	2.8	0.6

(3) 居住地域

図表2-3 居住地域

n	日進地区	精義地区	立教地区	城東地区	益世地区	修徳地区	大成地区	大和地区	桑部地区	在良地区	七和地区	深谷地区	久米地区	城南地区	筒尾地区
1, 227	3. 8	2. 4	1. 2	0. 7	4. 7	4. 0	5. 1	1. 5	3. 3	5. 1	5. 1	2. 4	5. 1	4. 8	1. 9
松ノ木地区	大山田地区	野田地区	藤が丘地区	星見ヶ丘地区	新西方地区	陽だまりの丘地区	多度中地区	多度東地区	多度南地区	多度西地区	多度北地区	長島北部地区	長島中部地区	長島伊曽島地区	無回答
2. 4	2. 6	1. 2	2. 3	6. 5	2. 5	11. 6	6. 0	0. 8	0. 6	0. 2	1. 0	2. 5	5. 9	2. 0	1. 1

2 地域の人との関わりや地域の課題

(1) 近所の人にあいさつをするか

図表 2-4 近所の人にあいさつをするか

n	自分から進んでしている	時々している	相手があいさつした時はしている	あいさつはしない	無回答
1,227	38.1	42.1	16.1	3.4	0.3

図表 2-5 あいさつをしない理由

n	恥ずかしいから	面倒だから	その他	無回答
42	19.0	47.6	31.0	2.4

(2) 近所の人に助けられたこと

図表 2-6 近所の人に助けられたことがあるか

n	ある	ない	無回答
1,227	27.9	70.0	2.1

(3) 学校行事に地域の人たちが参加することについて

図表 2-7 学校行事に地域の人たちが参加することについて

n	いいことだと思う	ややいいことだと思う	どちらともいえない	あまりいいことだと思わない	いいことだと思わない	無回答
1,227	65.9	15.9	15.2	1.3	1.0	0.7

(4) 地域の課題

図表 2-8 地域の課題(複数回答)

n	地域の人の助け合いが少ないこと	子どもと高齢者など異なる世代の交流が少ないこと	子どもと高齢者など異なる世代の文化が失われつつあること	公園など子どもの遊び場が少ないこと	障がいのある人への支援が十分でないこと	一人暮らし高齢者などが地域で孤立していること	家で高齢者の介護が十分にできないこと	中高生が集まれる場所や機会が少ないこと	学校を卒業してから就職する場所が少ないこと	近くに大学や専門学校などが少ないこと	住んでいる地域をきれいにしようという意識が低いこと	治安がよくないこと・交通事故が多いこと	地震や災害に対する備えが悪いこと	その他	無回答
1,227	12.2	21.8	5.1	26.8	4.6	5.5	2.0	33.3	11.9	33.3	13.9	5.2	14.7	5.1	7.2

3 ボランティア活動

(1) ボランティア活動への参加

① 参加状況

図表2-9 ボランティア活動への参加

n	現在参加している	以前に参加したことがある	参加したことがない	無回答
1,227	3.5	34.0	61.9	0.6

② 活動内容

図表2-10 参加した活動の内容（複数回答）

n	地域の清掃、ゴミ拾いなどの環境美化活動	高齢者や障がいのある人への支援	募金活動	福祉施設などでの手伝いや話し相手	地域の祭りやイベントの手伝い	その他	無回答
460	76.5	2.6	15.9	5.0	23.7	4.3	2.2

③ ボランティア活動を通じて得たこと

図表2-11 ボランティア活動を通じて得たこと（複数回答）

n	地域の人とのつながりができた	同じ考え方の仲間ができた	地域・社会に役立つことができた	知識や技術が豊富になった	達成感・充実感を味わえた	自分自身の成長につながった	その他	特に得たものはない	無回答
460	30.0	3.7	32.8	11.5	35.0	24.3	1.7	13.5	8.9

(2) ボランティア活動への参加意向

図表2-12 ボランティア活動への参加意向

n	ぜひ参加したい	友人などが一緒なら参加したい	時間ができたら参加したい	機会があつたら参加したい	参加できない	参加したくない	無回答
1,227	11.3	30.8	20.0	22.3	3.7	11.6	0.2

4 桑名市について

(1) 桑名市に住みたいか

図表 2-13 桑名市に住みたいか

n	住 み 続 け たい	一 度 は 外 に 出 て も い つ か は 戻 り たい	将 来 は 別 の 場 所 で 暮 ら し たい	わ か ら ない	無 回 答
1, 227	11. 5	26. 8	26. 6	33. 8	1. 3

(2) 地域のあり方

図表 2-14 どのような地域のあり方が大切だと思うか

n	自治会活動やボランティア活動が活発であること	子どもから高齢者まで世代間の交流が活発であること	隣近所をはじめ住民同士の交流が盛んであること	誰もが担い手として活躍できること	災害時などに助け合えること	住民が地域に愛着を感じ、地域の環境や伝統を大切にすること	住民の誰もが気軽に利用できる居場所・拠点があること	その他	無回答
1, 227	23. 5	24. 6	24. 5	23. 7	51. 3	20. 2	35. 0	2. 3	5. 1

(3) 地域に住み続けるために重要なこと

図表 2-15 地域に住み続けるために重要なこと

n	介 護 ・ 障 が い ・ 子 育 て 支 援 な ど の 福 祉 サ ー ビ ス の 充 実	働 く 場 の 確 保	買 物 な ど 日 常 生 活 の 便 利 さ	自 然 や 緑 の 保 存	歴 史 や 伝 統 の 保 存 ・ 継 承	安 全 な 道 路 の 整 備	医 療 機 関 や 施 設 の 整 備	そ の 他	無 回 答
1, 227	27. 9	39. 4	56. 9	38. 6	15. 2	42. 1	36. 8	1. 8	3. 8

(4) 地域のイベント・行事、風習等

図表 2-16 自慢できるもの、次の時代に伝えたいと思うものがあるか

n	あ る	な い	無 回 答
1, 227	30. 5	66. 0	3. 5

第2章 中学生調査

(5) 桑名市をどのようなまちにしたいか

図表2-17 桑名市をどのようなまちにしたいか

n	自然の豊かなまち	文化的なまち	工業の盛んなまち	商業の盛んなまち	福祉や保健が充実しているまち	観光のまち	スポーツが盛んなまち	その他	無回答
1,227	47.1	18.5	2.2	17.6	16.7	20.9	21.9	4.0	4.5